市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－①	青少年国際交流事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	町内の青少年リーダーを海外（ハワイ）へ派遣し、教育・文化・歴史産業などの視察研修、そして現地の学校への体験入学、ホームステイを実施する。研修を通して国際的視野を広め、国際化時代に対応しうる青少年リーダーの育成を図る。また、参加した青少年達に対して事後活動を定期的に行い、地域で自主的な活動を行えるようサポートする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,443	3,492	3,500		
	(b)予算現額	3,443	3,500	3,500		
	(c)増減額(b-a)	0	8	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	3,443	3,500	3,500		
B．執行済額		3,381	3,500	3,500		
うち交付金充当額		2,704	2,800	2,800		
次年度繰越額		-	-	-		
執行率（%）(B/A)		98.2%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。 活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
交流事業派遣生徒数：10名	目　標	(　10名　)	(　10名　)	(　10名　)	(　　)
	実　績	10名	10名	10名	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				
達成状況説明	本研修は１０日間の日程でハワイで実施した。研修生である中学生１０名は3日間のホームスティを体験しその後3日間のミドルスクールへの体験入学に参加した。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
研修後報告会の開催	目　標	(　1回　)	(　1回　)	(　1回　)	(　開催　)	(　1回　)
	実　績		1回	1回	1回	
報告会の実施などを通した参加者の意識向上を図る。	目　標	(　　)	(　-　)	(　-　)	意識向上を図る	(　　)
	実　績		-	-	意識向上を図った	
進捗状況説明	・報告会にて国際交流に参加した生徒の活動状況を多くの方に見て、感じてもらえた。 ・地域で活動できる人材として育成するため、研修後は、ジュニアリーダーとして活動する事になった。					

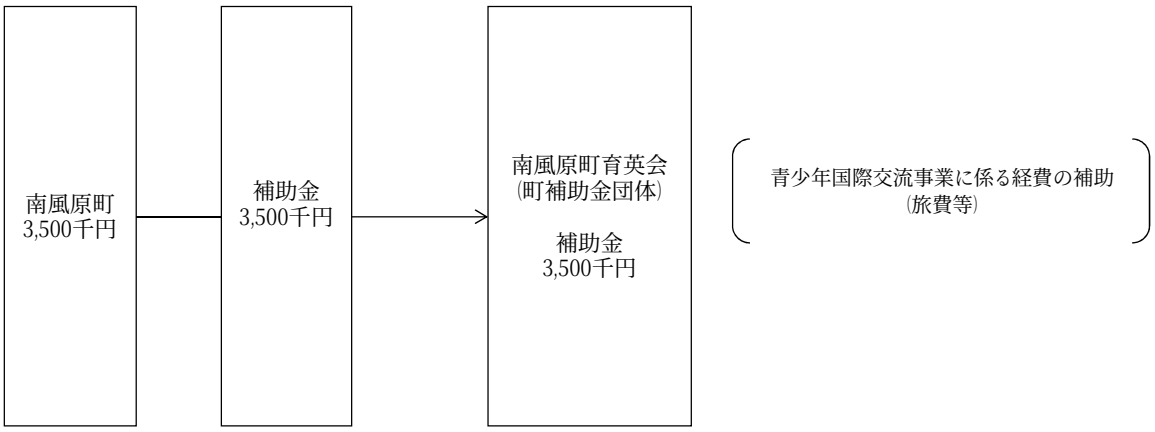
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本町は国際交流により、派遣した生徒が移民の歴史、海外の教育・文化・歴史産業、現地の方や県系人との関わりを学び、帰国後は、この経験を生かし青少年リーダーとして活動する役割も担っている。その一環として、今後はジュニアリーダーとしてこども会行事の運営に関わっていきながら、町内の小学生へ国際社会について伝えていく。しかし、研修後は、高校入試等のため当該年度中にジュニアリーダーとして活動ができなかった。	現地研修が始まる前からジュニアリーダーとして活動する機会づくりについて検討する。

今後の取り組み方針

現地研修が始まる前からジュニアリーダーとして活動することで、青少年リーダーとしての自覚を育てていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,500	3,500	2,800	700	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定は、南風原町補助金等交付規則に基づき南風原町育英会に対して行っており妥当である。 ・予算規模は、事業に必要な旅費、現地経費、謝礼金を要綱等や見積もりにより、支出しており適正な規模である。 ・受益者の負担については、南風原町青少年国際交流実施要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。経済的負担を緩和する事で経済的な理由で参加を断念する中学生にも事業参加の機会ができると期待される。 ・事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	小学校英語指導助手配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	小学生のうちから英会話にふれさせ、外国の言語や文化について興味を持たせ英語力を向上させるために、外国語に精通した日本人を各小学校に配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,800	7,200	7,200		
	(b)予算現額	4,800	7,200	7,200		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	4,800	7,200	7,200		
B．執行済額		4,800	7,200	7,087		
うち交付金充当額		3,840	5,760	5,669		
次年度繰越額		-	-	-		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	98.4%		
予算の状況の説明		小学校英語指導助手は、嘱託職員として採用しており、月15万円報酬(固定給)である。1名が産休退職で後任を中途任用したため、執行率が98.4%ととなった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
小学校英語指導助手配置数	目　標	(　4人　)	(　4人　)	(　4人　)	(　　)
	実　績	4人	4人	4人	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				
達成状況説明	町内小学校4校全てに英語指導助手を配置することができた。配置することにより、小学校英語のカリキュラムを達成できた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
英語を話す児童の割合60%以上(アンケート)	目　標	(　　)	(　－　)	(　60%以上　)	(　60%以上　)	(　　)
	実　績		－	92%	61.5%	
【H24成果目標】小学校英語指導助手配置(4人)	目　標	(　　)	(　4人　)	(　－　)	(　－　)	(　　)
	実　績		4人	－	－	
進捗状況説明	平成２４年度は小学校英語指導助手を配置することが成果目標であったが、配置が実現したため、平成２５年度からアンケート結果を成果目標とした。平成２６年度は英語を進んで話す児童の割合は61.5%となり達成できた。次年度以降も指導助手を配置し児童の英語力の向上に努める。					

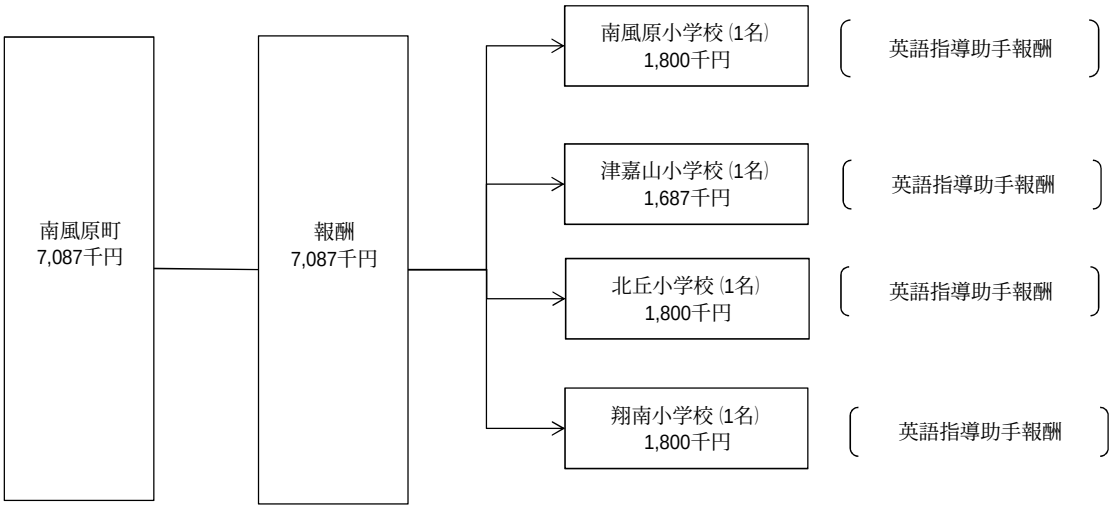
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内小学校4校全てに英語指導助手を配置したことで、活動目標・成果目標は達成された。 ・今後小学校英語活動は小学校中学年（3・4年生）も必修科目になることが見込まれる。又高学年（5・6年生）は英語活動から教科へ移行する可能性が高い。	・中学校外国人英語指導助手や教育委員会と連携し、中学校英語に抵抗なく移行できるよう、指導助手の交流研修をする。 ・恥ずかしがらずに英語を話せる児童が半数なので、自信を持って話せるよう工夫改善する。 ・今後の文部科学省の小学校英語に関する動向を注視していく。

今後の取り組み方針

・今後も引き続き小学校4校に英語指導助手を配置し、進んで英語を話す児童が増えるよう活動内容を改善する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,087	7,087	5,669	1,418	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・英語指導助手の選定は、採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており妥当である。 ・予算規模、費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	学力調査等事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	学力が低い沖縄県において、本町を担う児童生徒の学力向上推進のために、学力調査等を専門業者に委託する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,478	2,632	2,758		
	(b)予算現額	2,478	2,632	3,724		
	(c)増減額(b-a)	0	0	966		
	(d)繰越額	—	—	—		
	A. 計(b+d)	2,478	2,632	3,724		
B. 執行済額		2,469	2,574	3,617		
うち交付金充当額		1,975	2,059	2,893		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		99.6%	97.8%	97.1%		
予算の状況の説明	理科･社会について追加した為、966千円増額となった。 事業について、町内各小中学校(小学校:4校、中学校:2校)に学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。					

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
標準学力調査の実施 (小学校4校中4校･中学校2校中2校)	目　標	(標準学力調査の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(標準学力調査の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(標準学力調査の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(　)
	実　績	標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校	標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校	標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校	
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				
達成状況説明	･標準学力調査(小学校4校中4校、中学校2校中2校)を実施できた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
標準学力調査結果正答率 ･国語、算数、数学、英語　前年度結果の0.1%増 ･理科、社会　正答率40%	目　標	(　—　)	(　－　)	小学校国語　0.1 (小学校算数　0.1) 中学校数学0.1	小学校国語　0.1 (小学校算数　0.1 小学校理科　40%) 中学校数学0.1 中学校英語0.1 中学校理科　40% 中学校社会　40%	(　)
	実　績		－	小学校国語－3.4 小学校算数－2.5 中学校数学－6.0	小学校国語 2.07%増 小学校算数 3.67%増 小学校理科　65.6%(正答率) 中学校国語1.67%減 中学校数学 1.93%増 中学校英語 3.45%増 中学校理科　50.6%正答率 中学校社会　55.4%正答率	
【H24、25成果目標】 標準学力調査の実施 (小学校4校中4校･中学校2校中2校)	目　標	(　)	(標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(　—　)	(　)
	実　績		標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校	標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校	—	
進捗状況説明	･中学校国語以外は目標達成をすることができ、学力調査の結果を活用した個々の児童生徒へきめ細やかな指導ができた。 【小学校】　国語　2.07%増(前年比)、算数　3.67%増(前年比)、理科65.6%(正答率) 【中学校】　国語　1.67%減(前年比)、数学　1.93%増(前年比)、英語3.45%増(前年比)、理科50.6%(正答率)、社会55.4%(正答率)					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童生徒の学力向上のため、標準学力調査を前年度より達成率をのばすことを目標に実施した。今後、成果目標が達成できなかった教科について対策を検討し、再度個々の学力に合わせたきめ細かな指導が課題。	成果目標を達成できなかった教科の結果を経年的に分析し検証を行っていく必要がある。その他の教科についても継続的に放課後補習等取り入れ学力向上に向け児童生徒にあったきめ細かな指導をしていく。

今後の取り組み方針

今後放課後補習等で個々の児童生徒の指導をしていくことで学力向上につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,617	3,617	2,893	724	0

南風原町
3，617千円

→ 委託料
3，617千円

→ 株式会社　学友館
3，617千円

（標準学力調査にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・費目、使途については、委託料として1教科に対しての受験者数、一人当たりの契約金額と受験者数の支出であることから適切である。 ・事業内容に基づく事業執行を行っているため、予算規模は適正であると判断する。 ・県内で採用している市町村が多く学力の比較がしやすいため随契としている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	沖縄の学力の低さは、基礎学力の不足が原因と言われている。そこで、基礎学力を定着させるため、授業に遅れがちな児童生徒に対するきめ細かな指導により基礎学力向上を図るため、学習支援員を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,523	13,374	15,360		
	(b)予算現額	8,523	11,382	17,120		
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 1,992	1,760		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	8,523	11,382	17,120		
B．執行済額		7,411	10,265	16,480		
うち交付金充当額		5,928	8,212	13,184		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		87.0%	90.2%	96.3%		

予算の状況の説明：小学校の学習支援員を1名増員したため1,760千円を増額した。
計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学習支援員配置数(小学校5人･中学校4人)	目　標	(小学校5人･中学校4人)	(小学校5人･中学校4人)	(小学校5人･中学校4人)	(　)
	実　績	小学校5人･中学校4人	小学校4人･中学校4人	小学校5人･中学校4人	
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：町内小中学校全てに学習支援員を配置することができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
標準学力調査結果正答率(国語･算数･数学) 0.1%増	目　標	(　)	(－)	(小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校数学 0.1)	(小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校国語 0.1 中学校数学 0.1)	(　)
	実　績		－	小学校国語－3.4 小学校算数－2.5 中学校数学－6.0	小学校国語 2.07 小学校算数 3.67 中学校国語-1.67 中学校数学 1.93	
【H24成果目標】学習支援員配置(小学校5人･中学校4人)	目　標	(　)	(小学校5人 中学校4人)	(－)	(－)	(　)
	実　績		小学校5人 中学校4人	－	－	

進捗状況説明：平成26年度は正答率の対前年度比0.1%増を目標とした。町内小中学校全てに学習支援員を配置し、標準学力調査結果正答率が、前年度比1.93～3.67ポイント増となったが、中学校国語は1.67ポイント減となった。ポイント減となった大きな原因は中学2･3年生の漢字の読み書き、文章の読解力の正答率がかなり低かったことである。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力向上に努める。

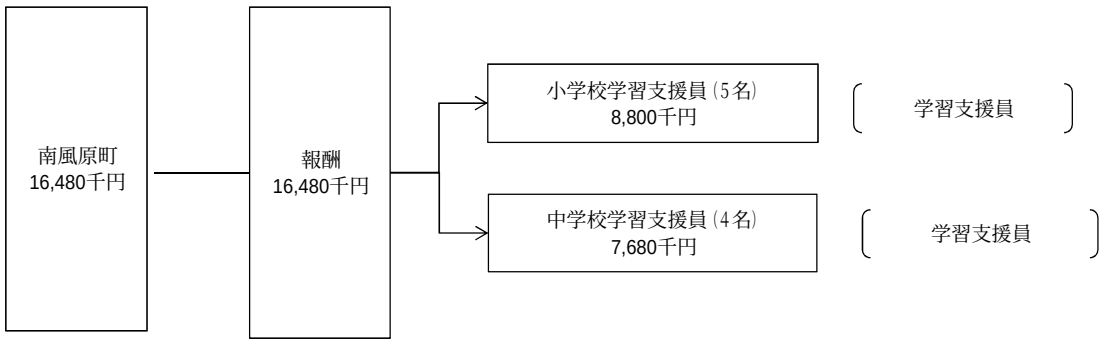
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成26年度小中学校全校に学習支援員を配置するこができ、授業環境は改善していると思われるが、さらにきめ細かい指導をするために教材研究の時間確保が必要。 ・全体的に正答率は改善されたが、中学校国語の正答率がマイナスとなり成果目標を達成することができなかった。	・南風原町の基礎学力向上のために学習支援員の教材研究の時間を確保していく。 ・中学校国語の正答率ポイント減となった大きな原因は中学2・3年生の漢字の読み書き、文章の読解力の正答率がかなり低かったことである。しかし全体的に正答率は改善された。今後は国語は全ての教科の土台（読解力・想像力）となるので、国語教科の支援や読書活動支援を検討していく。

今後の取り組み方針

・引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力向上に努める。
・今後小中学校に学習支援員を増員し、算数・数学・理科（理数科）の学力向上に努める。
・国語は全ての教科の土台（読解力・想像力）となるので、国語教科の支援や読書活動支援を学校と連携しながら検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,480	16,480	13,184	3,296	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。 ・予算規模、費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑤	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－イ 豊かな心とたくましい身体を育む教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

児童生徒の総合的な学力向上を目的として、教室内で授業中に全体の指導についていけない子ども(学習障害者や注意欠陥多動性障害者など学習や生活面の特別な教育的補助を必要とする児童生徒)の個別指導や授業外の補習、円滑に学習を行うためのサポート(介助や安全確保)などを教師と連携して行う補助員を配置する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	16,586	49,234	59,536		
	(b)予算現額	16,586	51,364	50,790		
	(c)増減額(b-a)	0	2,130	▲ 8,746		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	16,586	51,364	50,790		
B. 執行済額		9,940	49,643	46,738		
うち交付金充当額		7,952	39,714	37,390		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		59.9%	96.6%	92.0%		

予算の状況の説明：特別支援教育補助員配置は目標達成し、執行率は約９２%となった。支援員の勤務日数が予算見積時より少なかったため減額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
特別支援教育補助員配置数	目　標	(幼稚園13名･小学校24名･中学校3名)	(幼稚園5名･小学校24名･中学校3名)	(幼稚園8名･小学校31名･中学校6名)	(　)
	実　績	(幼稚園14名･小学校25名･中学校4名)	(幼稚園9名･小学校35名･中学校6名)	(幼稚園6名･小学校31名･代替員4名･中学校5名)	
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：町内小中学校･幼稚園全てに特別支援教育補助員の配置ができた。
特別な支援を必要とする児童生徒が増加したことにより特別支援員を増員しよりきめこまかい支援ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
標準学力調査結果正答率(国語･算数･数学)0.1%増	目　標	(　)	(　－　)	(小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校数学 0.1)	(小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校国語 0.1 中学校数学 0.1)	(　)
	実　績		－	小学校国語－3.4 小学校算数－2.5 中学校数学－6.0	小学校国語 2.07 小学校算数 3.67 中学校国語 -1.67 中学校数学 1.93	
【H24成果目標】特別支援教育補助員配置数(小学校24名･中学校3名･幼稚園13名)	目　標	(　)	(小学校24名 中学校3名 幼稚園13名)	(　－　)	(　－　)	(　)
	実　績		小学校25名 中学校4名 幼稚園14名	－	－	

進捗状況説明：
･平成24年度は特別支援教育支援員を配置することが成果目標であったが、配置が実現したため、平成25、26年度は正答率を成果目標とした。
･町内幼稚園小中学校全てに特別支援教育支援員を配置し、標準学力調査結果正答率が、前年度比1.93～3.67ポイント増となったが、中学校国語は1.67ポイント減となった。ポイント減となった大きな原因は中学2･3年生の漢字の読み書き、文章の読解力の正答率がかなり低かったことである。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力向上に努める。

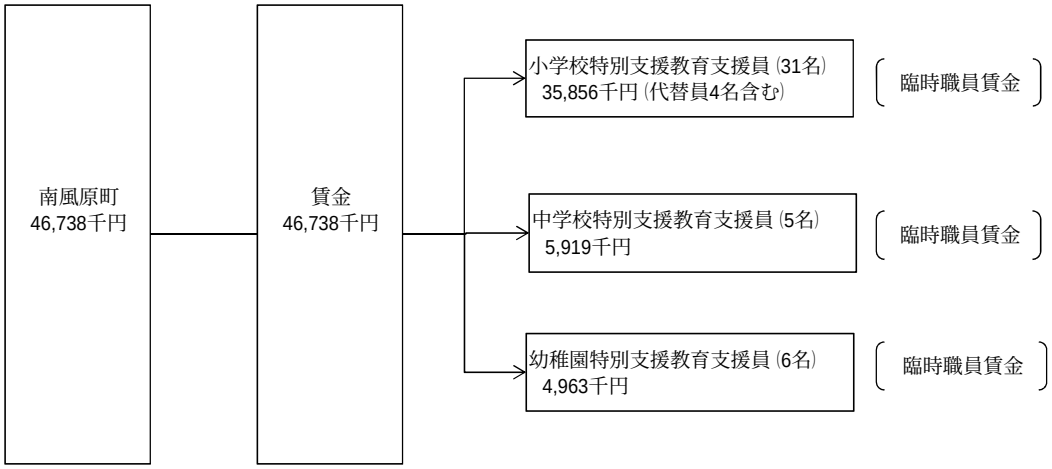
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成２６年度幼稚園、小・中学校全校に特別支援教育支援員を配置することができ、授業環境は改善し標準学力は目標を達成することができた。しかし、児童生徒の発達の違いにより支援方法も異なるため、支援方法のマニュアル化が困難であることが顕在化した。臨機応変に対応できるよう、支援員の更なる質の向上が必要となっている。 ・常に児童生徒から、目が離せない状況があるため、心理的負担（ストレス）を感じている支援員もいる。 ・全体的に正答率は改善されたが、中学校国語の正答率がマイナスとなり成果目標を達成することができなかった。	・年度当初と、夏期休業、年度末に研修（講演会等）を行い支援員の質の向上に努める。 ・児童生徒の発達に合った支援員のきめ細かい配置を実施・検証し、無駄のない事業の執行をする。 ・支援員の心理的負担軽減のため、配置転換や、支援員や学校長やコーディネーター等と面談・聞き取り調査等を行う。 ・中学校国語の正答率ポイント減となった大きな原因は中学２・３年生の漢字の読み書き、文章の読解力の正答率がかなり低かったことである。しかし全体的に正答率は改善された。今後は国語は全ての教科の土台（読解力・想像力）となるので、国語教科の支援や読書活動支援を検討していく。

今後の取り組み方針

・夏休み期間中に、幼・小・中合同で2回研修を開催する。具体的には、他市町村教育委員会と合同で、座学やワークショップを行う。
・発達支援心理士と担当職員が学校現場で情報を収集し、効率のよい支援員の配置に努めると同時に、支援員の心理的ケアを改善していく。
・国語は全ての教科の土台（読解力・想像力）となるので、国語教科の支援や読書活動支援を学校と連携しながら検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
46,738	46,738	37,390	9,348	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・特別支援教育支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ・予算規模、費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	学校ICT推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

沖縄県は学力テスト結果が下位に位置し、低所得者も多くパソコン所有世帯数も全国的にみても低い状況である。学校においてパソコン等機器を充実させ、わかりやすい授業を行うことで、教育の質の向上を図り、学力向上やより良い人材の育成を行うための環境を整備する。またICT機器を活用した魅力ある授業を支援するため、ICT支援員を配置する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	27,480	17,640	91,477		
	(b)予算現額	25,520	124,971	89,800		
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,960	107,331	▲ 1,677		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	25,520	124,971	89,800		
B. 執行済額		25,520	124,971	89,800		
うち交付金充当額		20,416	99,976	71,840		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：・デジタル教科書の購入、コンピュータ教室や書画カメラ等のICT環境を整えて、導入した機器を十分に活用できるようICT支援員を配置した。1,677千円の減額は入札残となっており、当初計画していた事業内容はすべて実施した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
ICT機器の整備	目　標	(-)	(－)	(機器整備)	( )
	実　績	-	－	機器整備	
ICT支援員の配置	目　標	(-)	(2名)	(3名)	( )
	実　績	-	2名	3名	
【H24活動目標】電子黒板設置台数	目　標	(22台)	(104台)	(－)	( )
	実　績	22台	104台	－	
【H24活動目標】デジタル教科書購入件数	目　標	(60件)	(9件)	(80件)	( )
	実　績	60件	10件	80件	

達成状況説明：
H26年度予定していた事業はすべて実施した。
【デジタル教科書】　小学校:教科書改訂に伴い95%整備を行った。
【ICT備品】　小学校コンピュータ教室の充実、書画カメラやタブレットPC(特別支援クラス用)の整備を行った。
【ICT支援員】　H26年度3名配置。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
標準学力調査結果正答率(国語・算数・数学) 0.1%増	目　標	－	－	小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校数学 0.1	小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校国語 0.1 中学校数学 0.1	－
	実　績		－	小学校国語－3.4 小学校算数－2.5 中学校数学－6.0	小学校国語 2.07%増 小学校算数 3.67%増 中学校国語 1.67%減 中学校数学 1.93%増	
教職員に対するICT環境におけるアンケート	目　標	－	－	アンケートの実施	アンケートの実施	－
	実　績		－	アンケートの実施	アンケートの実施	
【H24成果目標】電子黒板導入率(普通教室)	目　標	【小】19%【中】16.5%	【小】38%【中】33%	【小】100%【中】100%	－	100%
	実　績		【小】38%【中】33%	【小】100%【中】100%	－	
【H24成果目標】デジタル教科書件数(導入率)	目　標	【小】40%　【中】71.4%	60件 【小】80%【中】85.7%	9件 【中】100%	80件 【小】100%	100%
	実　績		60件 【小】80%【中】85.7%	10件 【中】100%	80件 【小】100%	

進捗状況説明：
平成26年度末に実施したアンケートでは電子黒板とオリジナル教材や書画カメラ等を併せて利用するなど魅力ある授業づくりにICT機器を役立てることができた。さらにICT支援員を配置することにより、ICT機器への苦手意識がなくなり多くの授業でICT機器の活用が増えた。
また、指標としている標準学力調査においても中学校国語以外は目標達成をすることができ、学力調査の結果を活用した個々の児童生徒へきめ細やかな指導ができた。
【小学校】　国語　2.07%増(前年比)、算数　3.67%増(前年比)
【中学校】　国語　1.67%減(前年比)、数学　1.93%増(前年比)

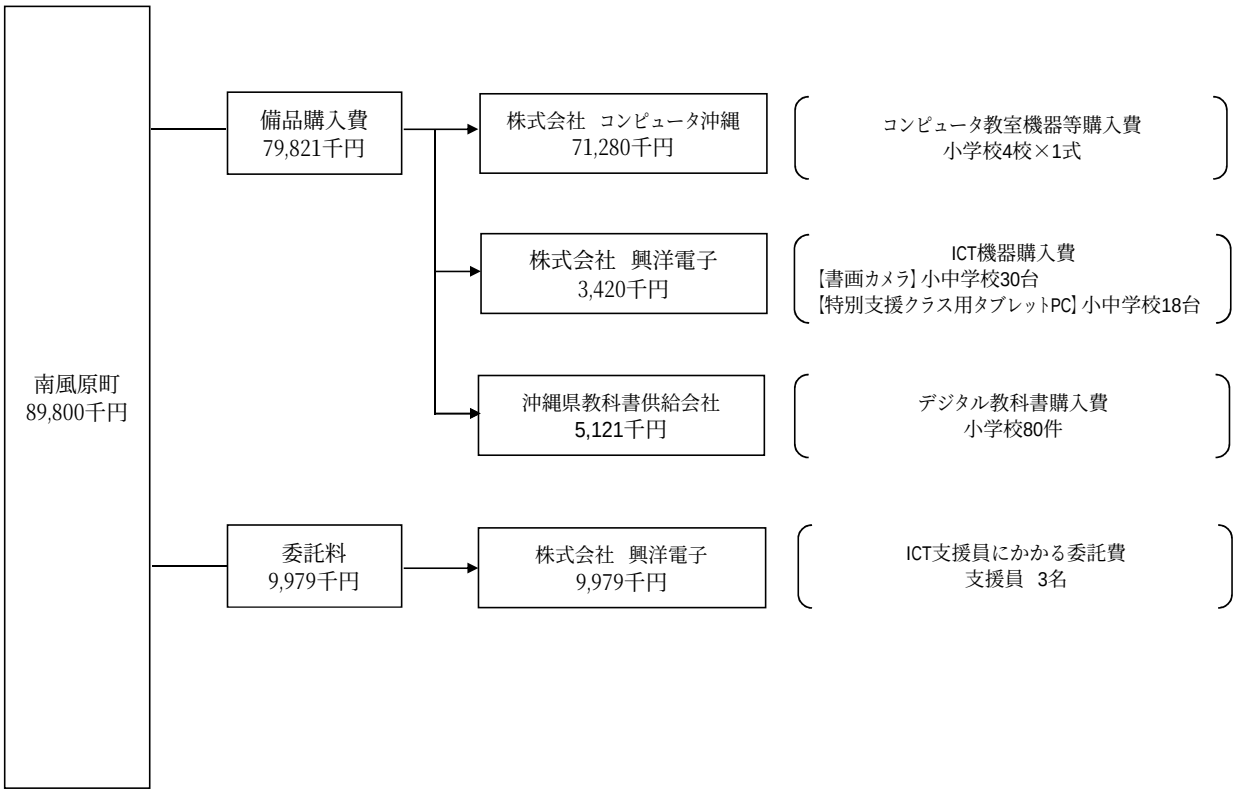
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・電子黒板について特別教室（理科、音楽、家庭科など）、少人数クラス（算数・数学など）での授業や体育などの授業において需要が多くなってきている。また、タブレットPCを授業で活用したいとの要望も多くなっている。	特別教室など普通教室以外での授業でもスムーズに活用できるよう、利用方法について確認を行いながら特別教室等への電子黒板配置も検討していく。児童生徒個別の特性に合わせたきめ細やかな指導やグループ学習など子ども同士学びあいの場で活用することにより、よりよい授業づくりへ役立てるため、特別支援クラスや普通クラスへのタブレットPC導入についても継続して検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

・特別教室等や特別支援クラスへの電子黒板導入を検討する。
・タブレットPCの導入について検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
89,800	89,800	71,840	17,960	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内で教科書供給会社のみ取り扱いの備品を除き、実績または県内で取り扱い可能な事業者を選定し、指名競争入札を行っており、選定方法および予算規模について、妥当であったと考えている。 ○購入した備品は、事業内容に記載した教育の質向上による児童生徒の学力向上を図るためのもので、費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑦	児童生徒健全育成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(3)－イ 豊かな心とたくましい身体を育む教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

怠学や問題行動･暴力行為等の不登校生徒の居場所として自立支援教室を設置、専任の指導員を配置し、よりきめ細やかな対応、均等な学習指導を行う。また、怠学等の児童生徒の校外指導を行うため校外指導員を配置する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度
予算の状況	(a)当初予算額	16,159	－	6,933	－	6,144
	(b)予算現額	16,159	－	17,936	－	5,444
	(c)増減額(b-a)	0	－	11,003	－	▲ 700
	(d)繰越額	－	6,479	－	6,911	－
	A．計(b+d)	16,159	6,479	17,936	6,911	5,444
B．執行済額		8,902	6,479	10,566	6,911	5,342
うち交付金充当額		7,121	5,183	8,453	5,528	4,273
次年度繰越額		6,479	－	6,911	－	－
執行率（%）(B/A)		55.1%	100.0%	58.9%	100.0%	98.1%

予算の状況説明：生徒校外指導員の勤務日数を予算見積時より時間数を多く見積りしたため、年度途中で減額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
自立支援教室指導員(中学校)　2人	目　標	(　2人　)	(　2人　)	(　2人　)	(　　)
	実　績	2人	2人	2人	
生徒校外指導員(中学校)　6人	目　標	(　3人　)	(　6人　)	(　6人　)	(　　)
	実　績	3人	6人	6人	

達成状況説明：自立支援教室指導員(中学校2人)、生徒校外指導員(中学校6人)を設置し、事業運営をすることができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
標準学力調査結果正答率(国語･数学)0.1%増	目　標	(　　)	(　－　)	(　－　)	(中学校国語 0．1 中学校数学 0．1)	(　　)
	実　績		－	－	中学校国語 -1.67 中学校数学 1.93	
【H24,25成果目標】①自立支援教室指導員(中学校)②生徒校外指導員(中学校)③登校支援員(小中学校)	目　標	(　　)	(①2人 ②3人 ③2人)	(①2人 ②6人 ③2人)	(　－　)	(　　)
	実　績		①2人 ②3人 ③3人	①2人 ②6人 ③2人	－	

進捗状況説明：26年度は正答率の対前年度比0.1%増を目標とした。町内中学校全てに自立支援教室指導員･生徒校外指導員を配置し、標準学力調査結果正答率が、中学校数学で前年度比1.93ポイント増となったが、中学校国語は1.67ポイント減となった。ポイント減となった大きな原因は中学2･3年生の漢字の読み書き、文章の読解力の正答率がかなり低かったことである。次年度以降も全中学校に配置し、怠学ぎみの生徒の基礎学力向上に努める。

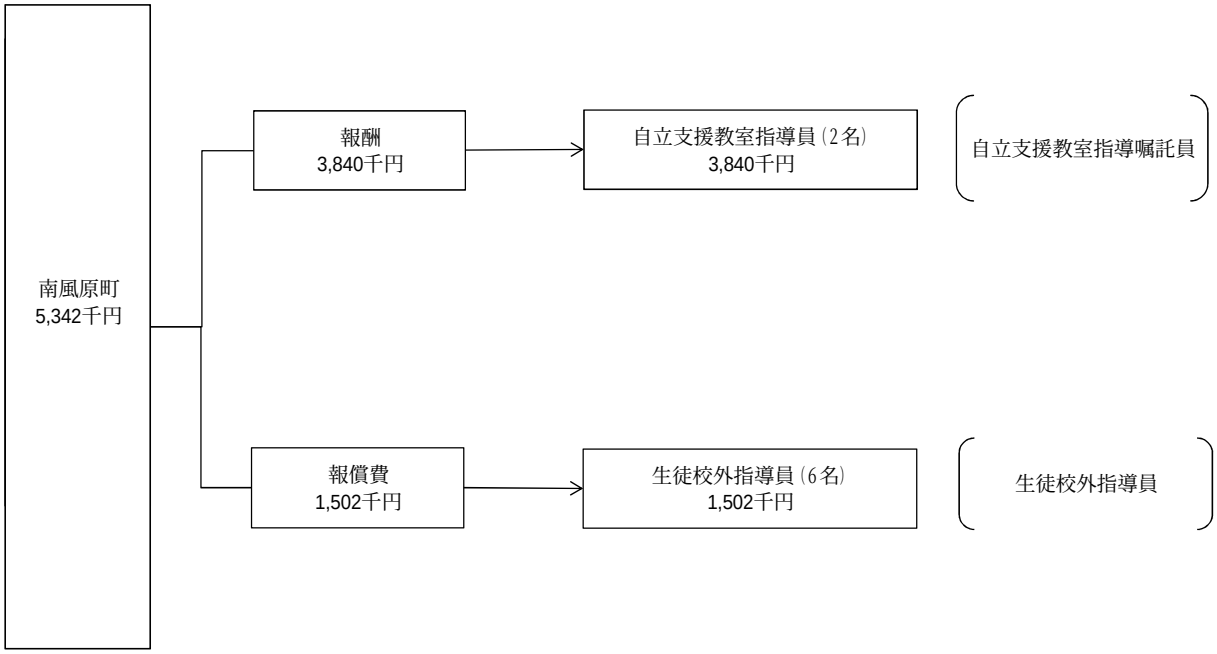
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・不登校ぎみ・怠学ぎみの生徒の登校支援・生活指導・学習支援を実施し基礎学力の向上に努めた。その結果、標準学力の正答率が目標を上回ることができた。しかし、対象となる生徒は年度により不登校ぎみの傾向（怠学か、心因性か男性か、女性か）が異なるため、支援員の配置や学校・関係機関との連携を強化する。 ・全体的に正答率は改善されたが、中学校国語の正答率がマイナスとなり成果目標を達成することができなかった。	・自立支援教室指導員は男性を配置していたが、支援対象の生徒が女性が多い場合は、女性の指導員の配置も検討し、きめ細かい支援を実施する。 ・対象生徒の登校を支援し、個別に授業を支援することで基礎学力の向上に努める。 ・中学校国語の正答率ポイント減となった大きな原因は中学2・3年生の漢字の読み書き、文章の読解力の正答率がかなり低かったことである。しかし全体的に正答率は改善された。今後は国語は全ての教科の土台（読解力・想像力）となるので、国語教科の支援や読書活動支援を検討していく。

今後の取り組み方針

・引き続き自立支援・生徒校外指導員をを配置し、不登校ぎみ生徒の支援に努め、きめ細やかな学習支援を展開し、基礎学力の向上に努める。
・国語は全ての教科の土台（読解力・想像力）となるので、国語教科の支援や読書活動支援を学校と連携しながら検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,342	5,342	4,273	1,069	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・自立支援教室指導嘱託員、生徒校外指導員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ・予算規模、費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑧	教育相談支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(1)－イ 家庭･地域の教育機能の充実
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	不登校または不登校傾向にある児童生徒や、子どもへの対応に悩みを持つ保護者に対する支援を充実させるため、教育相談支援員を小中学校に配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,310	3,960	8,367		
	(b)予算現額	2,310	3,434	7,283		
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 526	▲ 1,084		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	2,310	3,434	7,283		
B．執行済額		1,983	3,103	6,894		
うち交付金充当額		1,586	2,482	5,515		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		85.8%	90.4%	94.7%		
予算の状況の説明		心の教室相談員の勤務日数を予算見積時より時間数を多く見積りしたため、年度途中で減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
教育相談員等の配置	目　標	(　配置　)	(　配置　)	(　配置　)	(　　)
	実　績	配置	配置	配置	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				
達成状況説明	町内の小中学校に教育相談員を配置し児童生徒や保護者に対する支援を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
･町教育相談員配置数:1人	目　標	(　　)	(　1　)	(　1　)	(　1　)	(　　)
	実　績		1	1	1	
･心の教室相談員配置数:4人	目　標	(　　)	(　2　)	(　2　)	(　4　)	(　　)
	実　績		2	2	4	
･発達支援心理士配置数:1人	目　標	(　　)	(　－　)	(　－　)	(　1　)	(　　)
	実　績		－	－	1	
･スクールカウンセラー配置数:1人	目　標	(　　)	(　－　)	(　－　)	(　1　)	(　　)
	実　績		－	－	0	
進捗状況説明	町でスクールカウンセラーを配置予定であったが県の配置事業で全校配置することが決定されたため、配置には至らなかったが、教育相談員、心の教室相談員、発達心理士は、目標のとおり配置することができた。 相談支援内容が複雑多様化している。					

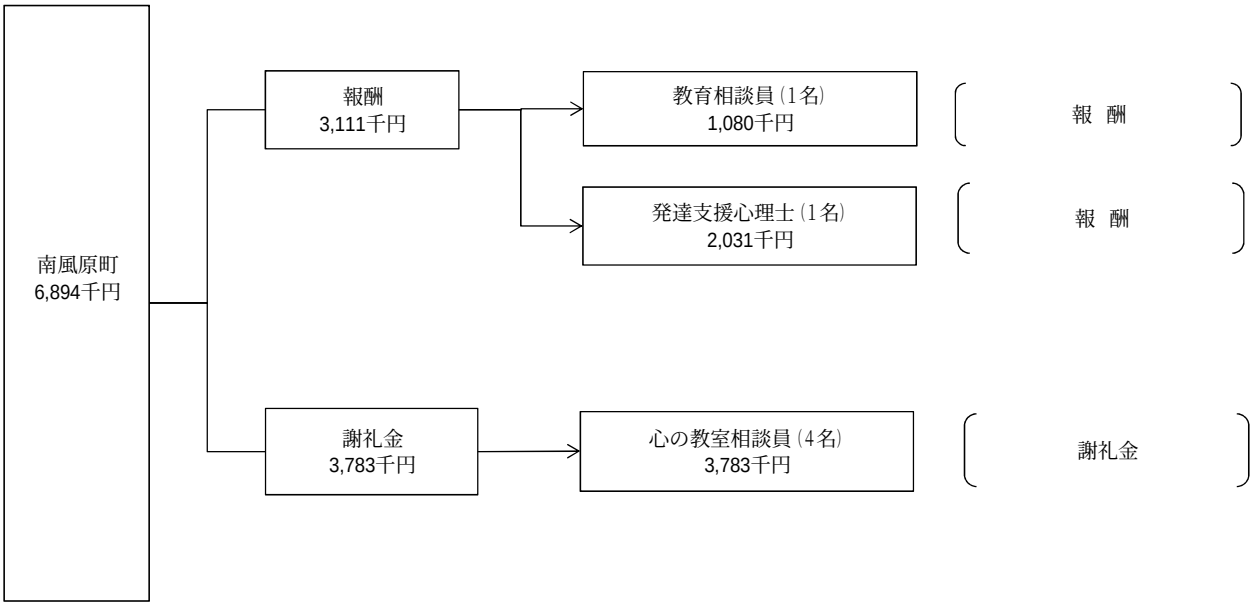
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成26年度より登校支援サポーターと教育相談支援を統合した。教育相談員が登校支援を兼ねることにより、保護者や当事者の情報を共有する事ができ、児童生徒の悩みや、多種多様な問題を解決することができた。 ・学校現場では、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等、多様な支援員が県や町から配置されており、支援方法の整理、棲み分けが課題となっている。 ・スクールカウンセラーは県の配置事業で全校配置することができたため町での配置にはいたらなかった。	・学校現場では、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等との連絡協議会など、情報の共有・整理する場が必要となってきている。 ・スクールカウンセラーの配置については、県の事業と連携し進める。また、スクールカウンセラーの未配置校が出た場合は、町での配置も検討する。

今後の取り組み方針

・学校、関係機関と連携を密にし支援体制を強化していく。また、町教育相談員が核となり情報の交通整理を行う。
・今後は県事業との調整を図りながら児童生徒の支援体制整備を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,894	6,894	5,515	1,379	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・教育相談員、発達支援心理士、心の教室相談員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ・予算規模、費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑨	中学校外国人英語指導助手配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	中学校英語教育の充実と国際理解教育推進に資するため、外国人英語指導員を中学校へ派遣する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,205	3,780	3,780		
	(b)予算現額	2,205	3,780	3,780		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	2,205	3,780	3,780		
B．執行済額		2,205	3,780	3,780		
うち交付金充当額		1,764	3,024	3,024		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明	事業計画通り執行できた。					

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・外国人英語指導助手配置数:1人	目　標	(　1人　)	(　1人　)	(　1人　)	(　　)
	実　績	1人	1人	1人	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				
達成状況説明	目標のとおり配置することでき、外国人によるネイティブ英語の授業を展開することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
標準学力調査結果正答率(英語)0.1%増	目　標	(　　)	(　－　)	(中学校英語 0．1)	(中学校英語 0．1)	(　　)
	実　績		－	中学校英語 －11．2	中学校英語 3.45	
【H24成果目標】中学校英語指導助手配置数	目　標	(　　)	(　1人　)	(　－　)	(　－　)	(　　)
	実　績		1人	－	－	
進捗状況説明	中学校外国人英語指導助手を配置し、標準学力調査結果正答率が、前年度比3.45ポイント増となった次年度以降も中学校に配置し、学力向上に努める。					

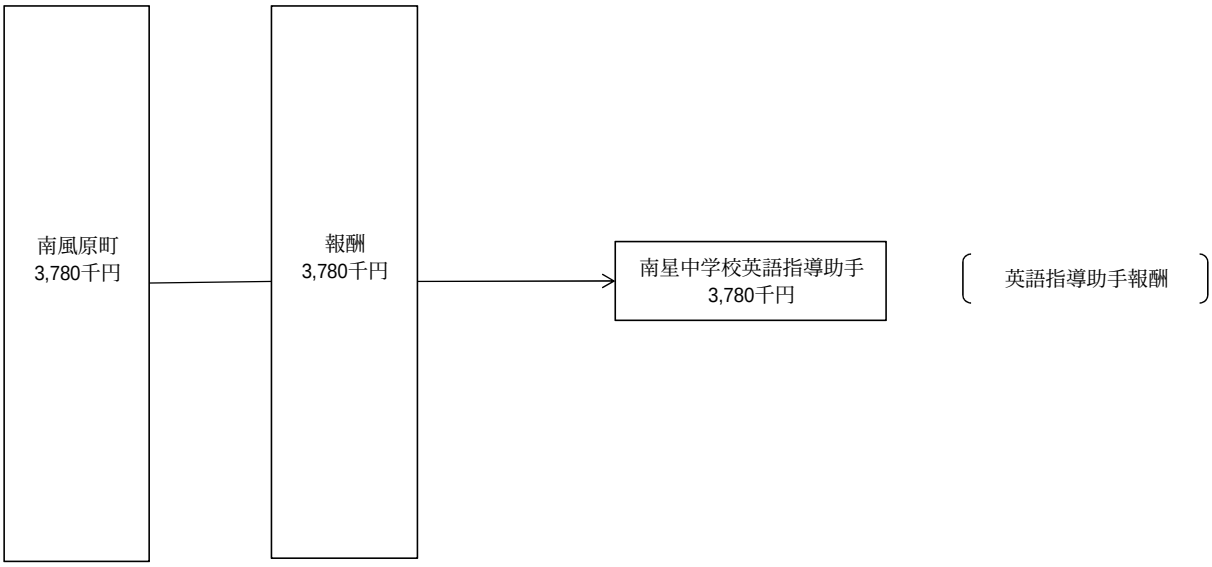
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	国際社会に対応できる人材を育成するため外国人英語指導助手を配置し、英語の苦手意識をなくすよう、楽しい授業を展開したが、未だに英会話を苦手としている生徒がいるため、外国人英語指導助手とともに授業研究を進めていく。	小学校英語指導助手との連携を密にし、小学校英語から中学校英語へ、抵抗なく移行するようにし、生徒が英会話に対し苦手意識を持たせないようにする。

今後の取り組み方針

今後も引き続き、外国人英語指導助手を配置し、小学校英語指導助手との連携を密にし、小学校英語から中学校英語へ、抵抗なく移行するようにし、生徒が英会話に対し苦手意識を持たせないようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,780	3,780	3,024	756	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・英語指導助手の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ・予算規模・費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑩	南風原町青年海外派遣事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－４－（1）－イ 世界と共生する社会の形成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（1）
事業内容	本町の青年達を、特に移民先の南米やハワイへ派遣し、町人会や、移民の次世代の青年たちとの交流を深める。言語、文化理解をはじめ、移民の歴史や現在の状況、世界のあらゆる動きの中で同じ町の人として励まし合い、助け合う繋がりを構築できる人材を育成する。その成果を今後の町の将来を担うリーダーとしての自覚を持って活動をしてもらう。				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,730	1,700			
	(b)予算現額	1,730	1,700			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)前年度繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	1,730	1,286			
B．執行済額		1,703	1,203			
うち交付金充当額		1,362	962			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		98.4%	93.5%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・ハワイへの青年派遣：2人	目　標	（　2人　）	（　2人　）	（　）	（　）
	実　績	2人	2人		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・予定通り、2人の青年を米国ハワイに派遣し、町人会や県人会、受け入れた研修生との交流を行うことができた。
・研修先のハワイにおいて、県人会館に所蔵されている日本語の本を、利用しやすいように、タイトルを英訳するという大役を果たした。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
・研修後の報告会の開催・報告書の作成を通して研修性の社会貢献、国際理解の意識向上を図る。	目　標	（　）	（研修成果の報告）	（意識向上を図る）	（　）	（　）
	実　績		研修成果の報告	意識向上を図った		
・ハワイ南風原クラブ、海外移住者子弟研修生OBとのネットワークの構築	目　標	（　）	（　-　）	（研修生OBとのネットワークの構築）	（　）	（　）
	実　績		-	研修生OBとのネットワークの構築		

進捗状況説明：
・研修生がハワイで、南風原出身者と出会い、移民の歴史に触れ、ふるさとを離れた人たちのふるさとを思う気持ちを感じることで、研修生は自分の足元を見直すことにつながった。また、過去に海外移住者子弟研修受入事業等で来沖した研修生に会うことで南風原町との繋がりを結びなおすことになった。
・沖縄県人会に対して、研修時に役に立つ手伝いはないか事前に確認していたため、日本語の寄贈本のタイトルを英語に直す作業ができた。県人会の希望に応え、県人会館所蔵図書の英訳の作業に携われたことは、大変、有益であった。
・研修後、研修先とのネットワークを保持しつつ、帰国後は南風原での成果報告会を開催し、今後の研修生を受け入れるための器（関係者）を作ることができた。
・研修生は、派遣先での多くの方々の関わりや経験を通して、遠く離れた地でも沖縄と繋がっている事を再認識し、さらに帰国後の報告会の作成及び報告会の開催を通して、改めて沖縄県と海外を繋げる活動に対して意欲を高めていたようだった。その様子から研修生の社会貢献、国際理解の意識が高まっていることが確認できた。

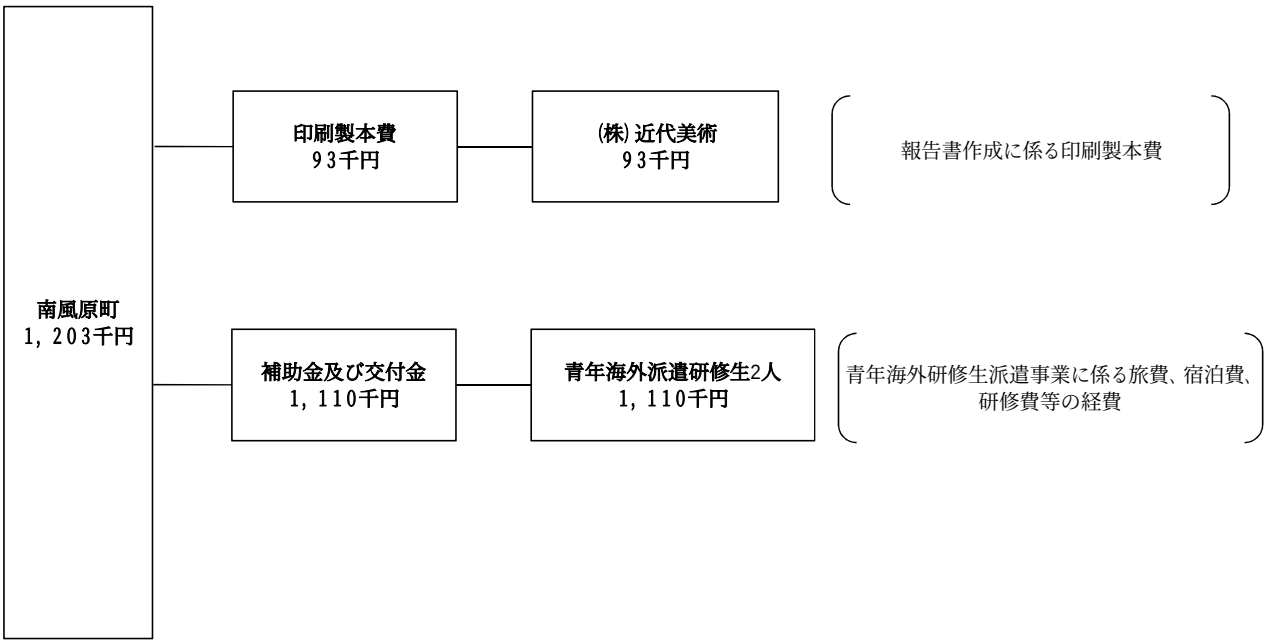
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本町の青年達を移民先のハワイへ派遣し、町人会や二世・三世達との交流を深めるため、南風原町が受け入れた研修生OBや町人会の人たちに会い、「沖縄フェスティバルへの協力、手伝いを行った。また、沖縄県人会事務所の図書コーナーに所蔵している書籍類について、二世・三世で日本語の読めない人たちのために日本語タイトルを英訳する作業を行った。 ・青年研修生派遣は、受け入れ側のニーズを配慮し、相談の上計画し、負担にならずむしろ役に立つ内容を積極的に取り組む必要がある。 ・旅費特に南米への旅費の高騰を考慮する必要がある。 ・研修期間中のホームステイは、民間の提供するホームステイ先を利用したが、移民先の方々との交流が目的であるため、南風原出身者の家でのホームステイができる方法を検討する必要がある。 ・研修後、研修生たちが体験した経験や知り合った県人会ネットワークを活用する必要がある。	・受け入れ側のさせたい研修内容（南風原の青年たちに何をしてもらいたいか）と、日程や都合を理解の上こちら側の希望する研修内容をよく調整し、相互にその研修意義を深められるようにする。 ・旅費については、研修内容に影響が出ないよう事前に現地町人会との調整を密にする。 ・なるべく南風原出身者の家でのホームステイが望ましいため、可能な方法を今後調整しながら整える。 ・帰国後の研修生たちの取り組みをより強化し、研修成果を発揮できる仕組みや、機会をつくる。また研修生自身の積極的協力を促す。

今後の取り組み方針

・南米と米国ハワイを交互に研修先と定め、受け入れ側と密接に情報を交換しつつ、よりよい関係を築いていけるよう努力し、引き続き交流事業を継続実施する。
・受け入れ研修性の連携、派遣研修性の協力をより強固にできるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,203	1,203	962	241	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出している。また、事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ・支出先の選定、受益者との負担関係については、南風原町青年海外派遣事業実施要綱に基づき整理しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑪	南風原町各種大会派遣助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－イ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	小･中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の派遣費の補助をする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,837	1,837			
	(b)予算現額	1,991	1,197			
	(c)増減額(b-a)	154	▲ 640			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	1,991	1,197			
B. 執行済額		1,991	1,197			
うち交付金充当額		1,592	957			
次年度繰越額		-	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		予定していた人数よりも派遣する人数が下回った為、640千円の減額となったが、予定どおり事業計画通り執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
児童･生徒大会派遣の補助	目　標	（児童･生徒31人）	（派遣費補助）	（　）	（　）
	実　績	児童･生徒95人	派遣費補助の実施		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：児童･生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣することができた。九州大会3種目、全国大会1種目、57人の児童生徒が出場できた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
大会派遣児童･生徒数	目　標	（－）	（児童･生徒31人）	（児童･生徒31人）	（　）	（児童･生徒70人）
	実　績		児童･生徒95人	児童･生徒57人		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：児童･生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣され他県の児童生徒と交流を行うことによって、一人ひとりの能力や可能性をのばしてくことができた。目標より派遣種目が増えたため児童生徒数も増となりました。

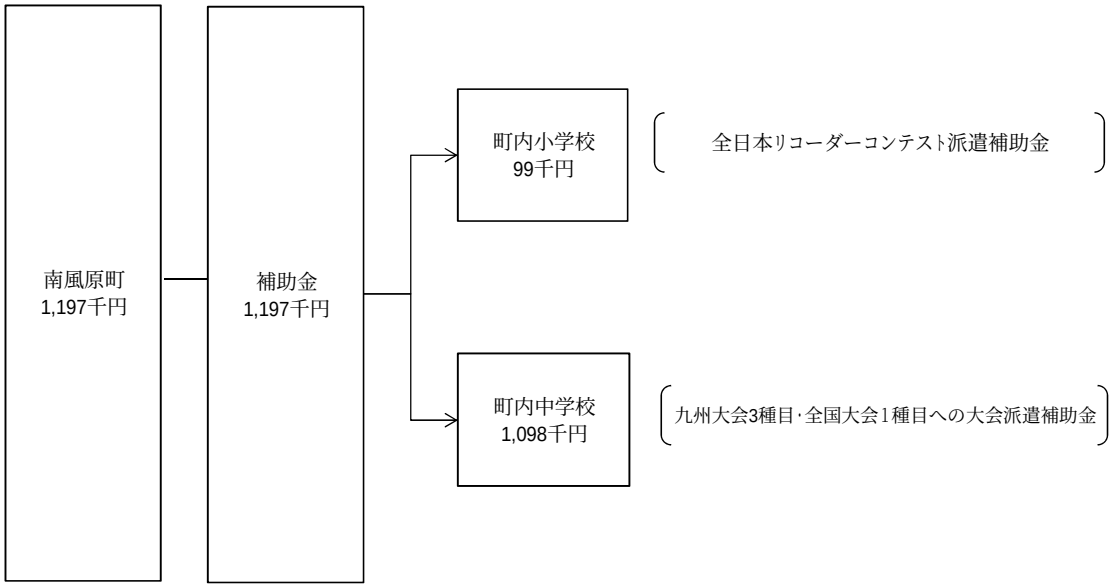
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童･生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣されることで派遣後も地域で活躍できる人材となるよう派遣費の補助を行っている。 児童･生徒の大会派遣件数については、各大会の成績により派遣数が決まるため事前の人数把握が困難である。	今年度は前年度よりも学校と連携をスムーズに行うことができた。今後も各小中学校と連携し早めに大会等を把握し派遣補助をしていく。

今後の取り組み方針

事業のスムーズな推進を行ない、児童生徒の派遣環境を整えるため、各小中学校と連携を密にし、今後も事業を展開していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,197	1,197	957	240	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	･額の確定については支出等に関する書類により確認、適正であった。 ･支出先、費目･使途事業目的に即しているかについては「児童･生徒の各種大会への派遣費補助の取り扱い基準」をもとに補助金を支払ったので適正であった。 ･受益者との負担関係については、派遣費補助の取扱い基準に基づき整理しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑫	南風原町県外等派遣助成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)ーイ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、町内に在住する小学生･中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動に対して必要な派遣費用の助成を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,979	2,976			
	(b)予算現額	2,154	2,237			
	(c)増減額(b-a)	▲ 825	▲ 739			
	(d)前年度繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)	2,154	2,237			
B. 執行済額		2,024	2,004			
うち交付金充当額		1,619	1,603			
次年度繰越額		-	-			
執行率（%）(B/A)		94.0%	89.6%			
予算の状況の説明		3月補正において町予算を739千円減額したが、前年度と比較して申請件数は増となっており、適正な予算執行ができたと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
児童･生徒等大会派遣の補助	目　標	(　140人　)	(　派遣の補助　)	(　　)	(　　)
	実　績	127人	129人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：人材育成を目的として派遣費用の助成を実施しているため、軟式野球やバドミントン、珠算など多様な競技について助成することができた。競技数も前年度と比較して3競技増の１４競技へ派遣費用の助成ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
派遣児童･生徒数(累計)：１４０人	目　標	(　138人　)	(　140　)	(　140　)	(　　)	(　140人　)
	実　績		127人	129人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：基準年度と比較して申請件数は増となっているが、1件あたりの被派遣者数が少なくなっているため助成人数は目標人数より少ない人数となっている。しかし、参加した生徒からは上位の大会に参加する事で自分自身やチームの弱点･課題を見つけることが出来,とても良い経験となったとの声もあり、成果を感じる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	人材育成のため、町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動に対して必要な派遣費用の助成を行っているが、派遣助成事業の広報不足のため、申請期限を過ぎてから申し出があり、助成することができなった事例もあった。助成事業の周知が弱かったと思われる。	助成事業の周知不足を改善するため、継続的に次の2点について実施する。 ・学校へ事業内容の説明を定期的に実施し、申請もれを減らす。 ・様々な媒体を活用して助成事業の周知を図る。

今後の取り組み方針

・学校へ事業内容の説明する機会として校長・教頭連絡会での事業の説明や派遣後の児童等の結果を広報紙やHPへ記載するなど、定期的な情報発信を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,004	2,004	1,603	401	0

南風原町
2,004千円
→
補助金
2,004千円
→
39件
（申請者）
学校長・団体代表者
2,004千円

（航空運賃又は港までの運賃への半額補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・派遣対象者については、要綱に照らして決定しており妥当である。 ・助成金額についても普通運賃額を超えないように比較し適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限定して交付している。 ・受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑬	魅力的な体験学習事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	沖縄振興に資する人材育成のため、机上の学習だけではなく体験学習を取り入た授業を行うことで児童生徒の探究心や想像力を育て学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらう。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	26年度	27年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,397	3,506			
	(b)予算現額	3,397	3,614			
	(c)増減額(b-a)	0	108			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	3,397	3,614			
B. 執行済額		3,297	3,563			
うち交付金充当額		2,637	2,850			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		97.1%	98.6%			
予算の状況の説明		台風襲来によりサイエンスショーを7月から12月に延期した。それに伴い、既に搬入していた機材等を一旦送り返したため、追加の輸送費が発生し、9月補正で108千円増額した。 不用額50千円は消耗品数量の減によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
小学生を対象にサイエンスショーを開催	目　標	(　1回　)	(　開催　)	(　)	(　)
	実　績	1回	1回		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：・12月に「米村でんろうサイエンスショー」を開催し、町内4小学校の5・6年生(820名)が参加した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(25年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
サイエンスショー開催後にアンケートを実施し、理科への興味・関心度の調査を行う。	目　標	(　70%　)	(　70%　)	(　70%　)	(　)	(　)
理科への関心度　：　70% (H25年度実績　97%)	実　績		97%	93%		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：サイエンスショー鑑賞後に、理科への興味・関心を持ち、勉強したいと思うようになったと答えた児童が9割以上おり、サイエンスショーの鑑賞が理科に対する興味・関心の向上に一定の効果があった。
また、昨年鑑賞した児童(6年生)で、昨年の鑑賞後に勉強などで興味をもったことがあると答えた児童が47%おり、学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感し、探究心や想像力の向上に一定の効果があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	サイエンスショーを鑑賞することで児童生徒の探究心や想像力の向上に取り組み、学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を育む。 サイエンスショー鑑賞後のアンケート結果では、９３％の児童が理科に対し「とても興味をもった」または「少し興味をもった」と答え、また８８％が「理科を勉強したいと思うようになった」と答えており、成果目標を上回る事業の効果があった。 当初7月開催を予定していたが台風襲来により延期となり、延期日の日程調整で苦慮した。	引き続き成果目標（理科への関心度）を達成できるよう、プロダクションと調整しながらサイエンスショーの内容の充実を図る。 日程調整をスムーズに行うため、サイエンスショーを学校の年間計画に組み込む。

今後の取り組み方針

アンケート結果では、ほとんどの児童がサイエンスショーが「楽しかった」と回答しており、また、「知らないことについて、もっと調べたい」や「理科の不思議についてもっと学びたい」などの意見もあり、サイエンスショーは児童や学校から好評であった。よって、引き続きサイエンスショーを実施し、子供たちの学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらう。

また、日程調整をスムーズに行うため、サイエンスショーを学校の年間計画に組み込む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,563	3,563	2,850	713	0

南風原町 3,563千円 → 委託料 3,563千円 → (有)米村でんじろうサイエンスプロダクション 3,563千円

（米村でんじろうサイエンスショー開催委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は随意契約である。本事業は、米村でんじろうサイエンスショーを実施するもので、本公演を実施できる委託事業者が1社しかないため、妥当であったと考えている。 ○より多くの児童にサイエンスショーを体験してもらう事ができたため、予算規模は妥当であったと考えている。 ○使途は、サイエンスショーを実施するための委託料となっており、目的に必要な経費であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑭	南風原町児童生徒県外交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－イ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	徳島県サマーキャンプに南風原町の小学校高学年及び中学生を派遣し、徳島県つるぎ町の半田中学校での交流会、つるぎ町及び徳島市での自然･文化体験プログラムで文化交流や自然学習等を体験する派遣費の補助をする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,214	2,427			
	(b)予算現額	2,214	2,427			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	2,214	2,427			
B．執行済額		2,093	2,360			
うち交付金充当額		1,674	1,888			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		94.5%	97.2%			
予算の状況の説明		事業計画通り執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
徳島県つるぎ町立半田中学校へ中学生10名、小学生12名を派遣	目　標	（小学生１２人 中学生１０人）	（小学生１２人 中学生１０人）	（　）	（　）
	実　績	小学生１２人 中学生１０人	小学生１２人 中学生１０人		
達成状況説明	福島県つるぎ町との交流事業へ小学生１２名中学生１０名を派遣することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
･派遣者にアンケートや報告書(感想文)を実施し集計結果や分析を報告 「楽しかったこと･びっくりしたこと」の答えの50%以上に民泊交流･中学校交流が入るようにする。 「次回も継続してほしいこと」の答えの50%以上に民泊交流･中学校交流が入るようにする。	目　標	（　）	･「楽しかったこと･びっくりしたこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合50% ･「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合　50%	･「楽しかったこと･びっくりしたこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合50% ･「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合　50%	（　）	（　）
	実　績		･「楽しかったこと･びっくりしたこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合55% ･「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合　56%	･「楽しかったこと･びっくりしたこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合52% ･「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合　68%		
進捗状況説明	福島県つるぎ町での文化交流や自然体験学習のアンケート結果では「楽しかったこと･びっくりしたこと、次回も継続してほしいもの」の回答に約半数以上の児童生徒が民泊交流･中学校交流と回答しており、目標達成ができた。徳島県つるぎ町立半田中学校の受け入れもできた。					

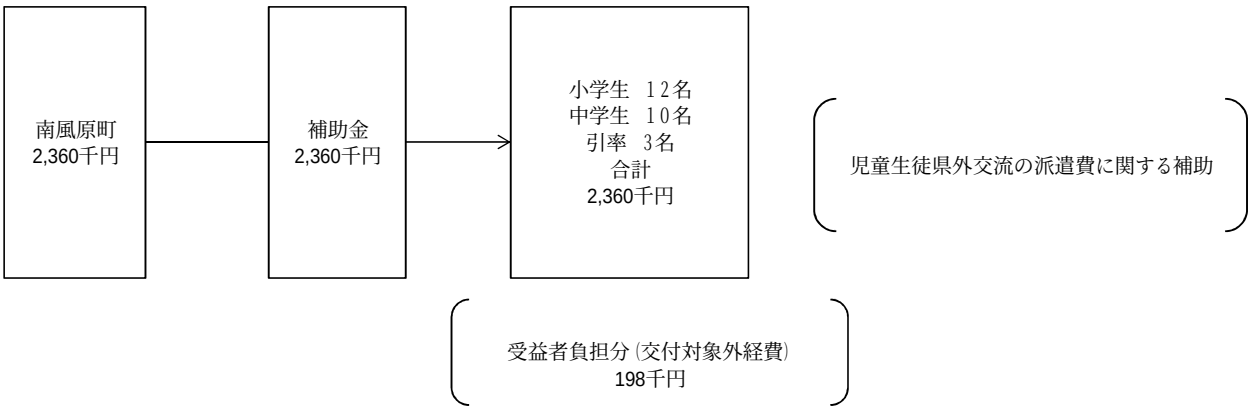
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今回自然体験コースを増やしたため移動距離が長く、また,天候不良で児童生徒に負担を強いてしまった。スケジュールを吟味し、余裕のある日程を組み立てる必要がある。 ・天候や交通機関のトラブルによるスケジュール変更が余儀なくされる場合に備えた柔軟な対応をする。	・悪天候や、飛行機のトラブル等でスケジュール変更が余儀なくされる場合は、つるぎ町教育委員会、受入団体、町教育委員会と連絡調整し安全に事業を執行する。

今後の取り組み方針

・気象情報は前日で判断し添乗員と連携を密にし、スケジュールを有効に活用する。
・新しい人との出会・交流を持つことにより幅広い視野を持った児童生徒の育成につとめる。
・徳島県と沖縄県の違いを事前に学習し、予備知識を増やし、民泊受け入れ家庭や、中学校生徒・教員との交流をより充実させる。
・交流事業に参加した児童生徒が、徳島県から訪問する修学旅行生を受け入れる主要なメンバーになるよう、指導支援していく。
・事業に参加した児童生徒が、在籍の学校で中心的な人材（生徒会役員や部活動の主将、ボランティアリーダー等）になるよう、指導支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,558	2,360	1,888	472	198



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・南風原町振興特別推進事業交付金要綱に基づき交付金を交付しており妥当であった。 ・募集要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。 ・受益者負担も募集要項に基づき、徴収し妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－①	南風原町観光景観美化整備事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（6）－ア 沖縄らしい風景づくり
担当部課名	経済建設部　まちづくり振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）
事業内容	本県は亜熱帯性の固有な自然環境であり、年間を通して植物の繁茂がある。町内の観光ルートの環境美化を町内の求職者を雇用して実施し、クリーンな南風原町を目指す。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	6,600	6,442	6,442		
	(b)予算現額	6,600	6,442	6,442		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	6,600	6,442	6,442		
B．執行済額		6,116	6,128	6,184		
うち交付金充当額		4,892	4,902	4,947		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		92.7%	95.1%	96.0%		
予算の状況の説明	・予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事が出来た。					

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
景観美化作業員	目　標	（　-　）	（　-　）	（　4人　）	（　）
	実　績	-	-	（　4人　）	
【H24,25活動目標】観光ルート（町道L＝12,600m）のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行う	目　標	（　L＝12,600m　）	（　L＝12,600m　）	（　-　）	（　）
	実　績	L＝12,600m	L＝12,600m	-	
達成状況説明	・景観美化作業員を４名雇用し、町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化に努めた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
観光ルート延長L12,600mの町道メンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を実施	目　標	（　）	（　L＝12,600m）	（　L＝12,600m）	（　L＝12,600m）	（　L＝12,600m）
	実　績		L＝12,600m	L＝12,600m	L＝12,600m	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化がはかられた。 ・また次年度も同じルートの景観美化をはかっていく。					

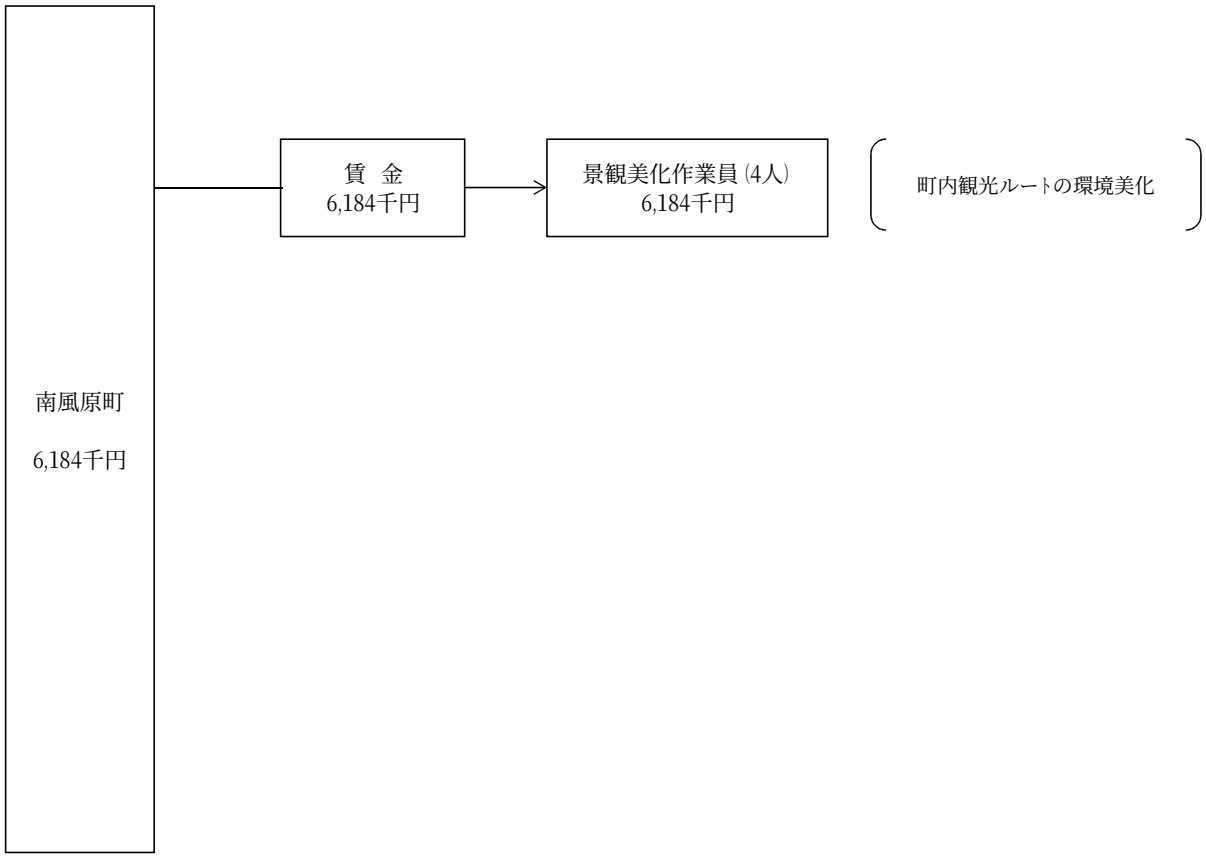
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光ルートでもある町道については、メンテナンス箇所を効率的に計画し、恒常的にクリーンに保つことが必要になる。 ・夏季においては、草木が著しく成長するため、場所によっては短期間での伐採等が必要になることがある。	・町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化が図られた。 ・草木は、夏季に著しく成長（繁茂）するため、町道のメンテナンスを効果的に実施できるよう伐採等を行い、景観美化の向上に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・観光ルートのメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を継続し、今後も景観美化の向上に努める。
・夏季においては、草木の伐採を効率的に行い、町道のメンテナンスを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,184	6,184	4,947	1,237	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定雇用しており妥当だと考えている。 ○予算規模は町の基準で積算されているので適正と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	かすりの道景観活性化プロジェクト		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（２）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容

魅力的な観光地、まちづくりを形成するため、地域の観光資源である「かすりの道」に観光客誘客をねらう。
地域住民参加による色鮮やかな花の植栽等の緑化活動、地域ガイド活動、道並などの整備を行い滞在型観光客の受け入れ態勢を整える。
誘客策としてイベントを開催するなどし、かすりの道の来訪者（観光客・地元客）が安心・安全に散策できる散策体験プログラムや地域住民と協働で整備を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	6,676	5,000	4,254		
	(b)予算現額	4,545	3,753	4,254		
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,131	▲ 1,247	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	4,545	3,753	4,254		
B．執行済額		4,260	3,343	3,962		
うち交付金充当額		3,408	2,674	3,169		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		93.7%	89.1%	93.1%		

予算の状況の説明

・イベント経費も地域住民の協力の元、事業実施が行えたため、イベント経費を押さえることができた。また、チラシ原稿を自ら製作し、印刷のみを依頼にしたことでも、経費を抑えることができた。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
イベント開催：６回	目　標	（　-　）	（　1回　）	（　6回　）	（　　）
	実　績	-	5回	7回	
かすりの道緑化活動：１０回	目　標	（　10回　）	（　10回　）	（　10回　）	（　　）
	実　績	10回	12回	28回	
【H24活動目標】①かすり体験プログラムの製作 ②壁面かすりの柄装飾	目　標	（　①1本、②43ヶ所　）	（　－　）	（　－　）	（　　）
	実　績	①1本、②43ヶ所	－	－	

達成状況説明

・かすりの道を４名から30名の団体で道歩きをするかすりの道ツアーを７回開催し、町内外から284名のツアー客の参加があった。ツアー開催時に、かすりの道集落内の古民家を活用した「お茶会」や「古民家コンサート」も行い、参加者からは好評化だった。
・かすりの道緑化活動は、かすりの道両側に植栽をした草花の雑草取り、施肥、季節の花の植付などを毎月第１日曜日にかすりの道周辺の住民と観光協会で定期的に行っている。それに合わせて肥料の配布と施肥や新しい花の選定と配布・植え付けなどを継続的に行っている。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
かすりの道散策ツアー参加者：３００人	目　標	（　　）	（　-　）	（　1回（10人））	（　300人　）	（　　）
	実　績		-	5回（210人）	284人	
イベント参加者：１８０人	目　標	（　　）	（　-　）	（　-　）	（　180人　）	（　　）
	実　績		-	-	222	
【H24活動目標】①かすり体験プログラムの製作 ②かすりの道緑化活動 ③壁面かすりの柄装飾	目　標	（　　）	（①1本、②10回 ③43ヶ所）	（　-　）	（　-　）	（　　）
	実　績		①1本、②10回 ③43ヶ所	-	-	

進捗状況説明

・従来かすりの道ツアーは、ガイドが観光客を案内すると同時に、集落の住民が一緒に回ってガイドの説明の後で現場の昔を説明することで、現在周辺の地形が変わっていても十分に観光客が想像できるようなシステムをつくって案内をしている。しかし、ホームページやSNSなどの媒体で、かすりの道散策ツアーをPRするが、目標達成には至らなかった。
・今年度は、古民家を活用して「お茶会」や「古民家コンサート」を開催し、同時にツアーを組み立てることにより多くの誘客に結び付いたこと、また、イベント開催時には周辺集落の住民が地元の特産品の販売も行ってくれたことは住民と観光協会の協働の取り組みとして成果があった。
・かすりの道緑化活動は、季節ごとに道周辺の花の植え替えと、水やり、草取りなどの管理を毎月第１日曜日に周辺住民の方と行っているが、主婦が多く１回の集まりに１０名前後の周辺住民が集まってくれる。と同時に字本部の１集落から隣の字照屋の集落まで緑化運動が発展していき、字照屋では女性会が中心になって取り組んでいる。着実に住民が環境美化によってお客様をもてなす気持ちが出来てきていると感じる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・かすりの道緑化活動として、現在かすりの道周辺の住民による、道の維持管理や観光客への取り組みを理解し始めているが、3集落の内2集落にとどまっている。 ・緑化運動において、道路周辺の民家では非協力的な家庭がある。 ・特に個人で機織りをしているかすり工房などでは、観光客が見学に来ると仕事の邪魔になるという工房もあり、全工房の協力を取り付けるには時間がかかる。 ・路面清掃においては水の確保が難しくて清掃回数が少なく、集水方法と採水場所を検討し次回からは充分な対応をしていく。 ・ホームページやSNSなどの媒体でかすりの散策道ツアーをPRするが、目標達成には至らなかった。	・かすりの道緑化活動としての取組に対して理解が得られるよう、字の行事などに説明をおこなっていく。 ・緑化活動を継続していくことで、道路周辺の民家では非協力的な家庭も理解を求めていく。 ・かすりの道に観光客の誘客し、周辺住民の利益に結びつくイベントを開催することが理解をえる大きな要素であるということが、今回実施した古民家でのお茶会に周辺集落の住民が協働で物産の販売を行ったことで実証された。また、古民家で行われた「古民家コンサート」では、南星中学校吹奏楽部の生徒や字内の民謡愛好家の方々や隣集落の声楽家の方の協力があり、住民がスタッフの一員としてかかわってくれたことで大きな成果を得た。これらのことを緑化活動にも反映し、かすりの道に観光客を誘客し、周辺住民の利益に結びつくイベントを開催することで、工房の方々にも理解を得る。 ・集水方法と採水場所を検討したい。 ・かすりの道散策ツアーだけの告知では集客力が弱い部分があるので、古民家やかすりの道を活用したイベントの回数を増やして実施する。

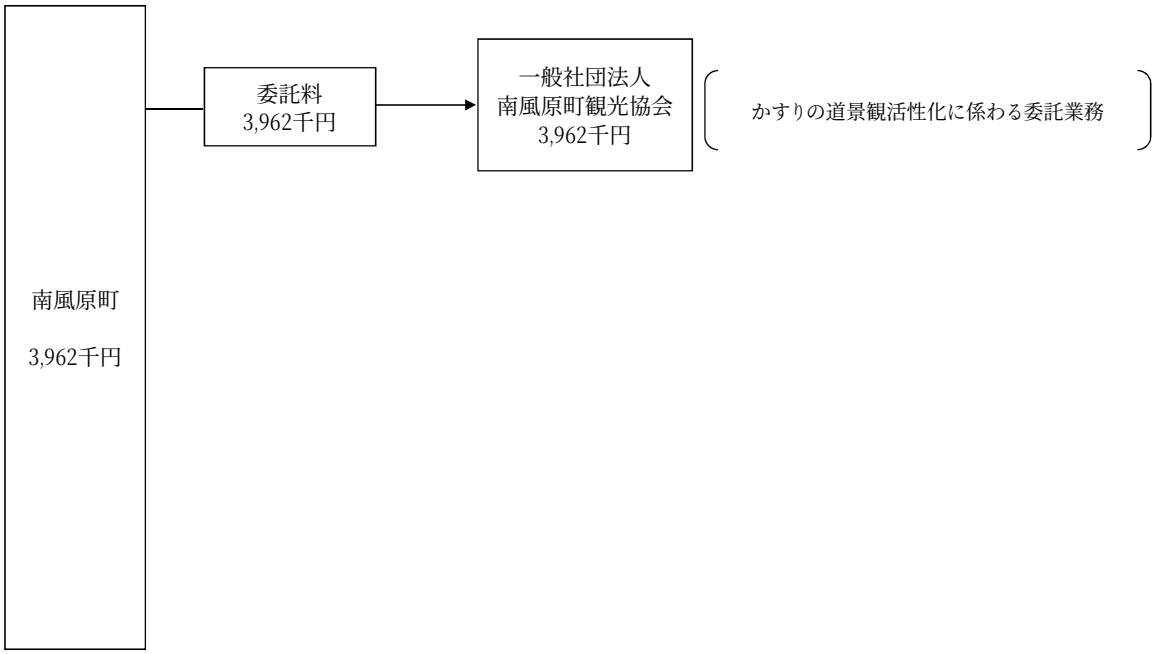
今後の取り組み方針

・かすりの道に観光客の誘客し、周辺住民の利益に結びつくイベントを開催することが関係者の理解を得る大きな要素であるということが、今年度開催した古民家でのお茶会時に周辺集落の住民が協働で物産の販売を行ったことで実証された。また、古民家で行われた「古民家コンサート」では、南星中学校吹奏楽部の生徒や字内の民謡愛好家の方々や隣集落の声楽家の方の協力があり、住民がスタッフの一員としてかかわってくれたことで大きな成果を得た。今後も、集落内の古民家を活用したイベントを開催し、古民家を「休憩所」として活用する。
・かすりの道の取り組みを町内外に広くアピールするため、ポスターやパンフレットを作成、広告媒体を活用してPRしていく。
・緑化活動を継続していくために、周辺住民との関係を密にし、更に理解を得られるように地域の和を広げていく。
・今まで言われている観光資源がないという南風原町において、住民と一緒になってつくりあげていく観光が南風原町の観光ととらえ、まちづくりの原点にたちかえって『物の観光』から『心の観光』へと時間はかかっても周辺住民とともに作っていく。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,962	3,962	3,169	793	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業の契約先である一般社団法人南風原町観光協会は来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	やさしい観光地づくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	滞在型ツアーなど観光客が求める情報提供を行うため、観光パンフレット等の紙媒体とスマートフォンを連携し、興味喚起から現地の誘導までをワンストップで提供し、地域における滞在制の向上を目的とし、スマートフォンが活用しやすいよう、野外ホットスポット(Wi-Fiアンテナ)を建て、スムーズな情報提供を行い、町独自の観光案内システム(アプリケーション)製作を地域における滞在性の向上を目的として実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	29,265	31,549	-	31,541	
	(b)予算現額	29,265	25,467	-	31,380	
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 6,082	-	▲ 161	
	(d)前年度繰越額	－	－	19,856	－	
	A．計(b+d)	29,265	25,467	19,856	31,380	
	B．執行済額	28,388	5,395	19,656	30,355	
	うち交付金充当額	22,710	4,316	15,725	24,284	
次年度繰越額		－	19,856	-	－	
執行率（%）(B/A)		97.0%	21.2%	99.0%	96.7%	

予算の状況の説明：・事業の見直しにより161千円減額しているが、予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事が出来た。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・観光プロモーション実施	目　標	（3回）	（実施）	（4回）	（　）
	実　績	3回	実施	4回	
・無線インフラ(公衆Wi-Fi)設置	目　標	（2箇所）	（7箇所）	（6ヶ所）	（　）
	実　績	2箇所	7箇所	6ヶ所	
・観光ポータルサイト及びAR運用	目　標	（観光サイト、アプリ制作：1サイト）	（観光ポータルサイト及び観光アプリの改善・強化）	（観光ポータルサイト及びAR運用）	（　）
	実　績	観光サイト、アプリ制作：1サイト	観光ポータルサイト及び観光アプリの改善・強化	観光ポータルサイト及び観光アプリの改善・強化	

達成状況説明：
・町内に新たに4箇所、Wi-Fiアンテナを設置し、リピーターを2箇所設置。可動式リピーター(イベント用)1基購入。
・観光ポータルサイトの改善や機能強化行った(目的別コンテンツの拡充、人気スポット情報欄金表示等)。
・観光アプリの機能強化、機能追加を行った(トップ画面のフリーデザイン化、現在位置児童更新化等)。
・町内外のイベントでの観光PR、独自のイベント開催(南風原物産展、ウルトラマンプレシャスステージ、『飛び安里』inてんぷす前広場、『飛び安里』in那覇空港)、観光アプリ、観光サイトの紹介を行った。
・パンフレット等の紙媒体を町外のホテルや集会所等他県わりの観光客が集まる場所に設置できるよう開拓。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
Wi-Fi接続数	目　標	（　）	（－）	（－）	（3,500/月）	（　）
	実　績		－	－	3,309/月	
観光ポータルサイト接続数	目　標	（　）	（－）	（－）	（9,600/月）	（　）
	実　績		－	－	9,685/月	
観光アプリダウンロード数	目　標	（　）	（－）	（－）	（600/年）	（　）
	実　績		－	－	715/年	
【H24,25成果目標】①観光プロモーション実施 ②無線インフラ(公衆Wi-Fi)設置 ③観光ポータルサイト及びAR運用	目　標	（　）	（①3回、②2ヶ所 ③観光サイト、アプリ制作：1サイト）	（①実施、②7ヶ所 ③観光ポータルサイト及び観光アプリの改善・強化）	（－）	（　）
	実　績		①3回、②2ヶ所 ③観光サイト、アプリ制作：1サイト	①実施、②7ヶ所 ③観光ポータルサイト及び観光アプリの改善・強化	－	

進捗状況説明：
・Wi-Fiの接続数が目標に達しなかった理由として、設置箇所の選定に時間を要し、Wi-Fiの運用開始が遅延したため。
・観光ポータルサイト、観光アプリの改善や機能強化を行ったことや、観光プロモーションを町内外で実施したこと、またパンフレット等の紙媒体を観光客が集まる箇所に設置したことにより、観光サイト接続数及び観光アプリのダウンロード数が目標を上回った。
・平均Wi-Fi接続数：3,309/月　・平均観光サイト接続数：9,685/月　・平均観光アプリダウンロード数：59.6/月

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光客への興味喚起から現地誘導までをワンストップで提供するため、Wi-Fiスポットを整備しスムーズな情報提供を行い、町独自の観光案内システム（観光アプリ）の整備を行った。 ・設置箇所の選定に時間を要し、Wi-Fiの運用開始が遅延したためWi-Fi接続数が目標に達しなかった。 ・無線インフラ（Wi-Fi）整備を行っているが、住宅の屋根や、高台などの影響により、電波が弱い又は届かないエリア（不感地帯）も存在する。 ・観光サイトの閲覧数や、観光アプリのダウンロード数を増やしていかなければならない。	・今後はWi-Fi接続数の増加を図るため、観光客への周知活動等を検討していく。 ・電波調査を基に、観光の重点施設への不感地帯へのWi-Fiアンテナ増設を検討する。 ・最新の情報を常に発信することや、観光アプリのPRを行うことで、閲覧数やダウンロード数の増加を図る。

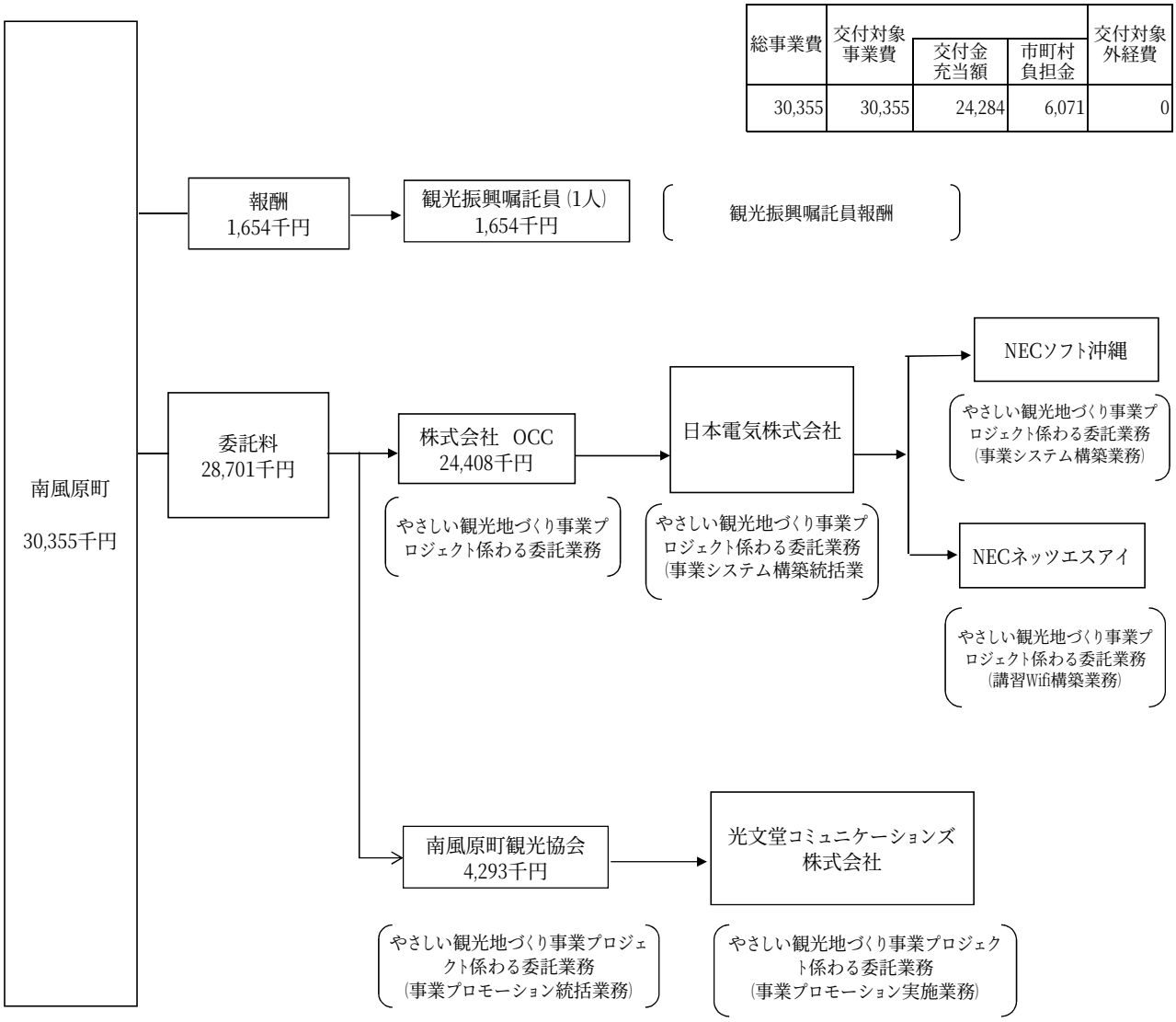
今後の取り組み方針

・今後更に、情報化社会となり、通信技術が観光に大きな影響をもたらすと予想される。そのために、情報通信の基盤整備を行い、同時に南風原町の観光情報を発信していくことが必要となる。

・観光サイト、観光アプリのコンテンツ更新を常に行い、南風原町の最新の情報を発信する。また並行し、プロモーション活動も定期的に開催していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
30,355	30,355	24,284	6,071	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企画のプレゼンによって、選定委員会によって決定しているので、適正であると考える。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－④	デザイン･くくり担い手育成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（4）－イ 文化の担い手の育成
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

本町の琉球絣は伝統工芸品として有名だが、現在不足している「デザイン･くくり」の継承者を育成する必要がある。デジタル方法で新しいデザインを生み、管理できる新たな道を開く。若い担い手の活動の場を提供し、かすりの伝統工芸の継承を促進しつつ、新しい分野での発展の可能性を向上させる。絣の基礎知識、全行程も学びながら、デザインくくりの技術を習得させ「デザインくくりの担い手」として、即戦力になるまで3年間育成する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,684	30,000	24,899		
	(b)予算現額	12,684	17,770	22,791		
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 12,230	▲ 2,108		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	12,684	17,770	22,791		
B．執行済額		11,564	16,140	22,275		
うち交付金充当額		9,251	12,912	17,820		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）（B/A）		91.2%	90.8%	97.7%		

予算の状況の説明

･成果展を他イベントと同時開催したため広報費用を圧縮でき、研修プログラム強化のための見直しにより、効果的に材料等を活用したことによる費用圧縮ができたため委託費用を3月補正にて減額を行ったが、当初計画していた事業内容は全て実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
工房の即戦力となるデザインくくりの技術者を育成する（絣の基礎知識の学習、視察研修、パソコン講習、デザイン製作、デザインくくり技術の実践、成果品作製）	目　標	（　－　）	（　－　）	（技術者育成）	（　　）
	実　績	－	－	技術者育成	
【H24,25活動目標】デザインくくりの担い手育成	目　標	（5名）	（5名）	（　－　）	（　　）
	実　績	5名	3名	－	

達成状況説明

･南風原だけでなく、多くの場所や織物を見ることで、知識や折り方、歴史を学習し、広い視野を得る事を目的に、絣を取り扱っている場所に赴き、見学･学習を行った。また、デザインを考案するためのパソコン講習会等を開催した。
･基礎的な知識を学ぶと同時に、デザインくくりの技術を講師から教わり、その技術を習得するために何度も練習を重ねながら、新たなデザインを考案し挑戦した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
デザインくくりの担い手技術者育成人数：6名	目　標	（0人）	（5名）	（5 名）	（6名）	（18人）
	実　績		5名	3名	6名	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

･H25年度から引き続きの育成人数3名のうち1名は、やむを得ない理由により退職という形となり、新たに4名を新規育成者として採用した。
･3年目の2名は、集大成の年度であり、高度な技術を要する作品づくりにも取り組み、3カ年の育成期間を終了した。
･1年目の4名は、研修や実践を通しながら、絣の基礎知識や全行程を学びながら、デザイン括りの技術習得に取り組んだ。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現在不足している「デザイン・くくり」の継承者を育成し、若い担い手の働く場を提供することで絣の伝統工芸の継承を促進しつつ、新しい分野での発展の可能性を向上させるために、絣の基礎知識、全行程も学びながら、「デザインくくりの担い手」として即戦力になるまで3年間育成する事業を実施している。 ・H24年度に5名の研修生を採用し、デザイン括りの技術習得に取り組んでいたが、育成期間途中で家庭の事情などやむを得ない事情で3名が辞めてしまった。その結果、3年間の育成期間を卒業した受講者は2名となった。 ・H26年度新たに採用した4名の受講生は、絣に関する基礎知識を学び、デザイン括りの実践に取り組んでいたが、複雑な工程では作業が遅れたり、失敗も見られた。	・研修生の諸事情も解決できる部分は、事業所一体となって対応し、職員が働きやすい環境作りをつくる。 ・製作過程で失敗を何度か繰り返すことにより、どの方法で対処したらいいのかを学び、修正が可能になる。繰り返し工程を学ぶことが技術の習得につながる。

今後の取り組み方針

・職員とのコミュニケーションや無理のない勤務体系などを検討し、働きやすい職場環境を目指す。
・研修者には、繰り返し工程を実践することで、失敗が減り、技術の習得に繋がるため、多くの経験を積ませる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,275	22,275	17,820	4,455	0

南風原町
22,275千円

→ 委託料 22,275千円 → 琉球絣事業協同組合 22,275千円（デザインくくりの担い手育成に係わる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。選定方法は妥当であったと考えている。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑤	担い手経営戦略事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－イ 伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

琉球絣に携わる担い手が、生産をするだけではなく、グローバルな視点をもち、全国、世界に対応できる人材を育成し、産業として成り立つよう経営戦略を長期的に学ぶ。新たな絣工芸品の開発及び二次加工製品の新技術との融合により付加価値のある製品開発を行い、成果展を開催する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,935	6,000	5,412		
	(b)予算現額	2,935	6,000	5,412		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	2,935	6,000	5,412		
B．執行済額		2,868	5,582	5,374		
うち交付金充当額		2,295	4,465	4,299		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		97.7%	93.0%	99.3%		

予算の状況の説明：・予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事が出来た。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
経営戦略についての知識･方法について学習する。(担い手･若手集会をもうける、勉強会開催、商品開発会議、試作品作製)	目　標	(　－　)	(　－　)	(経営戦略に関する学習)	(　　)
	実　績	－	－	経営戦略に関する学習	
【H24,H25活動目標】絣事業担い手経営学習者数	目　標	(　6名　)	(　6名　)	(　－　)	(　　)
	実　績	6名	6名	－	

達成状況説明：
・絣関係の若手の集まる場を設けることで、新商品開発や将来の経営戦略に向けて、活発な議論を促した。(勉強会11回)
・経営戦略についての講習会や他地域の伝統工芸の視察等を通して、経営戦略について学習した。(講習会5回)(県外視察2回)
・これから琉球絣を更に販路開拓していく上で必要となってくる新商品の開発、他事業所とのコラボ商品の開発を行い、販路開拓の実践を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
絣事業担い手経営学習者数　6名	目　標	(　0人　)	(　6名　)	(　6名　)	(　6名　)	(　6名　)
	実　績		6名	6名	6名	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
・講演会や勉強会、県外視察を開催、参加することで知識や技術の習得に繋がった。
・新商品開発に向けて勉強会や会議を設け、試作品を制作した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・琉球絣に携わる担い手に、生産するだけでなく、グローバルな視点を持ち、全国、世界に対応出来る人材に育つよう経営戦略を学んだ。 ・参画している担い手経営学習者は、それぞれの仕事があるため、日程の調整が上手くいかないこともあった。 ・参画している担い手経営学習者の経営者としての意識の向上が見られ、学習会や講習会の参加も積極的になってきている。	・今後も継続して担い手経営者の意見交換や勉強回の場を持つ際には、早めの日程調整を行う。 ・本事業で高まった意識を持続、更なる向上を図るために、経営に関する様々な情報にアンテナをはり、各々の研鑽につとめ、またそこで培った知識や技術を他の担い手経営者へ伝える必要がある。

今後の取り組み方針

今後も、担い手経営者の意見交換、学習会の場を定期的に持つことで、お互いの意識啓発や知識、技術の向上に努め、また今回の事業に参加していない担い手経営者にも巻き込んで、絣事業の担い手の意識、知識、技術の底上げを図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,374	5,374	4,299	1,075	0

南風原町
5,374千円

→ 委託料 5,374千円 → 琉球絣事業協同組合 5,374千円（担い手経営戦略事業に係わる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。選定方法は妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑥	伝統工芸と観光戦略事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（２）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

伝統工芸品である琉球絣は貴重で町民誰でも憧れの品です。南風原町民だけではなく、町内外の方々にも絣の良さを知ってもらうため、滞在型観光につながる絣体験のコンテンツをプログラム化し、南風原町でしか経験できない体験をつくる。さらに絣事業の拠点でもあるかすり会館を観光客のニーズに対応したディスプレイのレイアウトづくりを行う事で、町内外からの観光客の増加を目的とする。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,770	56,190	4,658		
	(b)予算現額	3,770	55,376	3,729		
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 814	▲ 929		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	3,770	55,376	3,729		
B．執行済額		3,279	54,764	3,729		
うち交付金充当額		2,623	43,811	2,983		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		87.0%	98.9%	100.0%		

予算の状況の説明

・町のまつりや物産展などの大きなイベント前後は、モニター体験の対応が難しく、予定よりモニター体験者が少なくなったため、委託費用を3月補正において減額を行った。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
かすり体験プログラム構築	目　標	（制作1本）	（制作3本）	（制作4本）	（　）
	実　績	制作1本	制作3本	制作5本	
(参考)琉球絣会館改修工事実施(H25終了)	目　標	（－）	（工事完了）	（－）	（　）
	実　績	－	工事完了	－	

達成状況説明

・県内外の観光客を集客する事を目的に、南風原らしい体験学習プログラムの構築を図った。体験プログラム構築に向けて会議を設け、事業所との調整等を行い、体験プログラムのモニタリングを行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
モニター参加者目標:10名／月	目　標	（0人）	（体験プログラム制作1本）	（10名／月）	（10名／月）	（　）
	実　績		体験プログラム制作1本	47名／年	8.1名／月	
(参考)琉球絣会館改修工事の完了(H25終了)	目　標	（　）	（－）	（工事完了）	（－）	（　）
	実　績		－	工事完了	－	

進捗状況説明

・体験プログラムのモニタリングを行う事で、観光客の実際の意見を聞くことができ、その意見をこれからの体験プログラムや絣のデザインなどに活かしていけるものと思われる。
・9月～2月をモニタリング期間と定めて実施し、6ヶ月で60人を目標としていたが、町の大きなイベントである祭りや物産展が重なっていたことで、モニター体験の対応が満足にいかないなどの理由により、目標が達成できなかった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・モニタリング期間に、町の大きなイベントである祭りや物産展が重なっていたことで、モニター体験の対応が満足に出来なかったため、モニター参加者数について目標を達成することができなかった。 ・モニタリングの参加者は基本的に予約制で行っているが、飛び込みでの参加希望者が来た際に、「琉球絣」よりも高度な技術を要する「南風原花織」をリクエストする事があり、講師の方が対応出来ないため、要望に答えられなくなる。 ・外国からの体験者が来た際に、言葉の壁がある。 ・体験プログラムの参加者を増やすために、プログラム内容の改善を図る。	・モニター参加者数の目標達成に向けて今後は、体験プログラムの改善を行い、効率アップを図ることを検討するとともに、体験プログラムを受け入れる絣組合の体制の改善を図る。 ・体験プログラムの広報をする際に事前予約を促し、受け入れ体制を整えることで、体験者の希望を出来る限り汲むようにする。 ・外国からの体験者が来ても対応出来るよう、体験の手順説明を紙ベースで作成し、それをもとに説明出来るようにする。 ・参加者を増やすために、町内、町外、県外に対しての周知が必要になる。また、随時体験者の意見を聞き、体験者の満足度を高められるようなプログラム内容へ改善を図る。

今後の取り組み方針

・今後は、体験プログラムの改善を行い、効率アップを図ることを検討するとともに、体験プログラムを受け入れる絣組合の体制の改善を図る。
・体験プログラムの広報（ホームページやパンフレット等）に、事前予約を促し、参加者にとってスムーズな体験が出来るように、糸と道具の管理を講師と一緒に行う。また、飛び入りの参加者が来た際にも出来る限り希望を汲めるように、人気のあるプログラムは準備しておく。
・外国人の受け入れに関しては、インターネットの翻訳システム等を活用し、体験プログラムを説明する上で必要なものに関しては紙におとしこみ、それをもとに説明を行っていく。
・町内、町外、県外へ体験プログラムをPRするため、町の広報誌やホームページ、パンフレットなどの媒体をフルに活用し、参加者の増加を図る。また、参加した人へはアンケートの協力をお願いし、体験者の意見を汲み取ることで、プログラム内容の改善を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,729	3,729	2,983	746	0

南風原町
3,729千円
→ 委託料 3,729千円
→ 琉球絣事業協同組合 3,729千円
（絣の体験プログラムに係わる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○「伝統工芸と観光戦略事業」は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑦	町独自の商品開発技術力強化事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－(9)－ア ものづくり産業の戦略的展開
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

地域資源の活用や異業種連携による商品開発及び企業と連携により消費者のニーズを踏まえたデザイン性･機能性に優れた南風原らしい、商品開発等を行い、産業展開する。異業種があつまり、プロジェクトチームを組み、南風原らしい商品開発を行い、生産、販路まで、展開し、競争力を高める。平成24年度はターゲットを２点に絞り、平成25年度は実際に商品を作る。平成26年度は、開発した商品の販路を開拓、拡大させる。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,477	8,322	7,718		
	(b)予算現額	5,477	7,411	7,718		
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 911	0		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A. 計(b+d)	5,477	7,411	7,718		
B. 執行済額		3,971	7,158	7,718		
うち交付金充当額		3,176	5,726	6,174		
次年度繰越額		-	-	-		
執行率（%）(B/A)		72.5%	96.6%	100.0%		
予算の状況の説明		当初の予定どおり事業の執行をおこなうことができた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度(２－③－ｘｉ)	25年度(2-⑦)	26年度	27年度
加工品製造先の育成指導	目　標	(　－　)	(　－　)	(　3回　)	(　　)
	実　績	－	－	5回	
町内外でのイベント等への出品によるPR	目　標	(　－　)	(　－　)	(　2回　)	(　　)
	実　績	－	－	8回	
バイヤーとの商談	目　標	(　－　)	(　－　)	(　2箇所　)	(　　)
	実　績	－	－	商談会視察1回	
[H24、H25活動目標]プロジェクトチームによる試作品開発	目　標	(　2品　)	(　試作品開発　)	(　－　)	(　　)
	実　績	2品	試作品開発	－	
[H25活動目標]試作品の試食会の開催	目　標	(　－　)	(　試食会の開催　)	(　－　)	(　　)
	実　績	－	試食会の開催(2回)	－	

達成状況説明

- 食品に関する視察、販路開拓のための研修会を5回実施。スターフルーツのコンフィ(砂糖煮)作りの普及のため講習会を2日間実施。
- 町内事業者を対象にバイヤー(沖縄県物産公社)による講習会を開催し、商品開発に関するスキル向上を図った。
- 沖縄大交易会(コンベンションセンター)においては、視察研修ではあったが、今後の出展に向けてスキル向上を図った。
- スターフルーツ、美瓜を使用して開発した商品2品(ゆめかなえぼし、美瓜カレー)を中心に、県内外のイベント各種に参加してPRをおこなった。
- 各所での出展時などにはバイヤーとの商談を進めたが、納入価格や賞味期限等の条件面で折り合わず、わしたショップ那覇空港店の1箇所のみの商談成立となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度(２－３－ｘｉ)	25年度(２－⑦)	26年度	目標値(　27年度)
販売先の確保	目　標	(　　)	(　－　)	(　－　)	(　5箇所　)	(　　)
	実　績		－	－	2箇所	
[参考指標]開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 ゆめかなえぼしマドレーヌ(H25開発)	目　標	(　　)	(　0　)	(　0　)	(　1,000個　)	(　1,700個　)
	実　績		0	0	1,641個	
[参考指標]開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 美瓜カレー(H26開発)	目　標	(　　)	(　0　)	(　0　)	(　100食　)	(　350食　)
	実　績		0	0	180食	

進捗状況説明

- 平成24年度はスターフルーツや美瓜(ヘチマ)を使用してジャムやピクルスを試作。平成25年度は美瓜を使った佃煮を試作し、スターフルーツのコンフィを使った「ゆめかなえぼしマドレーヌ」を新商品として開発。平成26年度は美瓜を使用した「美瓜カレー」を新商品として開発。「ゆめかなえぼし」、「美瓜カレー」を町内事業所2箇所でテスト販売をおこなった。
- ゆめかなえぼしマドレーヌ、美瓜カレーともに販売目標を達成できているので、今後も継続して販売を続けていく。
- ゆめかなえぼしマドレーヌ、美瓜カレー2品目の販売先(自社、リテーラー等)の確保に関しては、県内外でのイベント出展8回の中で、何度か商談を行ったが合意には至らず、自社店舗2箇所と「わしたショップ那覇空港店(ゆめかなえぼしマドレーヌを販売)」の合計3箇所となった。販路拡大の為に、リテーラーとの商談を成立させるには、納入価格や賞味期限等の改善や製造方法の見直し、商品自体のブラシュアップを進める必要がある。
- スターフルーツとヘチマだけを原材料とした商品開発には、生産量や加工技術等の課題が多く、これだけに限らず、他の町産原材料(かぼちゃ等)、非食品分野(琉球絣など)を含めて再評価し、真に消費者や市場にとって魅力ある商品の開発を進める必要がある。

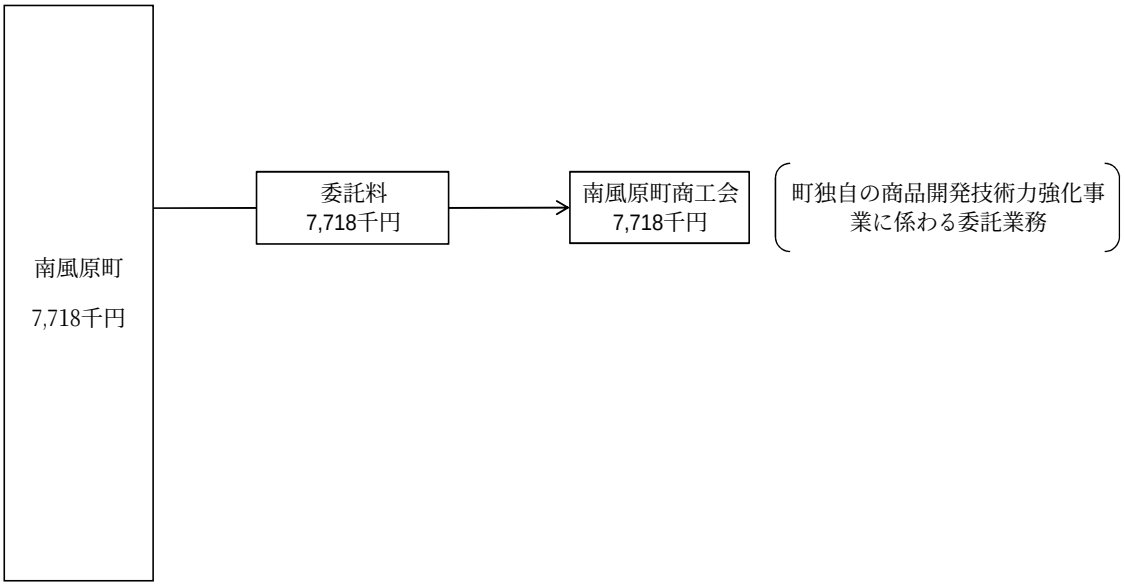
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内事業者では、スターフルーツとヘチマの加工技術に限りがあり、お土産品などの加工食品の開発、商品化に課題が多い。 ・開発した現行商品2品目は、事業者が直接販売する上では大きな問題は無く、成果目標を達成することができたが、代理販売（リテーラー）、大手流通店舗が求める様な商品に育っておらず、県内外における出展時には、商談は行われたが、成立することが出来なかった。 ・成果目標に掲げた販売先の確保5箇所について、結果3箇所となり目標を達成できなかった。 ・マーケティングの観点から、スターフルーツ青果の市場流通量が未だ少なく認知度が低いことから加工食品の需要があるか、ヘチマも同様に加工食品の需要があるかを検証する必要がある。	・特産品開発のためにスターフルーツとヘチマ以外にも可能性のある食材を候補として、魅力ある商品を開発することに注力したい。 ・町内の食品加工技術には限界があり、加工技術をもった企業と契約製造を行うファブレス（外部製造）なども模索が必要なフェーズとなっている。 ・食品分野に限って商品開発を行ってきた経緯があるが、非食品分野の開発にほとんど着手しておらず、様々なニーズやニッチマーケットにおいても、あらゆる可能性を模索し、町産品の再評価を進める必要がある。 ・商談を成立させるには、納入価格や賞味期限等の改善や製造方法の見直し、商品自体のブラシュアップを進める必要がある。 ・販路拡大に関しては成果目標の設定を、バイヤーに販売することだけを最終的な目標とせず、ご当地グルメとして商品を育て、流通量を増やすことや、自社の販売であっても、EC（電子商取引）などで販路を開拓して行くことも時流と言え、成果目標の再考も含めて検討したい。 ・スターフルーツ、ヘチマの加工食品の需要検証のため市場調査をおこなう必要がある。

今後の取り組み方針

・加工食品の開発に適した食材の選定を再度行い、加工技術についても、現状の町内に不足している技術であれば、外部製造（ファブレス）等の手法も取り入れ、町内事業者の育成を推進する。
・平成27年度は食品分野に限らず、非食品分野の商品開発を進め、新たに2品の開発をめざし、今後も南風原町の魅力をPRできる特産品の開発や育成を進める。
・ゆめかなえぼし（スターフルーツ）マドレーヌ、美瓜（へちま）カレーともに、今後も商品のブラシュアップを進め、目標を達成出来るよう、販路開拓やPR活動等を続ける。
・販売先の確保や販売実績の向上といった目標を達成するために、地域ブランドの育成や、認証制度等を活用して県内外に町特産品の情報を発信していく。
・本町の特産品開発や現状ある特産品の販路拡大を行うために、市場調査や研究を更に進めたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,718	7,718	6,174	1,544	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を十分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの町内事業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であると考える。 ○執行率が100%であり、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑧	南風原町地域農業活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－イ 県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

野菜、花卉、果樹等の露地栽培では、本県特有の気象条件(台風、長雨、干ばつ等)や病害虫、鳥獣等による被害が後を絶たず安定供給の妨げになっている。それらの被害、影響の軽減を図る為、耐候性施設(強化型パイプハウス)を設置する経費に対し補助を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	25年度	25年度(繰越)	26年度
予算の状況	(a)当初予算額	21,519	－	18,262	－	68,511
	(b)予算現額	21,519	－	18,262	－	61,000
	(c)増減額(b-a)	0	－	0	－	▲ 7,511
	(d)繰越額	－	21,484	－	18,262	－
	A. 計(b+d)	21,519	21,484	18,262	18,262	61,000
B. 執行済額		0	19,760	0	15,600	60,952
うち交付金充当額		0	15,808	0	12,480	48,761
次年度繰越額		21,484	－	18,262	－	－
執行率（%）(B/A)		0.0%	92.0%	0.0%	85.4%	99.9%

予算の状況の説明：11月25日に行った指名競争入札により、額が確定したので3月補正により7, 511千円を不要額として減額した。3月19日に町の完了検査を行い適正であると判断し、同月27日に補助金を支給し事業完了した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
強化型パイプハウス施設整備への補助10戸、スターフルーツ	目　標	(　5件　)	(　3件　)	(　10件、スターフルーツ　)	(　　)
	実　績	5件	3件	10件、スターフルーツ	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：果樹農家(スターフルーツ)圃場、10カ所に15棟の強化型パイプハウスの設置工事が完了された。事業主体であるJAおきなわの完了検査に立ち会い、工事が適正に行われたことを確認し、事業主体への補助金を3月に交付し事業を完了した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
スターフルーツ生産目標	目　標	(　　)	(　－　)	(　－　)	(　10t　)	(　　)
	実　績		－	－	0t	
【H24,25成果目標】強化型パイプハウス設置件数	目　標	(　　)	(　5件　)	(　3件　)	(　－　)	(　　)
	実　績		5件	3件	－	

進捗状況説明：・農産物の成果目標について前年度までは、施設の件数と面積で設定していたが、生産量で示す方がより明確と判断し、今年度から生産量に変更を行った。しかし、果樹(スターフルーツ)については定植から1.5～2年目からの収穫になるため、事業の成果として効果を示すことができず実績0tとなった。なお、今回整備した施設は平成27年3月に施設が完成、引渡を終え4月上旬には、植え付けを完了している。そのため、平成28年9月からの収穫時に目標達成を見込んでいる。

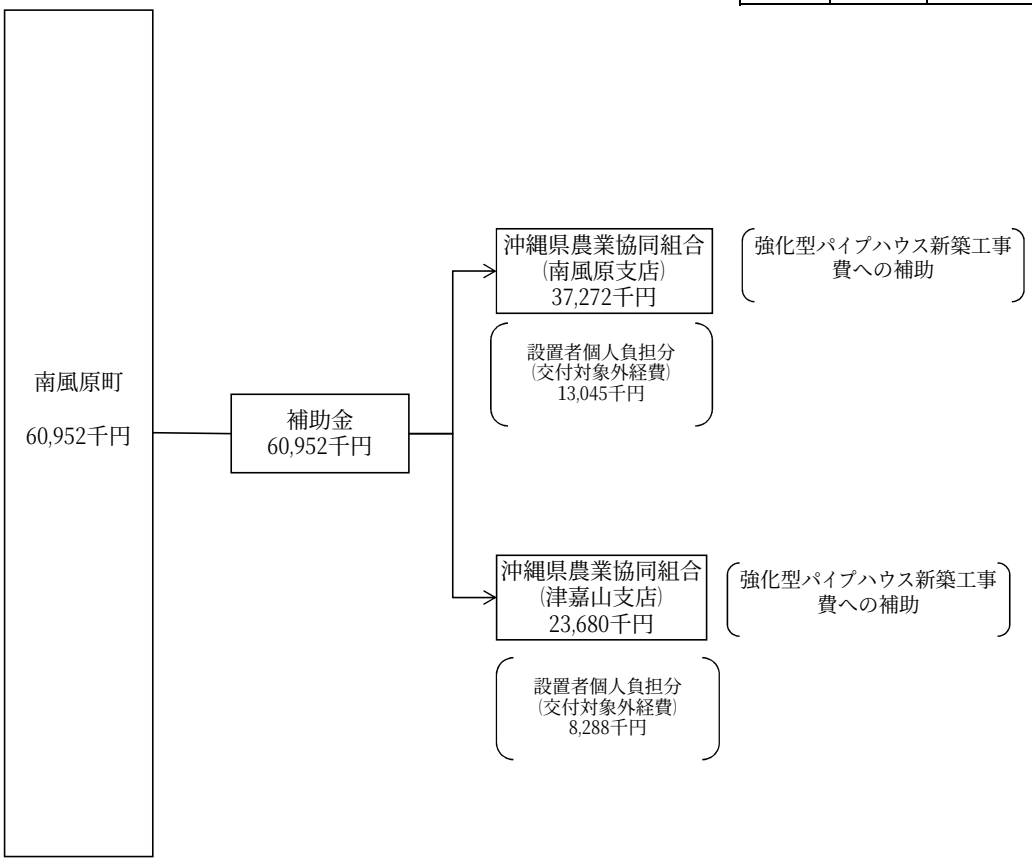
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	生産量の拡大に向け、施設導入に取り組むことで、現状より約2倍の作付面積が整備が行えた。市場への安定供給にむけ、更なる施設の導入が必要である。今後も安定的な供給体制の強化を図るとともに、販売促進によるスターフルーツのPRに力を入れる必要がある。	果樹類に関しては、植え付けから収穫までに1年以上かかると認識したが、成果目標を生産量で設定することで、評価が行いやすいと、施設件数と面積の目標値から生産量へと見直した。しかし、単年度での評価を示すには、以前の設定方法にもどし、次年度以降は計画する。

今後の取り組み方針

・生産農家や指導機関である営農センター等の関係機関である現場の声を事業に活かし、積極的に施設導入し、事業を推進していくことで災害に強く、安定的な生産・供給につなげることを支援する。また、今後取り組む、葉野菜類等（軟弱野菜）の栽培農家育成と栽培技術の普及に努める。
・事業要望調査表により、今後も農地の所有権等の事業対象条件の確認に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
82,285	60,952	48,761	12,191	21,333



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先であるJAの農家に対する支援及び指導能力、事業実績を勘案し妥当だと考えている。 ○施工業者は、事業主体であるJAが指名競争入札により低価格者を選定しており、選定方法及び価格は妥当だと考えている。 ○受益者分として設置者個人負担は妥当だと考えている。 ○補助金は、全て設置工事費として支払われており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑨	南風原名人制度創設事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－（６）－イ 地域づくりを担う人材の育成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

観光の国際化や多様な観光ニーズに対応するため、南風原町の地域人材を活用した地域発の観光商品の事業化に向けた取り組みを推進する。南風原町の体験ツールを増やす目的で、南風原町内の名人（得意なこと）制度を創設する。具体的内容としては、南風原町民対象に得意なことがあれば、その名人として認定委員会より認定し、認定書を発行。認定した後は、名人名簿に登録し、体験学習のプログラムをつくり、滞在型観光を支援する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,082	363			
	(b)予算現額	184	363			
	(c)増減額(b-a)	▲ 898	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	184	363			
B．執行済額		137	253			
うち交付金充当額		109	202			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		74.5%	69.7%			

予算の状況の説明

・名人登録やプログラム作成に力を入れたため、予定の名人活用ができなかったため、謝礼金の減額をおこなった。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
名人発掘活動（各種団体6回／年）（HP掲載／通年）	目　標	（　－　）	（各種団体6回／年 HP掲載／年）	（　）	（　）
	実　績	－	各種団体10回／年 HP掲載通年		
名人研修会	目　標	（　－　）	（　4回　）	（　）	（　）
	実　績	－	1回／5種類		
【参考：H25活動目標】体験学習プログラム数	目　標	（　2件　）	（　7件　）	（　）	（　）
	実　績	4件	10件		
【参考：H25活動目標】名人登録者（累計）	目　標	（　15人　）	（　累計15人　）	（　）	（　）
	実　績	10人	累計18人		

達成状況説明

・南風原町老人連合会や女性会、学童連絡協議会の指導員などに、告知をして名人の登録を依頼した。
・名人登録依頼をされた中から推薦者8人を4回にわたる選定委員会で名人として第1次審査を行い、認定をして登録をしてもらった。
・同時に10件の体験学習レシピを提出してもらい印刷し、体験時にテキストとして活用した。
・名人を民泊事業者の学習に活用した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（27年度）
体験学習プログラム数：7件	目　標	（　）	（　2件　）	（　7件　）	（　）	（　）
	実　績		4件	10件		
名人登録者（累計）：15人	目　標	（　）	（　15人　）	（　累計15人　）	（　）	（　45人　）
	実　績		10人	累計18人		

進捗状況説明

・町内の各団体組織を活用した名人の推薦のため、取り組みを理解してもらう事を優先に活動してきた結果、町内でも少しずつ認識が出来てきた。
・町内の福祉団体や民泊家庭に名人を活用したいとの要望もあり、派遣をして有効な活用がはかれた。そのことが町内でも話題になり福祉関係で問い合わせが増えている。と同時に名人の推薦者もでてきている。
・得意技を持っている人を発掘した場合は、趣旨を説明し同意を得た後「名人選定委員会」に図り、委員会において名人登録をした後に名人として活用をする。
・26年度は進捗が遅かったが、27年度には最終目標45名を達成する取り組みを行う。

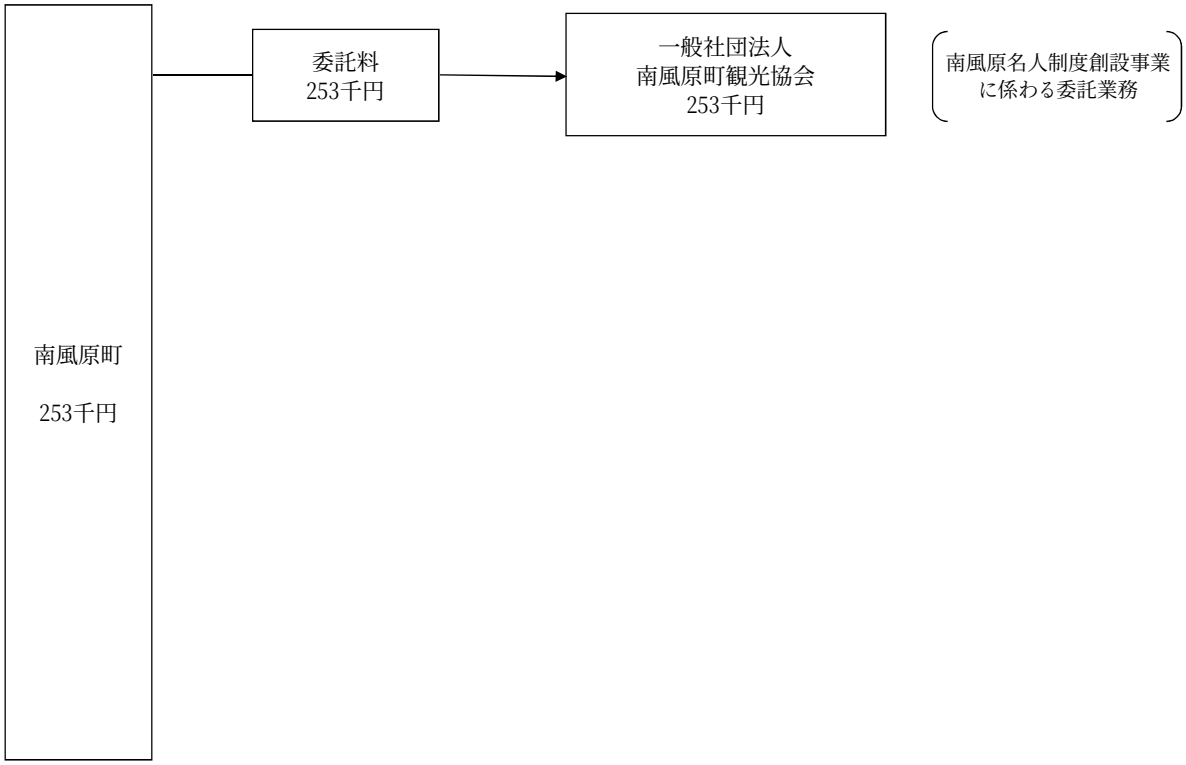
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・得意の技を持っていても人に教える事には躊躇する方が多く、そのあたりの説得に時間がかかっている。 ・民泊に来た修学旅行者が体験学習出来るように、民泊受入家庭へ名人からの指導が必要になってくるため、民泊事業との連携が必要である。 ・名人を登録しても、名人の特技の内容が分からないとの声もある。	・町内における民泊家庭の開拓とともに、名人制度の周知を図る。 ・町内の諸団体との連携をとり名人の発掘に努力をする。 ・町内の各組織においても名人の活用を奨励する。 ・民泊受入家庭に向けて名人を活用した、体験学習のカリキュラムをくみ民泊受入家庭でも体験学習ができるような連携を図る。 ・名人の特技が分かるような展示会を開催する。 ・体験発表の場を増やし、名人として教えることを経験してもらう。

今後の取り組み方針

・名人の数を増やし、体験学習のアイテムを多様化していく。
・旅行社や学校などに取り組みの周知を図る。
・民泊家庭との連携で、南風原町の特色を活かした名人の活用を図り、民泊受入家庭向けの名人を活用した講習会を開催する。
・町内各組織で活用をしてもらう事により、名人の取組趣旨を理解してもらい名人を増やしていく。
・名人の特技が分かるように、各名人の技の展示会を開催する。
・名人間の情報の交換を図るため、名人会の組織を立ち上げ次年度から自主的に運営ができるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
253	253	202	51	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑩	民泊啓発推進事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（2）－ウ
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度		観光客の受入体制の整備
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）

事業内容

南風原町には宿泊施設がないため、滞在型観光の振興の妨げとなっている。宿泊体験の推進を図り、滞在型観光を促進するため、企画･運営職員を配置し、宿泊体験家庭の開拓やシステムの構築など行って、観光推進体制を強化していく。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,598	3,563			
	(b)予算現額	2,644	3,563			
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,954	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	2,644	3,563			
B. 執行済額		2,337	3,389			
うち交付金充当額		1,869	2,711			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		88.4%	95.1%			

予算の状況の説明

･当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。
･民泊事業者の研修を意見交換や交流に切り替えたため、研修費を減額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
宿泊体験家庭数:５家庭	目　標	（　5家庭　）	（　5家庭　）	（　　）	（　　）
	実　績	9家庭	7家庭		
【H25活動目標】宿泊体験事業者講習会	目　標	（　6回　）	（　－　）	（　　）	（　　）
	実　績	6回	－		

達成状況説明

･滞在型観光を促進するため、受入に関心のある家庭に対して料理講習会や体験学習講習会等の体験学習の一助となる体験学習事業者育成事業を強化するとともに、受け入れ家庭間の連携に努め、受け入れ家庭の訪問を密にする努力をした。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値(27年度)
宿泊体験受入数:２５名	目　標	（　　）	（　25名　）	（　25名　）	（　　）	（　　）
	実　績		0名	80名		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

･平成25年度に開拓した受入民家に県の２団体から修学旅行生を紹介してもらい、宿泊体験をさせることにより新しい受入家庭が広がりを見せ始めた。その結果、目標数以上の受入を行うことができた。

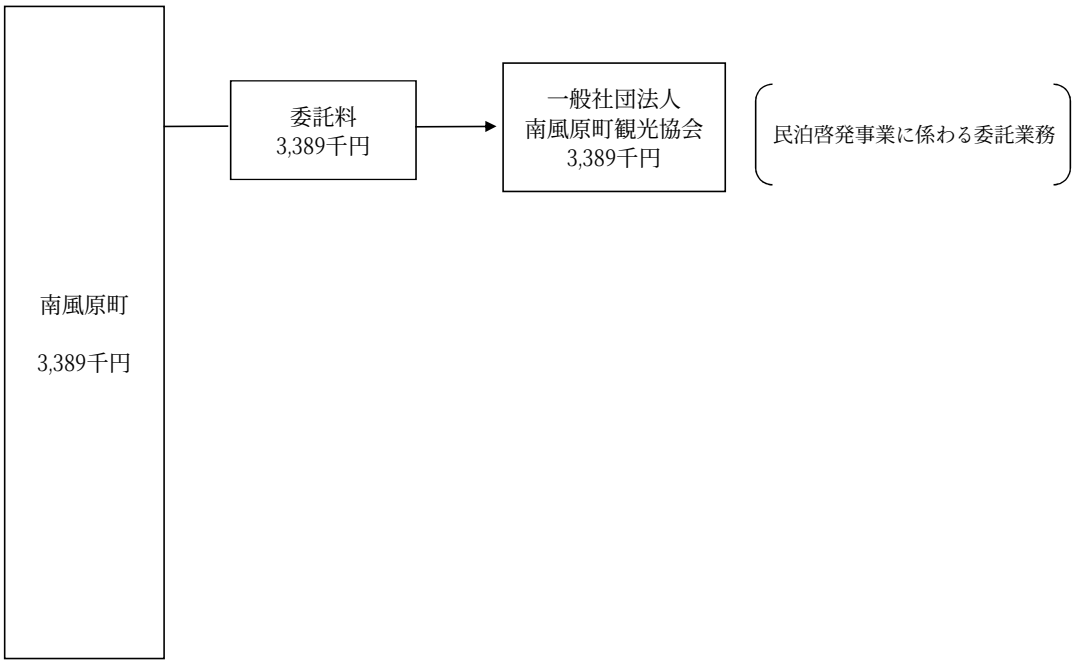
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町は那覇市近郊ということで子供たちは学校を卒業しても自宅から通勤をするため空き部屋が少ないとともに、民泊に対する関心も薄いため、時間をかけて宿泊体験家庭を増やしていく事が必要である。 ・体験学習において、自信がないとのことで躊躇する民家があるのでそのサポート体制が必要である。 ・民泊の対象である学生の修学旅行における宿泊先は、2年先まで決まっている状態であり、民泊受入家庭を開拓したり、学校へPRを行ってもすぐに誘客は出来ない状況である。	・町内において、民泊をしている受入家庭の紹介等をとおして、口コミにより受入家庭の委託に取り組んでいく。 ・沖縄県内ですでに民泊営業をしている団体との連携により、自主開拓ができるまで修学旅行生を紹介してもらう。それにより受入家庭の経験を積むことができる。 ・3年後を見据えて南風原町と関係のある他県の学校や旅行社への単独誘致営業を行う。 ・県内離島も対象に誘致営業を行っていく。

今後の取り組み方針

・民泊家庭間で食事内容や応対などに差が出ないようにするために、民泊家庭が少数の時点から組織化して、料理や体験学習、受け入れ応対など横の連絡を密にし常に情報の交換を行い民泊品質の均一化を図る。具体的にはマニュアルを作成し、民泊の受け入れをやりやすくする。また、民泊家庭が取り組む体験学習などについて、講習会などを開催して民泊家庭の理解を深め、受け入れ数を増やしていく。
・南風原町単独で修学旅行生を民泊受け入れ実施ができるようになるまでの間（2～3年間）には、民泊を実施している他の団体と連携をすることにより、一部の受け入れなどを実施することで、1年目から民泊受入家庭に修学旅行生を受け入れてもらうよう取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,389	3,389	2,711	678	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑪	南風原地域発信力強化事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－（６）－イ
					地域づくりを担う人材の育成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容

ヘチマ生産日本一を誇る本町では、南風原産ヘチマの愛称を「はえばる美瓜（ビュウリー）」と名付け、本町のブランド化を図るため、ビュウリーズダンスユニットを結成した。そのビュウリーズダンスユニットを活用し、物産展やイベント等で、販売促進活動を行い、南風原産ヘチマ及び本町の観光ＰＲを図り、本町の魅力等情報発信を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,390	3,125	3,158		
	(b)予算現額	2,649	2,977	2,680		
	(c)増減額(b-a)	▲ 741	▲ 148	▲ 478		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	2,649	2,977	2,680		
B. 執行済額		2,459	2,883	2,565		
うち交付金充当額		1,967	2,306	2,052		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		92.8%	96.8%	95.7%		

予算の状況の説明

・委託先の担当職員が退職したため、新規に採用するまで期間が空いたため、3月補正において委託費を減額したが、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
町ＰＲ活動イベント出演	目　標	（　－　）	（　5回　）	（　5回　）	（　　）
	実　績	－	24回	１５回	
【H24活動目標】①ダンススクール開催数 ②マナー講習会開催数	目　標	（①15回、②8回）	（　－　）	（　－　）	（　　）
	実　績	①15回、②8回	－	－	

達成状況説明

・平成25年4月1日ビュウリーズダンスチームが本町より『南風原町へちま大使』へと任命されたことにより、町内の各団体及び特産品販売ＰＲ等に活用された。
・ヘチマ大使との事で、イベントなどで質問に答えるためヘチマについての学習会を町内ＪＡの協力を得て勉強会を２回行った。
・イベント参加の為に、練習を月2回程度で年間28回行った。
・ビュウリーズのメンバーは小学生のため、中学生になると退団をするので、補充のメンバーを公募で採用をするが、毎回定員に対して何十倍もの応募者があり、県内外の子ども達の間でビュウリーズの存在が定着化した感がある。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
南風原物産展等の販売促進活動	目　標	（　　）	（　－　）	（　5回　）	（　5回　）	（　20回　）
	実　績		－	24回	１５回	
【H24成果目標】①ダンススクール受講者数 ②マナー講習会受講者数	目　標	（　　）	（①25人 ②15人）	（　－　）	（　－　）	（　　）
	実　績		①25人　②15人	－	－	

進捗状況説明

・町特産の『はえばる美瓜』のＰＲ活動を行っていく中で、子供達が自分たちの住んでいる地域の特産を知ることが出来るということと、堂々と人前に立ち、発表できる子が増えている。さらに、南風原町は食用ヘチマ生産日本一ということを町内外にPRし、認知度を上げている。
・町内外よりイベント依頼があり、子供達の意識も上がりヘチマについての学習をしたいと、向上心も出てきて南風原ＪＡの協力で勉強会を開催した。
・ビュウリーズのメンバーは小学生のため、中学生になると退団をするので、補充のメンバーを公募で採用をするが、毎回定員に対して何十倍もの応募者があり、県内外の保護者や子ども達の間でビュウリーズの存在が定着化した感がある。

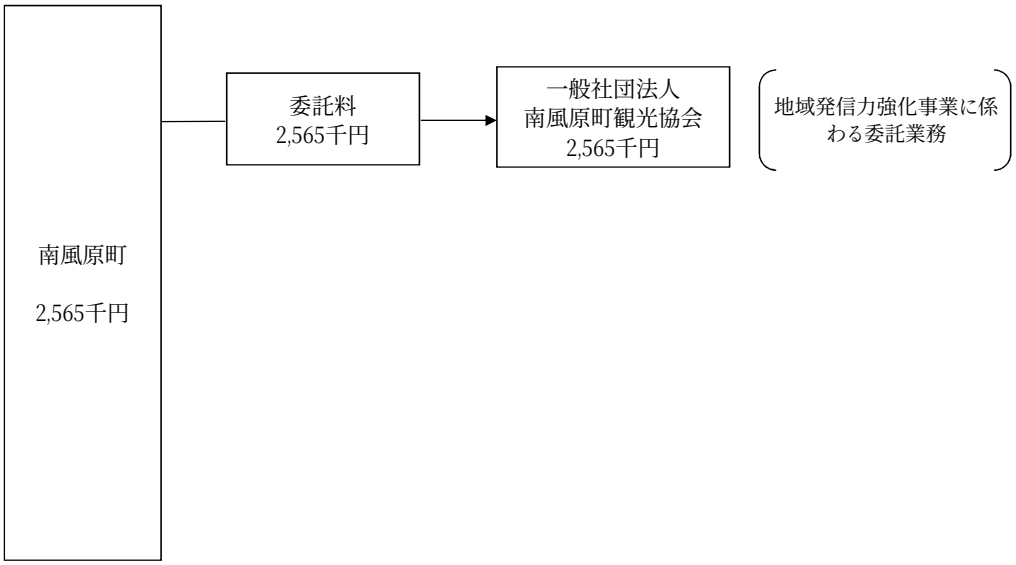
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町産ヘチマを「はえばる美瓜（ビュウリー）」と名付け、ブランド化を図るため、ビュウリーズダンスユニットを結成し、物産展やイベント等で販促活動を行い、南風原町産ヘチマ及び観光PRを図り、本町の魅力を発信するために事業を実施している。 ・Beaury's（ビューリーズ）は、小学生ダンスチームで活動しているので、練習やイベントに参加する際、夜に行うことがあるので、保護者の理解と立会いや送迎が必要となる。	・Beaury's（ビューリーズ）として更なる活動向上をしていく上で、ビュウリーズのメンバーは、はえばる美瓜や南風原町のことについて勉強会を開催したが、これからも年間2回程度の勉強会を農家やJA南風原と協力をして開催をする。 ・ダンス向上を図るために、練習を重ねたりイベントに参加するには保護者の協力が必要となり、保護者との意思疎通を緊密に行うためにも保護者を含めた意思疎通の会を開催する必要がある。

今後の取り組み方針

・小学生ダンスチームのため、卒業していく子供の後継者を町内小学校に公募して、南風原町の子供達の多くが、自分たちの地域を意識することの出来る機会を増やしていく。
・はえばる美瓜のPR活動をしていくために勉強会を行ったり、イベント・メディア出演を広げていき、南風原町のPRをする活動を推し進めていく。
・新しくレッスンをはじめている子供達の積極性を引き出し、次世代のBeaury's（ビューリーズ）を育て、地域の子供達を育てていく。
・町内のさまざまな分野のイベントと連携し南風原町の活性化に繋げるためPR活動を行い、練習を重ねていく。
・イベントなどに参加するには回数が増えれば増えるほど保護者の負担増になるので、保護者との意思疎通を図るためにも協会と保護者との懇談会等を開催する必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,565	2,565	2,052	513	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務の実施にあたっては、南風原町の歴史、背景や地域性の理解と企業との連携観光町作りの知識と経験、さらには南風原町のまちづくりに関わる人材づくりが求められる。南風原町の町づくり関わる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑫	ヒーローのまちづくり事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（２）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

全国的ヒーローである「ウルトラマン」の生みの親である金城哲夫さんは本町出身者である。本町の観光振興、地域活性化のため、金城哲夫さんにちなんだまちづくりを行う。町民主体に誘致活動を行い、金城哲夫さんのフォーラムやウルトラマン映画上映、脚本コンペ、映像化を定期的に行い、地元客及び観光客を本町へ誘導し、活性化を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,568	7,583			
	(b)予算現額	3,456	7,583			
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,112	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	3,456	7,583			
B. 執行済額		3,389	7,484			
うち交付金充当額		2,711	5,987			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		98.1%	98.7%			

予算の状況の説明：・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イベント、フォーラムの開催：1回	目　標	（　2回　）	（　1回　）	（　）	（　）
	実　績	5回	5回		
脚本賞：1回	目　標	（　－　）	（　1回　）	（　）	（　）
	実　績	－	1回		

達成状況説明：
・夏休みキッズパークというイベントの中で、ウルトラマンの上映会（イベント）を1回、また県立こども医療センターより上映依頼があり出張イベントや金城哲夫生誕75周年記念事業として、地域住民と一緒に運営委員会を立ちあげ、記念事業としてウルトラマンプレシャスステージとの同時企画・イベントを開催し、南風原町民のみならず、県内外の多くの方にイベントに来て頂いた。
・金城哲夫脚本賞には、運営委員会を立ち上げ『南風原ヒーロー脚本賞』として、運営委員会6回、企画部会8回、総務部会2回、広報部会2回、展示上映部会2回の会議を持ち『飛び安里』を題材にして公募をすることになり記者会見を開催する。脚本賞開催するため、金城哲夫氏の資料を集め、脚本に繁栄してもらうために、HPや資料の提供を行った。円谷プロダクションとの資料・情報提供や、協力体制も整えた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値(29年度)
イベント、フォーラムの参加人数：1,000人	目　標	（　）	（2回（1,000人））	（　1,000人　）	（　）	（　5,000人　）
	実　績		5回（8,274人）	（　2,950人　）		
脚本賞のイベント参加人数：1,000人	目　標	（　）	（　－　）	（　1,000人　）	（　）	（　）
	実　績		－	（　50人　）		

進捗状況説明：
・夏休みキッズパークというイベントの中で、ウルトラマンの上映会（イベント）を1回、また県立こども医療センターより上映依頼があり出張イベントや金城哲夫生誕75周年記念事業として、地域住民と一緒に運営委員会を立ちあげ、記念事業としてウルトラマンプレシャスステージとの同時企画・イベントを開催し、南風原町民のみならず、県内外の多くの方にイベントに来て頂いたことで、金城哲夫氏が南風原町出身ということが認知されつつある。
・昨年2月に開催された金城哲夫生誕75周年祭のスペシャルトークショーを『金城哲夫の原点を語る』との題名で冊子にして全国に配布をする。
・金城哲夫脚本賞には、運営委員会を立ち上げ『南風原ヒーロー脚本賞』として、運営委員会6回、企画部会8回、総務部会2回、広報部会2回、展示上映部会2回の会合を持ち『飛び安里』を題材にして公募をすることになり記者会見を開催。関係者のみの会見にし、周知を主に力を入れた。脚本賞の周知のためのイベントも同時開催する予定だったが、キッズパークや記念事業でイベントを開催し、周知を行った。
・前記の活動の中で、円谷プロダクションとの関係も良好な関係ができ、今後の展開に大きく役立つことになると思う。
・計画当初は8月～9月頃に『南風原ヒーロー脚本賞』を公募開始し、周知イベントも開催する予定であったが、関係機関と調整をする中で、金城哲夫生誕75周年記念事業とのタイアップで周知する方がより効果的だと判断したため、脚本賞単独の周知イベントは開催しなかった。実績としての50人は、プレスリリースの際の参加人数となっているが、金城哲夫生誕75周年記念事業の参加者は2,950人であったため、周知効果は単独で周知イベントを行う以上にあったと考える。

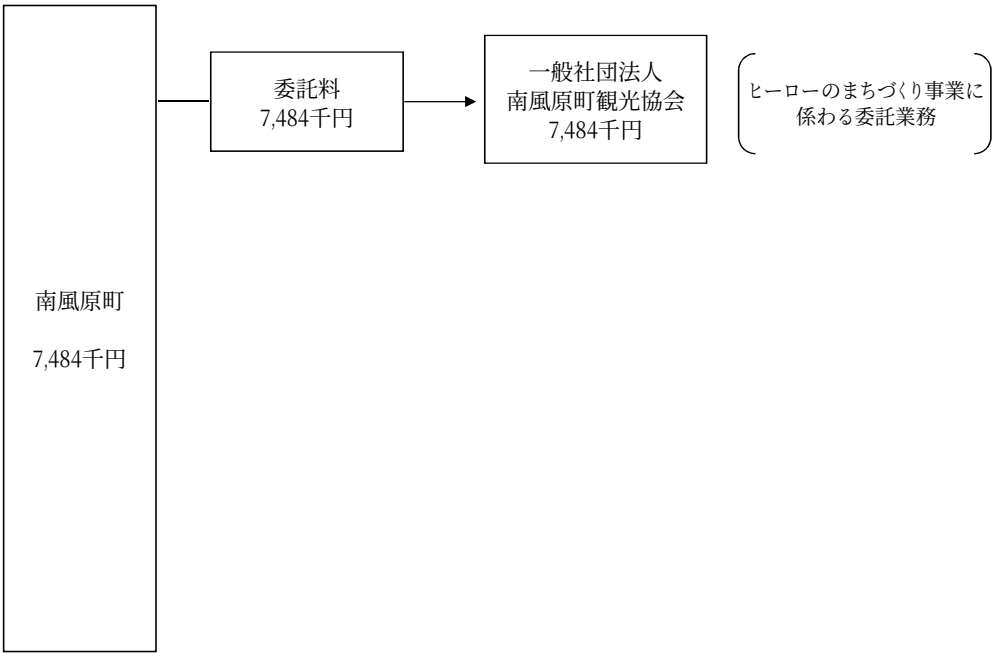
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・イベントを開催するにあたって、金城哲夫とウルトラマン住民会議（地域住民の団体）の協力が必要不可欠であるが、企画を行っていくにあたり、お互いの時間的調整が難しく、会議数や時間外の仕事が増えてしまった。 ・『金城哲夫展』『金城哲夫脚本賞』ともに、南風原町内の住民による実行委員会（運営委員会）ができ、担当者を軸に進めて行くことができたが時間の配分にはもう少し考えることが必要になる。 ・作業を進める中で『円谷プロダクション』との関係ができ、今後の脚本賞についても連携が考えられる。 ・周知効果を考え関係機関と調整した結果、計画に基づいたイベントを開催しなかったが、金城哲夫生誕75周年記念事業とタイアップし脚本賞の周知を行ったことで、目標以上の方々に周知を図ることができた。	・金城哲夫とウルトラマン住民会議（地域住民の団体）と連絡調整を細目に行い、会議数や時間外の仕事を少なくしていく。 ・町民が参加する委員会において、町民との調整をしながら時間外の会議は極力少なくする。 ・金城哲夫を軸にした、ヒーローのまちづくりを進めて行く中で、円谷プロダクションとの連携により、南風原町で金城哲夫に関するウルトラマンのモニュメントや資料などが見れるシステムにつなげていく事により、観光客の通過する町からとどまる町への転換をめざして取り組む。

今後の取り組み方針

・イベント（上映会）やフォーラムを定期的に行う。
・金城哲夫とウルトラマン住民会議（地域住民の団体）と連携をして、金城哲夫脚本大賞を実施し、南風原町が金城哲夫氏の育ったまちとして知っていただき、まちづくりを目指す。
・金城哲夫氏の脚本原稿や大賞受賞原稿などを活用して、町民において上演ができるよう組織化をして練習をする。
・金城氏以外の南風原町偉人（ヒーロー）にも光を当てていく。
・金城哲夫を軸にした、ヒーローのまちづくりを進めて行く中で、円谷プロダクションとの連携により、南風原町で金城哲夫に関するウルトラマンのモニュメントや資料などが見れるシステムにつなげていく事により、観光客の通過する町からとどまる町への転換をめざして取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,484	7,484	5,987	1,497	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務の実施にあたっては、南風原町の歴史、背景や地域性の理解と企業との連携観光町作りの知識と経験、さらには南風原町のまちづくりに関わる人材づくりが求められる。南風原町の町づくり関わる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑬	シマじまガイド事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

着地型観光メニューとして「シマじまガイド」(町内ディープな名所案内巡り)を実施し、本町の観光まちづくりを推進している南風原町観光協会に委託する。
「シマじまガイド」では、訪問客に地元の魅力をあますところなく伝えようと、これまでにない新しいまち歩きコースを策定し、参加しやすさ、定時出発をキーワードに南風原町内に広く展開していく。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,132	4,240	5,308		
	(b)予算現額	1,132	4,240	5,308		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	1,132	4,240	5,308		
B. 執行済額		1,132	4,172	4,933		
うち交付金充当額		905	3,337	3,946		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.4%	92.9%		

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
ガイド養成:10名	目　標	（　－　）	（　－　）	（　10名　）	（　　）
	実　績	－	－	11名	
【H24活動目標】シマじまガイド事業回数	目　標	（　24回　）	（　－　）	（　－　）	（　　）
	実　績	42回	－	－	
【H25活動目標】シマじまガイド事業利用者数	目　標	（　－　）	（　1,300人　）	（　－　）	（　　）
	実　績	－	1,458人	－	

達成状況説明

・南風原町の旧集落12ヶ字の観光シナリオをもとにガイド養成講座を6回の日程で開催し、11名のガイドを養成した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
シマじまガイド事業利用者数:1,250人	目　標	（　　）	（　1,000人　）	（　1,300人　）	1,250名	（　1,450人　）
	実　績		3349人	1,458人	321名	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・平成26年10月に観光案内所ができ、そこを拠点に南風原町内の集落案内を町内の案内集落の住民と一緒になって行う『南風原町コーディネーターガイド』を行っているが、1回の案内が10名程度の為、定期的に開催するガイドでは、集客にばらつきがあり目標の人数達成に至らなかった。利用者数の増加ついて方法を検討する必要がある。
・南風原町は平和学習の中心地であり、多くの修学旅行生が訪れる。その中で平和講座の要望があり語り部の派遣をしているが、台風のため1回がキャンセルとなり2回(214名)のみの派遣となった。

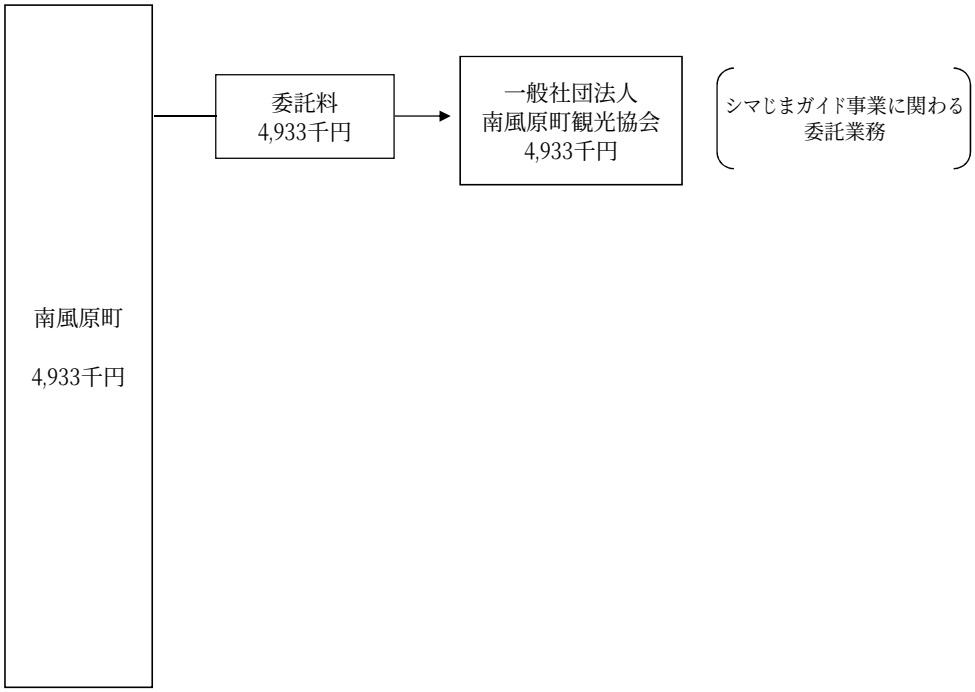
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・集客を伸ばすために、ホームページと新聞で行っている案内告知をさらに充実させる必要がある。 ・ガイドの中には案内人として未熟なものもいるため、ガイドの養成も急務である。 ・観光案内所をガイドと結びつけることや、少人数でもガイドが出来るシステムを構築する必要がある。 ・平和講座の語り部の減少による語り部不足が生じている。昨年発掘した語り部も年齢的に高齢のため遠くに派遣は出来ないなど解消できない問題も発生してきている。 ・外部への告知PRが弱かったため、シマじまガイド事業利用者数の目標を達成することができなかった。	・町内の綱引き等の行事など事前に分かっている行事は5か月前から組立て告知をすることで他地域からの集客につなげる。 ・開催告知の方法を旅行業者への売り込みも視野に入れ、ブラッシュアップが必要となってくる。 ・ガイドの中には案内人として未熟なものもいるため、既存ガイドの再度研修を行う必要がある。 ・観光案内所を拠点に観光をするので、シマじまガイド委託先の担当職員もガイド養成を行い、常時要請があれば少人数からでもガイドが行えるようにする。 ・平和講演も沖縄戦だけではなく、戦後もいれた現在語り部が必要で、元気な年代の語り部を養成する必要がある。 ・民泊事業の告知と抱合せて旅行社をはじめ団体などへの告知活動に力をいれる。

今後の取り組み方針

・イベント事項は、5か月前より計画をして、旅行社などに告知をして集客依頼をする。
・観光協会職員を含むガイド養成講座を開催する。
・常時、客の要望により案内が出来る体制を整える。
・案内シナリオの追加作成を進める。
・他地域と違った沖縄の文化、習慣などを案内ができるパンフレット等を製作する。
・旅行者や各種団体へのPR活動に力を入れ、また、民泊事業との連携をとった告知も行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,933	4,933	3,946	987	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑭	南風原町観光PR促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ－１－(1)

事業内容

南風原町のイメージキャラクターと伝統工芸の琉球絣を観光PRツールとして有効活用し、各種イベントやマスメディアへのPRを始め、観光施設・町民交流スポットなど、町内外においてPR活動をし、南風原町の観光振興に繋げる。また、観光案内所の充実を図る事で、南風原町の観光情報を一元化し、より充実した観光サービスができ、南風原町の観光振興に繋げる。

実施方法

■直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	59,688	-	7,091		
	(b)予算現額	52,597	-	18,366		
	(c)増減額(b-a)	▲ 7,091	-	11,275		
	(d)前年度繰越額	－	10,674	－		
	A. 計(b+d)	52,597	10,674	18,366		
B. 執行済額		41,032	10,350	17,495		
うち交付金充当額		32,825	8,280	13,996		
次年度繰越額		10,674	-	－		
執行率（%）(B/A)		78.0%	97.0%	95.3%		

予算の状況の説明

・観光案内所の充実した運営を図るために必要な機材や備品等の整備を行い観光情報を一元化し、観光サービスをより充実させるため8,625千円、南風原物産展の会場規模の拡大による会場設営関係、来場者の安全確保等に費用を要するため2,650千円を増額した。
・不要額が発生しているが、入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イメージキャラクターによる観光PR活動	目　標	(　活動　)	(　活動　)	(　)	(　)
	実　績	活動	活動		
物産展の開催	目　標	(　開催　)	(　開催　)	(　)	(　)
	実　績	開催	開催		
観光案内所備品整備	目　標	(　－　)	(　整備　)	(　)	(　)
	実　績	－	整備		

達成状況説明

・はえるんの認知度を町内から広めていくため、無認可保育園や幼稚園、学童保育などの巡回を行った。
・南風原物産展の開催により、町内事業所と商工会との連携をとることで、南風原町の物産を宣伝できるツールができた。
・パンフレットや商品をディスプレイする備品や、観光案内所周辺イベント時に必要なスピーカーなどの整備を行いました。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
イベント活動	目　標	(　)	(8回／月(8月～3月))	(40回)	(　)	(　)
	実　績		13回／月	118回		
物産展来場者	目　標	(　)	(11,000人)	(12, 000人)	(　)	(　)
	実　績		11,000人	12, 000人		
観光案内所の利用者数	目　標	(　)	(－)	(5, 000人)	(　)	(　)
	実　績		－	5, 557人		
観光案内所周辺イベント開催	目　標	(　)	(－)	(6回)	(　)	(　)
	実　績		－	9回		

進捗状況説明

・はえるんの町民認知度があがり、沖縄県外のイベントにも出動するようになり、特産品や観光情報の発信につながった。
・南風原物産展を毎年開催することで、事業者の新規商品の提案など事業者と商工会との連携がうまくいっている。
・案内所を外国人対応案内所として沖縄県に登録し、外国人への誘客も視野に入れるようになった。
・案内所周辺でイベントを開催することで、案内所のことを認知してもらったので、利用者数が達成できた。

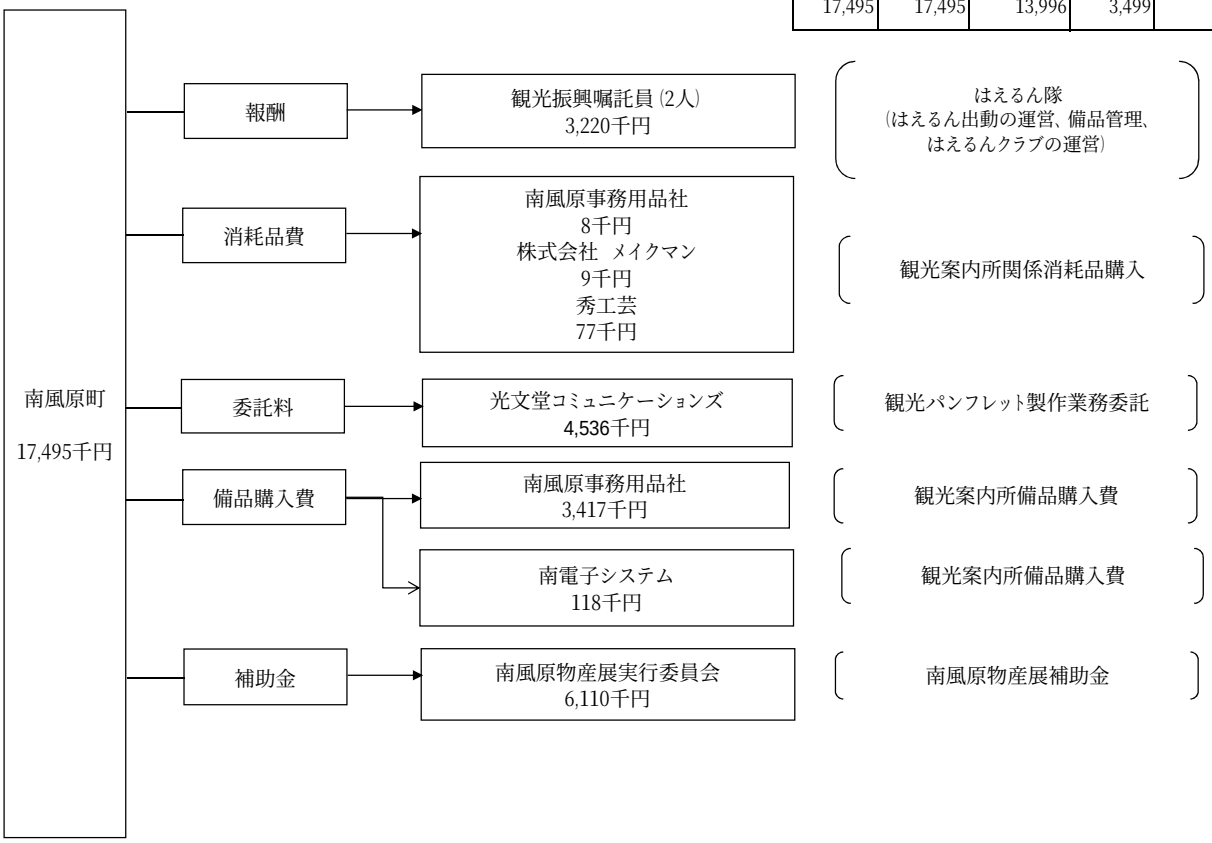
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・はえるんと野菜のお友だちの出演依頼が多く、着ぐるみに入る人員を確保するのに苦労している。 ・観光案内所の開設を町内外に発信するため、SNSの構築をしなければならない。 ・南風原町の特産品を一同に集め、定期的に販売する機会を設けることで、特産品を取り扱う事業所の販売意欲、商品開発意欲を増進させる。	・野菜のお友だちの出演をテーマごとや、着ぐるみに入る人員の人数に併せて派遣できるよう、出演内容に工夫している。 ・フェイスブックを開設し、情報発信を行うことで新鮮な情報発信を行った。 ・物産展の日程や開催場所が固定化することで、計画性をもって物産展に参加することができたり、物産を開発したり、事業所の発表の場となりつつある。

今後の取り組み方針

・午後6時まで開所し、土日祝祭日も開所することによって、観光客のニーズに応えられるよう対応していく。
・これからも、はえるんの認知度を町内から広めていくため、無認可保育園や幼稚園、学童保育などの巡回を行っていき、町の特産品などをPRしていく機会を多く持つ。
・フェイスブックへの情報発信を頻繁に行うことで、いいね！をもらう。さらに、フェイスブックの他のSNSも利用することを検討する。
・物産展では南風原町のいいものを広めるため、継続して開催する。開催内容は実行委員会で決定し、ニーズに合わせた新しい物産提供も常に考えていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,495	17,495	13,996	3,499	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、入札方式により選定しており、妥当であったと考えている。南風原物産展の補助先を南風原町商工会にすることで、事業後の展開も視野に入れることができた。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑮	黄金森公園スポーツ施設活性化事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－(1)－イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	教育部　教育総務課	事業実施(予定)年度	平成２５～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容	良好なスポーツ･トレーニング環境の提供により観光と結びつけたスポーツコンベンションの誘致、開催を図るため、「黄金森公園陸上競技場」のトレーニング機器等と受入体制の整備を行う。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	18,580	22,669			
	(b)予算現額	18,580	47,549			
	(c)増減額(b-a)	0	24,880			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	18,580	47,549			
B．執行済額		18,238	44,740			
うち交付金充当額		14,590	35,792			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		98.2%	94.1%			

予算の状況の説明：当初交付決定時から、更なる施設整備･備品購入･受入体制整備を行いキャンプ誘致等を行うために24,880千円を増額した。キャンプ受入体制整備の入札残等により執行残が生じているが、事業計画通りの執行している。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
黄金森公園陸上競技場及びトレーニング機器整備	目　標	（整備完了）	（機器整備）	（　）	（　）
	実　績	整備完了	37品目		
スポーツキャンプ備品整備	目　標	（-）	（備品整備）	（　）	（　）
	実　績	-	16種類		
キャンプ受入体制整備	目　標	（-）	（受入体制整備）	（　）	（　）
	実　績	-	4項目		

達成状況説明：黄金森公園陸上競技場及びトレーニング機器整備、スポーツキャンプ備品整備、キャンプ受入体制整備により施設環境を整備して、サッカーＪ1チームのキャンプ及び県外大学等の陸上競技の合宿等の誘致に取り組んだ。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
スポーツ合宿･キャンプ利用者数	目　標	（　）	（－）	（450人）	（　）	（　）
	実　績		-	1,123人		
[H25成果目標]黄金森公園陸上競技場及びトレーニング機器整備	目　標	（　）	（整備完了）	（－）	（　）	（　）
	実　績		整備完了	－		

進捗状況説明：黄金森公園陸上競技場及びトレーニング機器整備、スポーツキャンプ備品整備、キャンプ受入体制整備により施設環境を整備して、サッカーＪ1チームのキャンプ50人、県外大学等の陸上競技合宿等で1,123人が利用した。今後はキャンプの受入体制部分を強化して取り組みたい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光資源が少ないため、現在の施設を活用し、県外からの観光客等を呼び込む事業として、施設機器の整備やキャンプ関連備品・受入体制の整備を行った。 ・近隣の施設においても同様な取組を行っていることから、今後は施設整備の強化や受入体制で特色のある事業展開が必要である。	・他の施設には無い機器整備や備品購入等に努める。利用者や見学者のニーズを把握するとともに、他の観光地・イベント案内などより効果的な取組を検討する。

今後の取り組み方針

今後は、芝生育成管理をメインとして施設整備を進めるとともに、町観光協会等との連携を図り、観光と結びつけたスポーツコンベンションの誘致に向けて取り組みたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
44,740	44,740	35,792	8,948	0

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく指名競争入札及び随意契約による購入のため、妥当であったと考えている。 ○事業に必要な委託料、工事請負費、備品購入費等について積算し、妥当な額で実施した。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－①	はえばるリサイクルループ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(2)－ア
					3Rの推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)

事業内容

町内での食品廃棄物の循環を構築するため、町内で発生する食品廃棄物(生ごみ、廃食用油含む)を分別回収し、それらで養豚用飼料や堆肥、バイオディーゼル燃料を生産する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,596	16,520	16,150		
	(b)予算現額	12,596	16,520	16,150		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	-		
	A．計(b+d)	12,596	16,520	16,150		
B．執行済額		11,539	14,867	14,804		
うち交付金充当額		9,231	11,893	11,843		
次年度繰越額		－	－	-		
執行率（%）(B/A)		91.6%	90.0%	91.7%		

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標を鑑みて適正であったと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
循環構築することによる生ごみ(家庭系)の年間資源化の増	目　標	(　45トン　)	(　45トン　)	(　年間資源化の増　)	(　　)
	実　績	37トン	32トン	33トン	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明

・生ごみの回収量を増やすために、回収地域へのチラシ配布や広報等で生ごみ回収参加の呼びかけを行った。
・回収世帯の件数を増やすことができ、年間資源化量は昨年より増になったが、年間目標は下回った。
・事業の施設見学者が増加していて、町民各層に対するごみ減量化に連動していると考えられる。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
生ごみ(家庭系)の年間資源化量	目　標	(　35トン　)	(　45トン　)	(　45トン　)	(　60トン　)	(　89トン　)
	実　績		37トン	32トン	33トン	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明

・家庭系生ごみの回収世帯の件数を増やすことができ、年間資源化量は昨年より増になったが、事業系ごみの収集量が昨年よりも減ったため、目標を達成することができなかった。
・家庭系生ごみだけでなく、事業系生ごみの収集の増も視野に入れ、食品廃棄物の循環を構築するため年間資源化量の増加に繋ぐ計画を今後も努めなければならない。

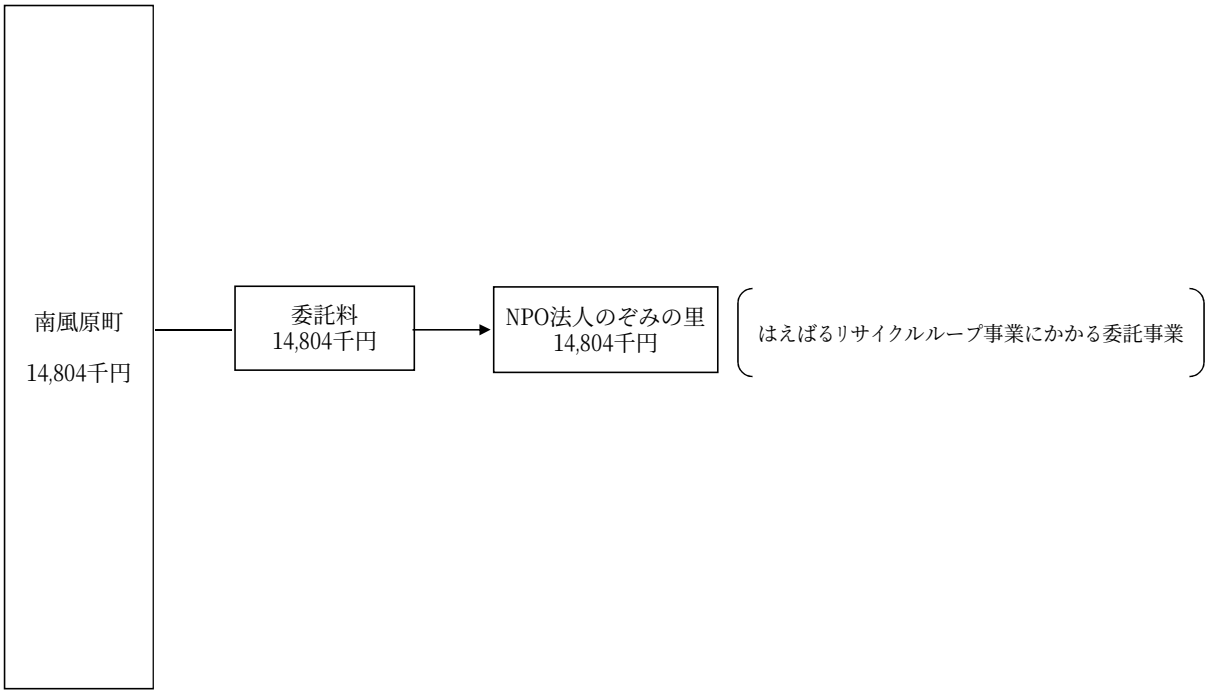
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・活動目標の生ごみの年間資源化量の目標達成のために、回収地域へのチラシ配布や広報等で生ごみ回収参加の啓蒙を行ってきたが、目標達成できなかった。要因としてはリサイクルループ事業が町民に徐々に浸透してきているが、町内全体で鑑みても、まだ認知度が低いため、チラシ配布をしても、回収希望の応募が少なかったことが考えられる。	・活動目標を達成するために、回収地域全体の募集人数の拡大をはかるため、チラシ配布の回数増の計画を図る。また町広報紙での募集案内の回数だけでなく、リサイクルループ事業についての活動内容の掲載記事等を増やすことによる、町民各層に対するごみ減量化、リサイクル化に配慮した生活意識の向上が必要である。

今後の取り組み方針

町内の各家庭や飲食店等からの生ごみや廃食用油の回収量を増やすことで、養豚用飼料や堆肥の生産増による食品廃棄物の循環の環の拡大を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,804	14,804	11,843	2,961	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は平成２０年度から町内の食品循環資源である生ごみの回収処理の事業を請け、分別及び飼料化・堆肥化、廃食油の燃料化及び養豚を行うリサイクルループ事業を展開している。他に町内の業者及び近隣地域でこの事業を展開できるところがないために随意契約としているため、選定は妥当と考える。 ○費用と予算規模に関しては、リサイクルループ事業のみに必要な経費のみを計上しており、適正規模であり、かつ限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	環境学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(1)－オ
					県民参画と環境教育の推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)
事業内容	児童館や学校、教育委員会等と連携し、小学4、5年生を対象に、専門家による「体験型」の環境教育・環境学習を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	630	788	810		
	(b)予算現額	630	788	810		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	―	―	-		
	A．計(b+d)	630	788	810		
B．執行済額		630	630	486		
うち交付金充当額		504	504	388		
次年度繰越額		―	―	-		
執行率（%）(B/A)		100.0%	79.9%	60.0%		
予算の状況の説明		・予算については学校からの追加要望にそなえて、15回分を計上していたが、目標より少ない実績のため、執行率が昨年よりも下がっている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
町内4小学校の4年生を対象に環境学習「買い物ゲーム」の実施。	目　標	(　12回　)	(　13回　)	(　15回　)	(　　)
	実　績	12回	12回	9回	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明
・町内の3小学校において4年生9クラスで「買い物ゲーム」を実施した。
・実施回数については、学校との日程調整が難しく、1小学校分の実施ができなくなり、目標とした回数より少なくなった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
環境学習「買い物ゲーム」体験者数	目　標	(　325人　)	(　400人　)	(　450人　)	(　440人　)	(　500人　)
	実　績		407人	414人	332人	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明
・町内の3小学校において9クラス、合計332人の児童が「買い物ゲーム」を体験し、ごみ処理問題や環境保全についての理解を深めることができたが、学校との日程調整が難しく、目標とした人数に達することができなかった。しかし体験した生徒からは、「ごみを増やさず、減らすことが大事と思った」「リサイクルして、無駄使いをしない」「マイバッグを持って、買い物する」等の感想があり、学校の先生方からも「ごみ問題の大切さについて、子どもの興味関心を高めるのに効果的」等の意見を頂き、実施した学校からは大変好評であった。

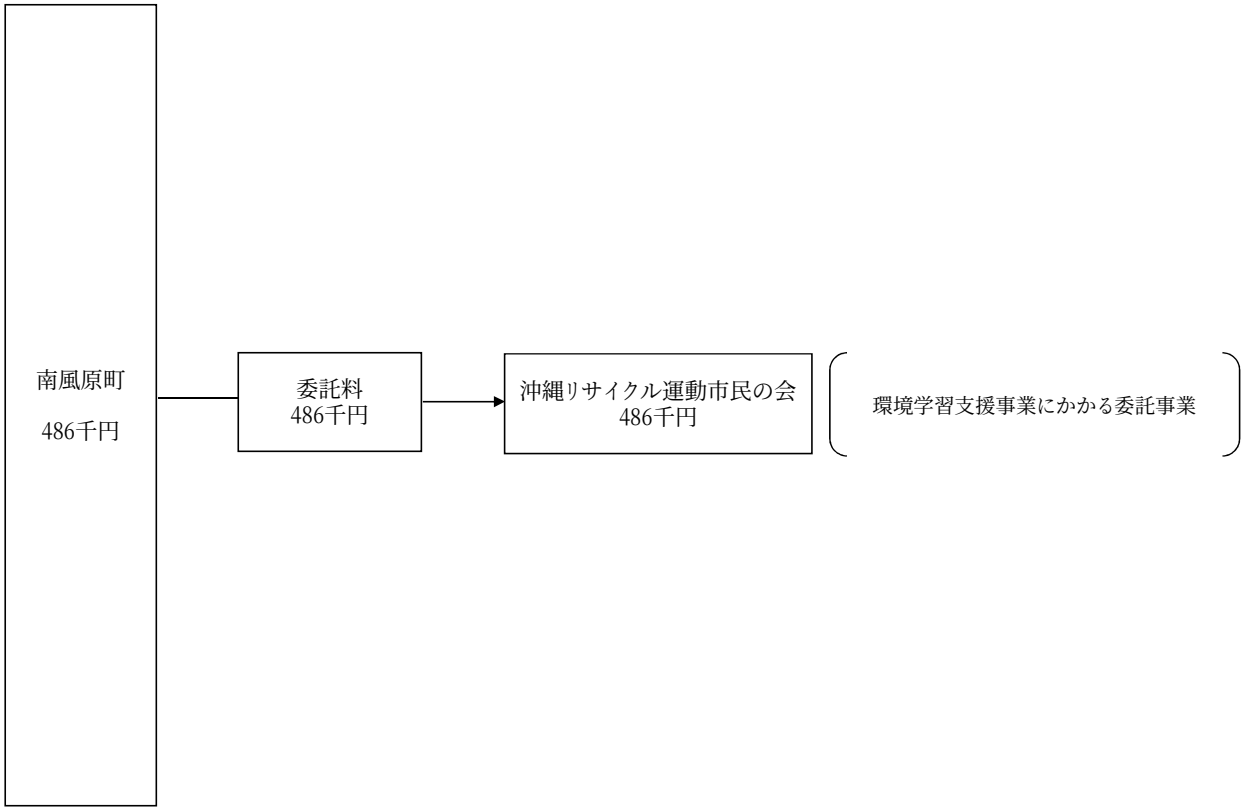
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内の3小学校において9クラス、合計332人の児童が「買い物ゲーム」を体験し、ごみ処理問題や環境保全についての理解を深めることができたが、学校との日程調整が難しく、目標とした人数に達することができなかった。	・町教育委員会と連携して、学校との連絡を早めに案内し、日程調整を円滑に行えるようにする。 ・町内小学校の4.5年生だけの環境教育プログラムだけでなく、他学年への導入も推進していく。 ・環境教育支援の取り組みとして、学校全体の年間スケジュールの中に環境学習としての「買い物ゲーム」を位置づけができるよう学校と事前に調整を図るよう努める。

今後の取り組み方針

学校全体の年間スケジュールの中に環境学習としての「買い物ゲーム」を位置づけし学校への環境教育支援を広く行い、児童・生徒がごみ問題や環境問題について考え、実践することを目的としたこの事業は、学校及び生徒からも評価を受けているため、今後も継続して取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
486	486	388	98	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先が開発した環境教育支援のための事業であるため、この委託先でしか事業ができないための随意契約である。また、このプログラムは県内や県外、また海外でも実施されている実績があり、選定は妥当であると考える。 ○費用と予算規模に関しては、環境学習支援事業のみに必要な経費のみを計上しており、適正規模であり、かつ限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－③	草木リサイクル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(2)－ア
					3Rの推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)
事業内容	「循環のシステム」を構築するため、町内から出る草木を堆肥化し、農地で活用する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,318	7,214	6,983		
	(b)予算現額	5,501	5,714	6,983		
	(c)増減額(b-a)	183	▲ 1,500	1,030		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	5,501	5,714	8,013		
B．執行済額		5,501	5,472	7,909		
うち交付金充当額		4,400	4,377	6,327		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	95.8%	98.7%		
予算の状況の説明		・予算現額が当初予算額より1,030千円増額となっているのは、例年よりも台風襲来が多く、草木の回収量が当初見込んでいた量よりも増えたため、委託料の補正増を行ったためである。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
草木を堆肥化することで、草木のごみ減量及びリサイクル量の増	目　標	(　340トン　)	(　450トン　)	(　リサイクル量の増　)	(　　)
	実　績	349トン	347トン	488トン	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：
・町内の各家庭から排出された草木４８８トンを回収、委託業者により堆肥化されることで、農地で活用された。
・平成２６年度は台風襲来が多く、台風被害で草木処理する家庭が多かったため、草木伐採量が増加し、目標を達成した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
草木のリサイクル量	目　標	(　299トン　)	(　340トン　)	(　450トン　)	(　431トン　)	(　450トン　)
	実　績		349トン	347トン	488トン	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
・町内の各家庭から排出された草木を分別回収し、委託業者により堆肥化され農地で活用されることにより、循環のシステムが構築されている。

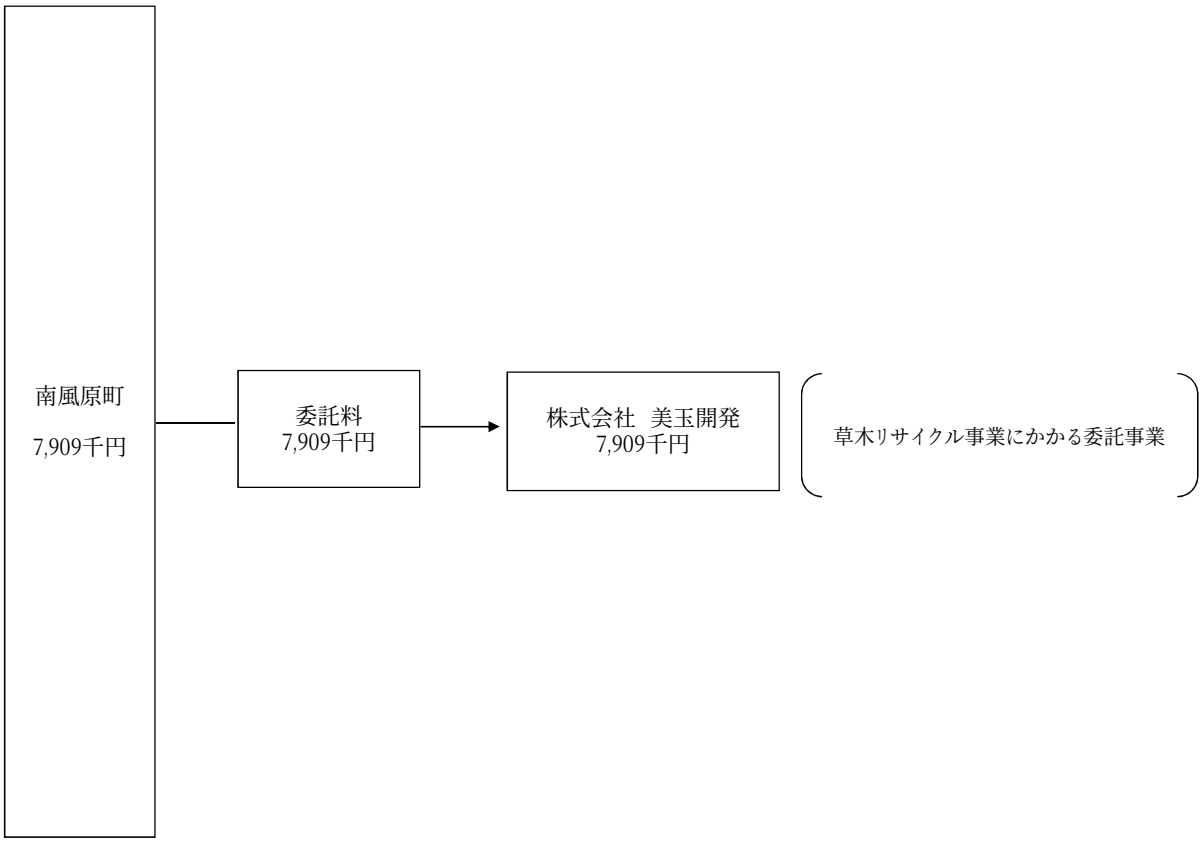
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・草木の堆肥化のため、草木の定期的な回収を行っているが、回収時に土や草木以外の物が混入していることがあり選別作業に時間を費やすため、堆肥化に支障をきたしている場合がある。 ・台風襲来後に草木回収が多くなるため、円滑な搬入・受入を目指す。	・草木の分別指導を行い、草木以外の混入を防ぎ、堆肥化がスムーズに行えるようにする。 ・広報誌等による周知活動により、草木の分別指導及び堆肥化の増量を促進していく。 ・町民の自宅からの草木持ちこみ搬入のための、現場調査のやり方の改善。（現状のままでいいのか検証）

今後の取り組み方針

今後も分別回収を徹底し、町内から排出される草木は、すべて堆肥化できるようにし、循環型社会の構築を推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,909	7,909	6,327	1,582	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の製造する堆肥は沖縄県リサイクル資材評価認定制度に認定されており、循環型社会を構築する本事業に合致するため、選定は妥当と考える。また草木の堆肥化施設が近隣地域（町の家庭ごみ収集委託による搬入なので輸送コストも考慮）にないことからの随意契約である。 ○費用と予算規模に関しては、草木リサイクル事業のみに必要な経費のみを計上しており、適正規模であり、かつ限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－①	防災体制強化事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（4）－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－（2）

事業内容

近年、全国各地では地震や大雨、土砂災害などによる自然災害が発生しており、亜熱帯気候である沖縄県でも毎年多くの台風が接近・襲来している。そのため、島しょ県である沖縄は、大規模災害時には物資の補給が困難となり、独立してしまう恐れがある。そのことから、町独自で長期保存ができる食糧等の備蓄を行い、防災体制の強化を図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	157,323	0	7,525	12,736	
	(b)予算現額	140,346	0	13,710	12,736	
	(c)増減額(b-a)	▲ 16,977	0	6,185	0	
	(d)繰越額	－	81,900	0	－	
	A．計(b+d)	140,346	81,900	13,710	12,736	
B．執行済額		58,446	81,900	13,491	10,584	
うち交付金充当額		46,756	65,520	10,792	8,467	
次年度繰越額		81,900	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		41.6%	100.0%	98.4%	83.1%	

予算の状況の説明

入札により残額が発生したため、予算執行率が低い値となっているが、事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・3,240食分の備蓄品の購入 (36,000人×1/20×3日分×3食の20%)	目　標	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（　）
	実　績	・3,312食分の備蓄品の購入	・3,312食分の備蓄品の購入	・3,312食分の備蓄品の購入	
(参考) ・スーパー減災マップの作成	目　標	（－）	（・スーパー減災マップの作成）	（－）	（　）
	実　績	－	・スーパー減災マップの作成	－	
(参考) ・地域防災計画の見直し	目　標	（－）	（・地域防災計画の見直し）	（－）	（　）
	実　績	－	・地域防災計画の見直し	－	

達成状況説明

・地域防災計画の食料等備蓄計画に基づき、5年間で人口20分の1の3日分の食料等備蓄を目標としているため、平成26年度では、目標の約20%にあたる3,312食分の食料等を購入した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
・南風原町地域防災計画の「食料等備蓄計画」の目標備蓄数16,200食(36,000人×1/20×3日分×3食)に対する充足率：61.3%	目　標	（0%）	（23.5%）	（44%）	（61.3%）	（100%）
	実　績		23.5%	44.0%	64.4%	
(参考) ・スーパー減災マップの配布数	目　標	（0世帯）	（－）	（13,009世帯）	（－）	（　）
	実　績		－	13,312世帯	－	
(参考) ・地域防災計画の見直し	目　標	（未実施）	（－）	（地域防災計画の見直し）	（－）	（　）
	実　績		－	地域防災計画の見直し	－	

進捗状況説明

・備蓄品の充足率について、H24～28年度の5年間で100%を目標としており、3年目の26年度時点では64.4%となっている。
これまで年間約20%の充足率目標を達成しているため、計画的な達成状況となっている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・災害はいつ発生するかわからない為、食糧等の備蓄を実施し、災害に強いまちづくりを目指していくためには、町だけではなく、住民や観光客などにおいても引き続き、災害時の行動や対応が瞬時に行えるように、防災訓練や防災マップ等を通して啓発を図っていく必要がある。 ・平成24年度から備蓄してきた備蓄品で、保管場所が狭くなってきている。	・住民の防災意識向上をめざすため、防災訓練を通し、備蓄品の必要性や避難場所の確認をすることにより、町全体の防災・減災に対する推進を図ることができる。 ・保管場所には、他の備品関係も一緒に保管されているため、その整理と同時に他保管場所の検討も必要である。

今後の取り組み方針

・防災訓練や避難訓練を実施し、町全体の防災・減災体制の強化を図り、今まで以上に災害に強いまちづくりを推進していく。
・住民等への啓発が課題となるため、訓練等への積極的な参加を呼びかけていく。
・保管場所の整理を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,584	10,584	8,467	2,117	0

南風原町 10,584千円 → 需用費 10,584千円 → 有限会社新垣産業 10,584千円

（食料等備蓄品購入にかかる需用費）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入先業者は、入札による落札業者の為、妥当である。 ○予算は減額となっているが、地方自治法施行令167条における指名競争入札による残額となっていることから、予算規模は適正であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－②	災害時等避難施設改修事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（4）－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－（2）

事業内容

台風等の自然災害による被害が多発しているため、台風などの災害や不発弾処理等非常時の避難施設である地域公民館や集会施設の整備を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,000	5,000	5,000		
	(b)予算現額	1,432	5,880	3,454		
	(c)増減額(b-a)	▲ 3,568	880	▲ 1,546		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	1,432	5,880	3,454		
B．執行済額		1,428	5,880	3,219		
うち交付金充当額		1,142	4,704	2,575		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）（B/A）		99.7%	100.0%	93.2%		

予算の状況の説明

・当初５箇所の施設整備を予定していたが、2箇所の申請となったため、3月補正において1,546千円補正減を行った。
・事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
避難所（公民館等）の防水改修工事（施設整備）補助	目　標	（　1箇所　）	（　3箇所　）	（　工事補助　）	（　　）
	実　績	1箇所	2箇所	2箇所	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

・災害時の避難施設である地域公民館、コミュニティ施設(2箇所)を改修。
・目標は５箇所の整備だったが、補助申請が２箇所となったため、２施設の改修整備となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
施設整備補助	目　標	（23年度 0）	（1件 5%）	（3件 21%）	（5件）	（19件 100%）
	実　績		1件 5%	2件 15%	2件 26%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・災害時の避難施設であるコミュニティセンター（公民館）2箇所を災害に備え改修整備を行なった。いつ発生するかわからない災害に備えることができる。一次避難所（地域公民館や集会施設）を改修整備することにより、災害に強いまちづくりの推進を図ることが可能となる。
・目標は５箇所の整備だったが、自治会からの補助申請が予定より少なく２箇所となったため、２施設の改修整備となった。

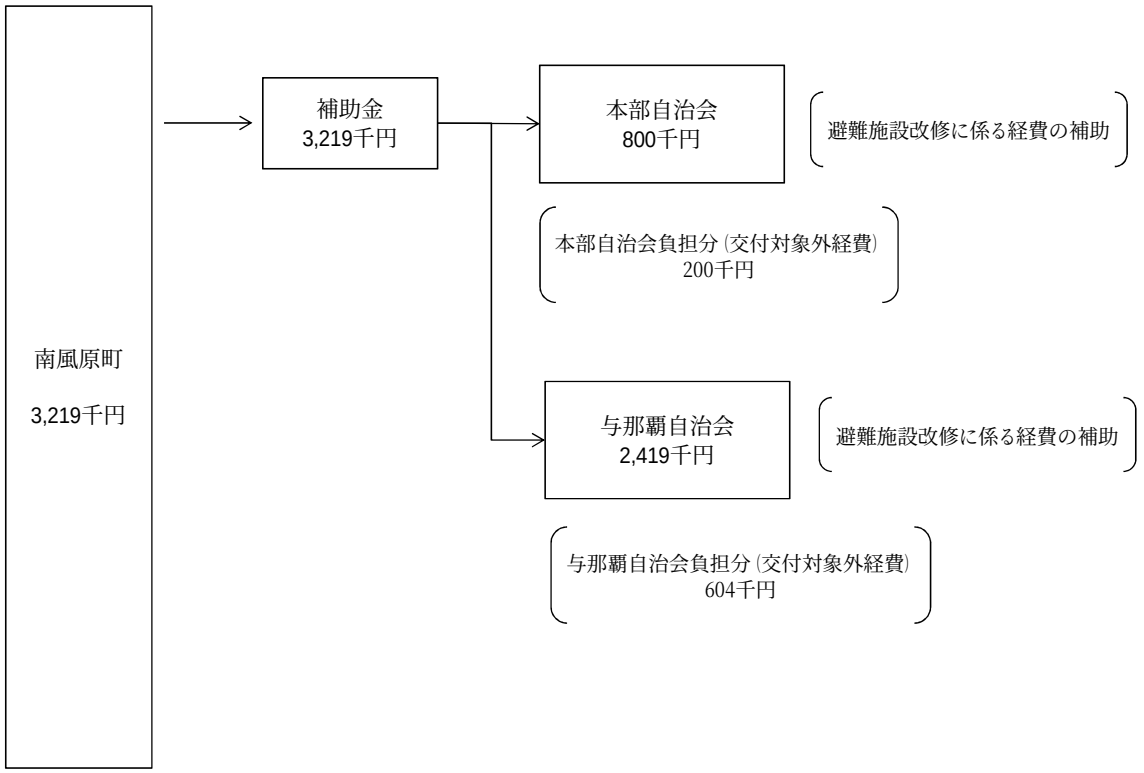
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・災害はいつ発生するかわからない為、避難施設の整備を行い、災害に備えなければならない。また、防災体制の強化を図り、啓蒙を行う必要がある。 ・積極的に、防災訓練等を開催し、災害に強いまちづくりを推進する。また、訓練を通して住民などへ、防災・減災の啓発を行う。 ・平成26年度までに合計5箇所の避難施設の整備を行い防災体制の強化を図ったが、自治会からの補助申請が予定より少なかったため目標を達成することができなかった。	・防災訓練を通し、備蓄品の必要性や避難場所の確認をすることにより、様々な人に防災に対する意識が芽生えるため、町全体の防災・減災に対する推進を図ることができる。 ・避難施設を活用した自主防災組織の設立、災害に強いまちづくりを推進する。 ・自治会と施設整備に関して調整し、整備の必要性を確認しながら順次施設整備を行っていく。

今後の取り組み方針

・整備した施設を活用して防災訓練や避難訓練を実施し、町全体の防災・減災体制の強化を図り、今まで以上に災害に強いまちづくりを推進していくとともに自主防災組織の設立を推進する。また、住民等への啓発が課題となる為、施設を活用した訓練等への積極的な参加を呼びかけていく。
・引き続き自治会と連絡調整を密にし順次必要な箇所に施設整備を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,024	3,219	2,575	644	804



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は当該補助金交付要綱に基づく地域自治組織であり妥当である。 ○自治組織からの申請書、計画書および見積書を精査し適正な予算規模、事業内容となっている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○当該補助金交付要綱に基づき8割を補助し、受益者（地域自治組織）は施設改修費の2割を負担。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－④	津嘉山小学校南側避難通路整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２６～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)
事業内容	災害時に避難所として指定されており、本校南側集落よりの避難通路(道路)が未整備のために整備を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,122				
	(b)予算現額	4,590				
	(c)増減額(b-a)	▲ 532				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	4,590				
B. 執行済額		4,590				
うち交付金充当額		3,672				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		532千円は入札による予算残額であり、3月補正にて補正減を行った。当初予定していた業務は全て行うことができた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
設計前の調査･測量	目　標	(設計前の調査･測量)	(　)	(　)	(　)
	実　績	設計前の調査･測量			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				
達成状況説明	平成27年度に実施設計を行う前の調査･測量を当初予定通り行うことができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
調査･測量:149.1m	目　標	(　)	(調査･測量:149.1m)	(　)	(　)	(　)
	実　績		調査･測量:149.1m			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					
進捗状況説明	平成27年度に実施設計を行う避難通路の調査･測量を行った。それに伴い次年度の実施設計に必要な資料を準備することができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小学校は、災害が発生した際の避難場所となっており、今回整備を行う箇所は小学校から南側の住民が、安全に避難できるよう通路の整備を行うものである。そのため、大人から子どもまで安全に避難できる通路を作る必要がある。 ・学校に近いため、授業や行事に支障のないよう事業を行う。	・学校に直接つながる通路であることを十分認識し、避難通路整備にあたって、学校の授業や行事等に支障がないよう、学校と調整図り事業が計画通り執行できるよう努める。

今後の取り組み方針

避難通路整備を行う前に学校との顔合わせや、年間行事の把握など情報交換をしっかり行い、学校現場に支障のないよう事業を進める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,590	4,590	3,672	918	0

南風原町
4，590千円
→ 調査・測量委託料 4，590千円
→ （株） 南城技術開発 4，590千円
（津嘉山小学校南側避難通路整備事業測量調査委託業務にかかる委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業者は町登録名簿から選定し、指名競争入札を行っていることから選定方法、予算規模ともに妥当であったと考えている。 ・費用・使途については事業目的の達成の観点から、適正であったといえる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－①	放課後児童の居場所づくり支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（２）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	民生部　こども課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－４
事業内容	学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、町内の学童クラブ１０園中、民間施設を借用し運営を行っているクラブに対して一月50,000円の上限で家賃補助を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,548	2,310	2,310		
	(b)予算現額	1,548	2,310	2,310		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	1,548	2,310	2,310		
B．執行済額		1,540	2,310	2,270		
うち交付金充当額		1,232	1,848	1,816		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		99.5%	100.0%	98.3%		
予算の状況の説明		学童クラブの方々に交付金の趣旨を説明し、該当する学童クラブとの調整も順調に進め、当初予算に計上した額で計画通り執行することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学童クラブ家賃補助実施学童：5件（津嘉山学童クラブ、学童クラブわんぱく家、ドルチェ学童クラブ、こがね森学童クラブ、第二こがね森学童クラブ）	目　標	（5件）	（5件）	（5件）	（　）
	実　績	5件	5件	5件	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている5学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
児童の放課後の居場所を継続的に確保することにより、児童の健全育成を図る	目　標	（　）	（　）	（　）	（児童の居場所を確保し、児童の健全育成を図る。）	（　）
	実　績				児童の居場所を確保し、児童の健全育成を図ることができた。	
【H24,25成果目標】学童クラブ家賃補助実施学童：5件（津嘉山学童クラブ、学童クラブわんぱく家、ドルチェ学童クラブ、こがね森学童クラブ、第二こがね森学童クラブ）	目　標	（　）	（5件）	（5件）	（－）	（　）
	実　績		5件	5件	－	

進捗状況説明：・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている5学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。利用料を一人500円の値引きをしたり、行事費・人件費に回すことができた。保護者（児童）、学童クラブ双方ともに環境の改善が見られた。その結果児童の居場所を確保することにつながり、児童の健全育成を行うことができた。今後は、新規に開設する学童クラブで民間施設を賃貸して運営する場合には、同事業を活用し経営の安定化を図りながら子ども達の居場所づくりを支援していきたい。

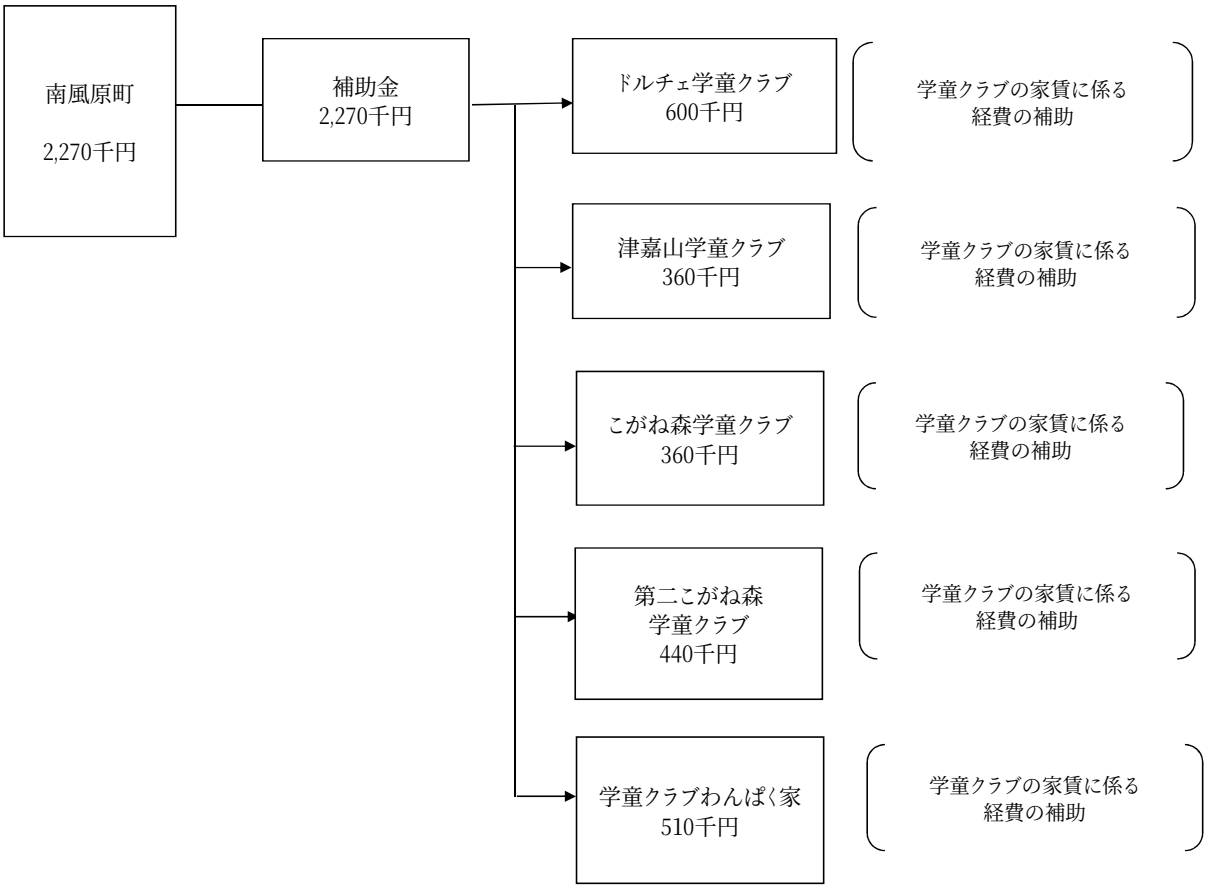
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、民間施設等で運営を行っている学童クラブに対して家賃の支援を行っている。支援を行っている学童クラブに聞き取り調査等をしたところ行事数の増加などが確認でき、環境の改善・保育の質の向上が見られた。さらに環境改善に努めていく。 ・家賃補助を支援している学童クラブに対し、支援前と支援後でどのような効果があったかどうかを検証する。 ・現段階での町内小学校の新設等の予定はなく、空き教室についても学級増が見込まれるため、公設民営化への移行は厳しい現状がある。他の公的施設も活用できないか検証していく。	・支援の効果（例：学童保育料の軽減）を見極め、事業の継続性を図っていきたい。また、支援を行っていない学童クラブとの比較も検証していきたい。 ・現在、他の公的施設の活用については町の施設財産担当に確認したが、公的施設に空きや使用できそうな建物がなく可能性が低い。

今後の取り組み方針

・今後も事業の継続性を図ると共に、現状の補助額が妥当なのか検証していく。また、学校以外の公的施設も活用できないか毎年検証していく。
・支援を行っていない学童クラブに対しても新規事業（例：母子家庭の利用料軽減等）を導入し、子ども達の放課後居場所づくりの支援をしていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,270	2,270	1,816	454	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法・予算規模については要綱に基づいて支給しており、妥当であった。 ○受益者との負担関係については、要綱に基づき実施しており妥当である。 ○費目、使途については事業目的達成の観点からも必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５-②	預かり保育事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（２）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－４
事業内容	幼稚園の教育時間修了後も引き続き園児の健やかな成長を支えるため、預かり保育教諭を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,183	1,255	1,255		
	(b)予算現額	4,183	1,255	1,255		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	4,183	1,255	1,255		
B．執行済額		85	1,133	1,145		
うち交付金充当額		68	906	916		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		2.0%	90.3%	91.2%		
予算の状況の説明		平成26年度においては当初の予算通り、概ね執行することができた。 平成26年度に公表されている成果目標では計画期間が、H25～H33となっているが、事業は平成24年度から実施しており事業実施期間はH24～H33が正しい。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
預かり保育　教諭配置　1名	目　標	（　4名　）	（　1名　）	（　1名　）	（　　）
	実　績	4名	1名	1名	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：教諭1名を配置することにより、1クラス35人から30人制を導入することができ、午後の保育を落ちついた雰囲気のなかで行うことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
預かり保育率（入園者に対する預かり保育申込園児数）　69.6%（前年度＋0.5%）	目　標	（　　）	（　63.0%　）	（　66.0%　）	（　69.6%　）	（　　）
	実　績		63.5%	69.1%	70.0%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：平成25年度から給食を開始したことにより、預かり保育の希望者数も増え、保護者のニーズに応えることができた。
また教諭1名を配置することにより、1クラス35人から30人とし、落ちついた環境作りをすることができた。
今後とも幼稚園の教育課程修了後の環境を整えることで、園児の居場所づくり、保護者の就労時間の確保へとつなげ，保護者が安心して子育てできるようを支援していく。

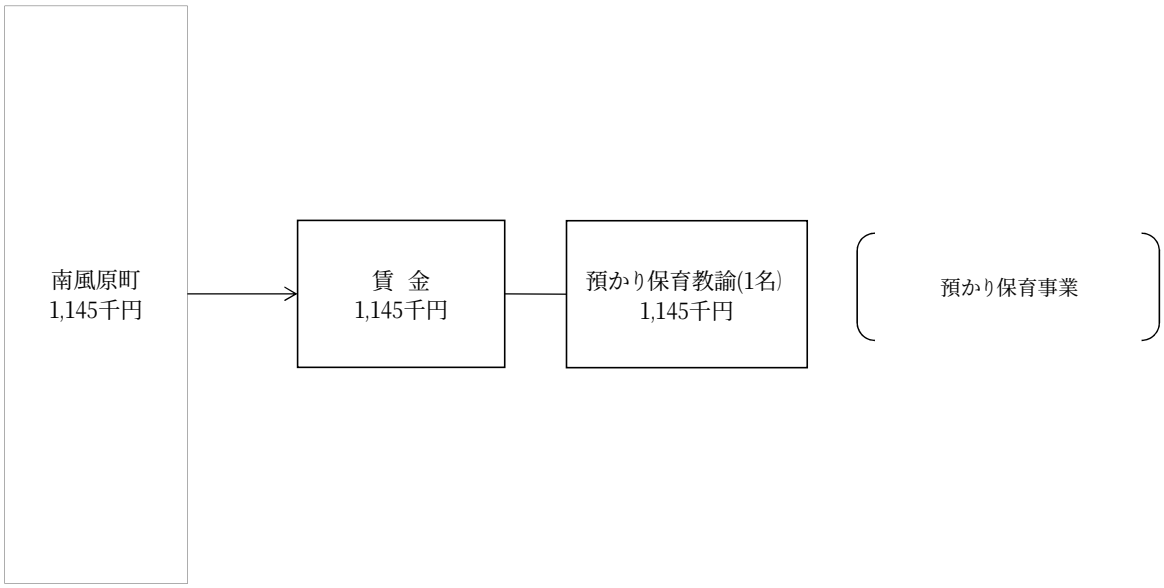
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・人的環境を整えることで園児の安全面を確保しながら、園児の自発的な活動に対応できた。 ・今後はクーラーを設置するなどして、午睡時の環境を整備するとともに預かり保育全体の環境整備を図る必要がある。 ・預かり保育時間を18:30まですることで保護者の要望に応えることができたが、預かり保育教諭の負担が大きく採用に困難をきたしている。 ・今年も全幼稚園に預かり保育担当を配置することができたが、採用においては、大変厳しい状況があった。	・今後とも子供達の自発的な活動を推進しながら、屋内外保育活動を積極的に進め、心身の調和の取れた発達を促していく。 ・教諭の採用を確保するために、預かり保育時間の体制づくり等を検証し、働きやすい職場づくりを整える必要がある。 ・保育士の賃金を改善し採用につなげていきたい。

今後の取り組み方針

預かり保育においても、地域のニーズに応え、幼児の健やかな成長に資する良好な環境整備に努めながら、園児が充実した幼稚園生活が展開できるよう対応していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,145	1,145	916	229	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○預かり保育教諭の選定については、採用時に面接を行い、保育士の有資格者あることを確認のうえ、採用しているので妥当である。 ○予算規模としては、概ね執行しているので適正である。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町の給与、勤務時間その他の勤務時間に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－③	幼稚園保育充実支援員配置事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－２－（2）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

平成２５年度より町立幼稚園の保育時間を正午までから午後2時まで延長し、併せて給食の提供も行う。給食の提供は、通常保育の担任と預かり保育教諭の2名体制で対応する予定ですが、預かり保育は、保護者の選択制のためクラス数が減る場合もあり、支援する職員を配置し安心･安全な給食時間を提供する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	958	487			
	(b)予算現額	1,647	487			
	(c)増減額(b-a)	689	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	1,647	487			
B．執行済額		1,070	430			
うち交付金充当額		856	344			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		65.0%	88.3%			
予算の状況の説明		平成２６年度においては当初の予算通り、概ね執行することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
充実支援員配置数　3名	目　標	（3名）	3名	（　）	（　）
	実　績	2名	2名		
（参考）給食提供関係備品の購入 配缶用台車、水切運搬車	目　標	（配缶用台車4台 水切運搬車1台）	－	（　）	（　）
	実　績	配缶用台車4台 水切運搬車1台	－		

達成状況説明

･給食支援員を配置することにより、給食を安心･安全に実施することができた。
･預かり保育のクラス数が増えたことにより、預かり保育教諭で給食の支援体制を整えることができるクラスが生じたため、予定していた3名から2名の配置となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
幼稚園就園率（公立幼稚園入園者数／町全体の5歳児）	目　標	（－）	（3名）	（就園率72%）	（　）	（　）
	実　績		2名	就園率73%		
（参考）給食提供関係備品の購入 配缶用台車、水切運搬車	目　標	（－）	（配缶用台車4台 水切運搬車1台）	（－）	（　）	（　）
	実　績		配缶用台車4台 水切運搬車1台	－		

進捗状況説明

･平成25年度から給食開始し、教育時間を延長したことにより就園率が5%と伸びている。（H25年度就園率６８%）

･給食支援員（2名）を配置したことにより、園児へ安心･安全な給食を提供できた。今後とも就学前の幼稚園教育の環境を整えていく。

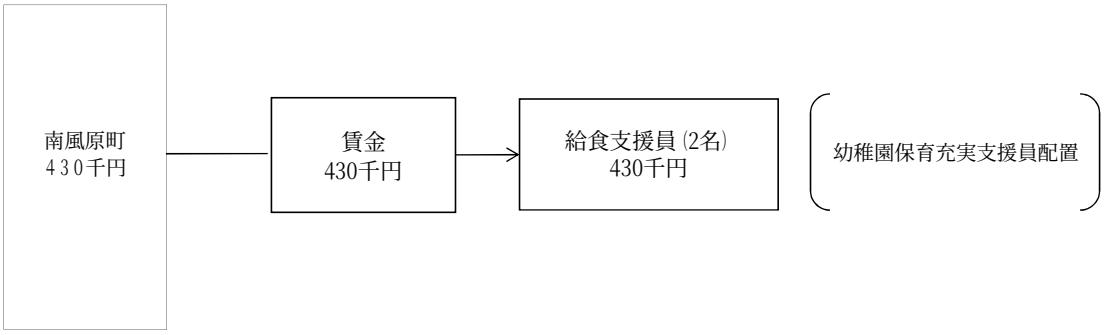
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	南風原町は、1年幼稚園であるため、園児は新しい幼稚園での給食を楽しみにしている。給食支援員を配置することにより各クラスとも2名体制で給食の準備、配膳にあたることで安心・安全な給食を提供することができた。	今後も、各クラス2名体制実施し、安心・安全な給食を園児に提供をしていく。今後も支援員を配置し、小学校へとつなぐ為の給食指導を推進していく。

今後の取り組み方針

今後も支援員を配置することにより、安心・安全な給食を園児に提供し、給食を通して食事のマナーを身につけさせるとともに、食に関する興味、関心を持たせる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
430	430	344	86	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、給食支援員の勤務時間が2Hと短いため保護者の中から選考している。 ○予算規模は少ないが事業内容と見合った額である。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町の給与、勤務時間その他の勤務時間に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－④	認可外保育施設環境整備事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（２）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	民生部　こども課	事業実施（予定）年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－４
事業内容	子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設整備に対して補助を行うことにより保育環境を向上させる。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,900	3,800			
	(b)予算現額	1,900	3,800			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	1,900	3,800			
B．執行済額		1,900	1,634			
うち交付金充当額		1,520	1,307			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	43.0%			
予算の状況の説明		当初予算では、2件の認可外保育施設に対する補助を実施する予定だったが、その内一ヶ所が県の待機児童対策特別事業補助金に該当することになったため、不用額が▲2,166千円生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
認可外保育施設　2カ所	目　標	（　1ヶ所　）	（　2カ所　）	（　）	（　）
	実　績	1ヶ所	1カ所		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設整備を行った。当初計画では、2件の認可外保育施設に対する補助を実施する予定だったが、その内一カ所が県の待機児童対策特別事業補助金に該当することになり補助を見送ったため、実績が1カ所となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	28年度
児童が安心･安全に過ごせるよう建物の安全性･快適性を確保することにより、児童の健やかな成長を促す	目　標	（　）	（　－　）	（建物の安全性を確保し、児童の健やかな成長を促す。）	（　）	（　）
	実　績		－	建物の安全性を確保し、児童の健やかな成長を促すことができた。		
【H25成果目標】認可外保育園の施設整備数：1ヶ所	目　標	（　）	（　1ヶ所　）	（　－　）	（　）	（　）
	実　績		1ヶ所	－		

進捗状況説明：子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育施設の整備を行うことができた。その結果、建物の安全性を確保し、児童の健やかな成長を促すことができた。今後も、他の認可外保育施設に対しても同事業を活用し施設の保育環境の向上を支援していきたい。

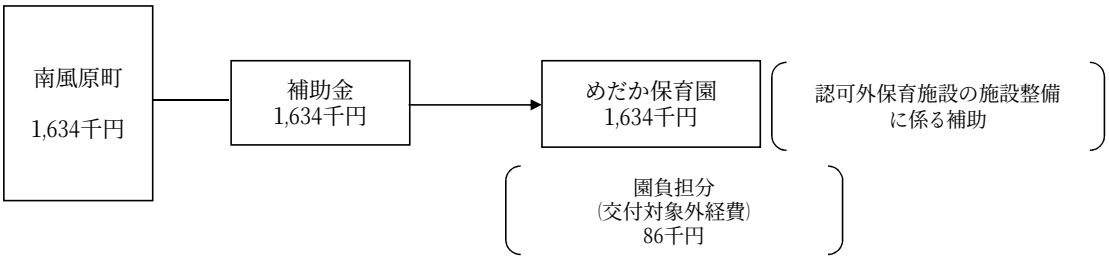
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設に対して、トイレと日除け工事をしたことにより設備の環境改善を図ることができた。 ・今回、施設整備を支援した効果があったかどうかを検証する必要がある。	・支援の効果を見極めるため、施設整備をした認可外保育施設に対して、支援後でどのような効果があったかを聞き取りや立ち入り調査をして検証する。

今後の取り組み方針

・今後も事業の継続性を図ると共に、支援を行っていない認可外保育移設（施設を賃貸している認可外保育施設）に対しても事業の導入を検討し、待機児童の受け皿となっている認可外保育施設の支援を行っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,720	1,634	1,307	327	86



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法・予算規模については要綱に基づいて支給しており、妥当であった。 ○受益者負担については、当該補助金交付規程により補助金の上限額及び設置者の負担額が定められており、妥当であったと考えている。 ○費目、使途については事業目的達成の観点からも必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－①	陸軍病院壕公開活用事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(2)

事業内容

本町は沖縄戦で人口の4割以上が犠牲になった。戦中は後方陣地として町全域に日本軍陣地が構築され、沖縄陸軍病院も置かれた。町では悲しい歴史を二度と繰り返してはいけないという強い決意をもって、陸軍病院壕群20号を整備した。県内外から訪れる多くの人々に戦争と平和、命について考えてもらう施設として公開活用の取り組みを行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,081	5,856	11,603		
	(b)予算現額	3,630	5,856	11,603		
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,451	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	3,630	5,856	11,603		
B．執行済額		3,630	5,536	10,776		
うち交付金充当額		2,904	4,428	8,620		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	94.5%	92.9%		

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
開壕日数　310日	目　標	(　308日　)	(　308日　)	(　310日　)	(　　)
	実　績	317日	310日	317日	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：定休日である水曜日も見学者側の要望によっては開壕したため、目標値よりも開壕日数が増えた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
見学者数　10,000人	目　標	(　9804人　)	(　9,700人　)	(　10,000人　)	(　10,000人)	(　10300人　)
	実　績		10,000人	9,498人	10,160人	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

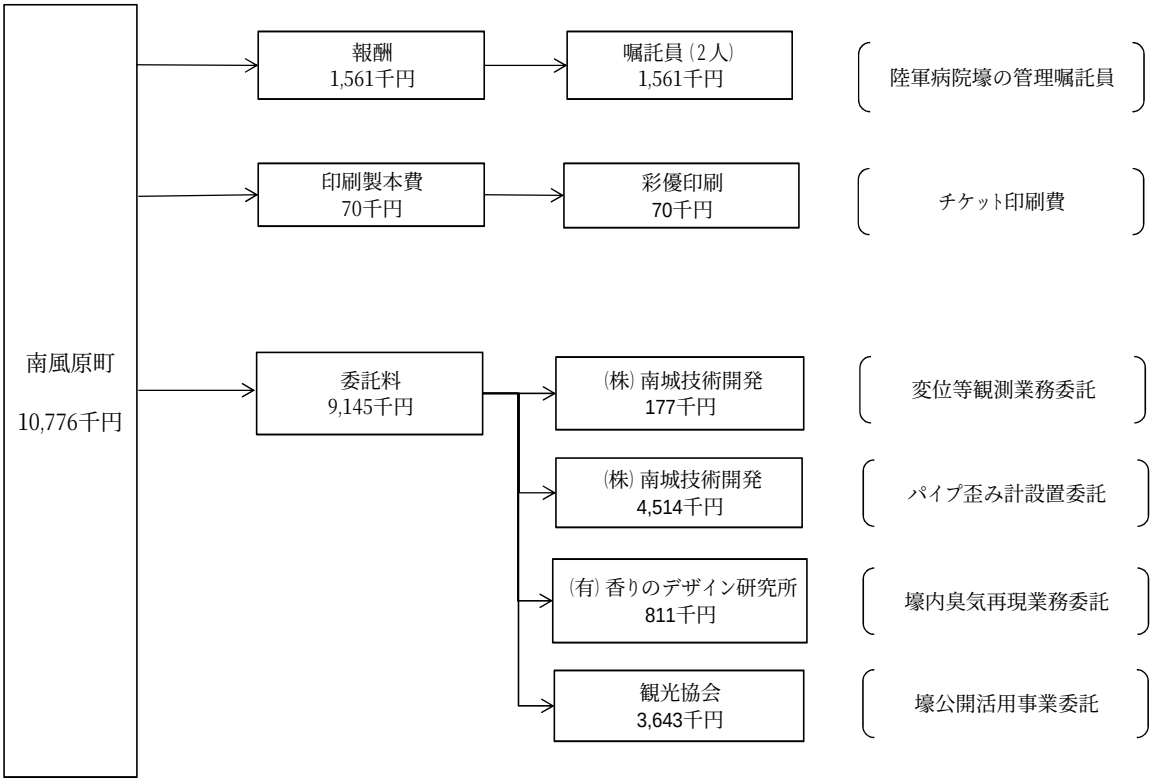
進捗状況説明：
・見学者は毎年増減があって安定していない。25年度は前年度に比べ約500人減少したが、26年度は24年度を上回り、目標を達成することができた。見学者側の要望を確認し定休日でも開壕したことも見学者の増加に繋がったと考えられる。
・概ね見学者数の目標は達成しているが、今後もさらに目標数を上回れるように親切丁寧な対応することを心掛け、場合によっては、休壕日の対応も考えて積極的に取り組む予定である。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・見学者数は約10,000人前後で推移している。平成26年度は、定休日である水曜日も開壕したことで目標値を上回る実績となり、それに伴って見学者数の実績も目標を達成することができた。今後も、見学者数の継続的な維持あるいは目標数の増加が図れるような取り組みを行う。	・南風原町観光協会など情報を共有しながら、平和学習をとおして平和を発信し、また懇切丁寧な対応でリピーターを増やすとともに、新規の見学者を誘致して見学者数の増加につなげていく。

・町観光協会と情報を共有し新聞やテレビ、インターネットなど平和学習の事業を広く発信し、沖縄陸軍病院壕の存在を広く広報し、認知度を高めていきたい。
・平和学習を予定している見学者（団体）に対する事前学習用資料等の提供を懇切丁寧に行い、継続して来壕してもらえるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,776	10,776	8,620	2,156	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式及び随意契約により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業に要する費用となっており適正である考える。 ○壕活用事業委託については、町の観光資源を活用するための組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託しており、妥当であると考えている。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－②	資料の公開活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	南風原文化センターに収蔵されている貴重な歴史資料をデータベース化して整理し、公開活用の幅を広げつつ後世へ継承していく。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,143	15,565	15,894		
	(b)予算現額	12,143	15,565	15,894		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	12,143	15,565	15,894		
B．執行済額		12,143	15,275	15,565		
うち交付金充当額		9,714	12,220	12,452		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.1%	97.9%		
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
データベース化資料数　50,000点	目　標	(　3,500点　)	(　50,000点　)	(　50,000点　)	(　　)
	実　績	3,500点	50,000点	78,000点	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：・南風原文化センターに収蔵されている「民俗」「考古」「戦争」「織物」「写真」「書籍」「移民」「ビデオ」「音声テープ」等の資料のうち、平成26年度は「写真」資料約7万点のデータベース化を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
データベース化割合　100%	目　標	(　　)	(　－　)	(　－　)	(　100%　)	(　　)
	実　績		－	－	100%	
【H24,25成果目標】収蔵資料のデータベース化済み資料割合	目　標	(　0%　)	(　3%　)	(　74%　)	(　－　)	(　　)
	実　績		3%	44%	－	

進捗状況説明：・平成26年度は当初50,000点としていた写真資料が、調査の結果その資料数が78,000点と予定より膨大な数であり、データベース化割合が増加している。資料点数は増加したが、年度内に業務を終了することができた。

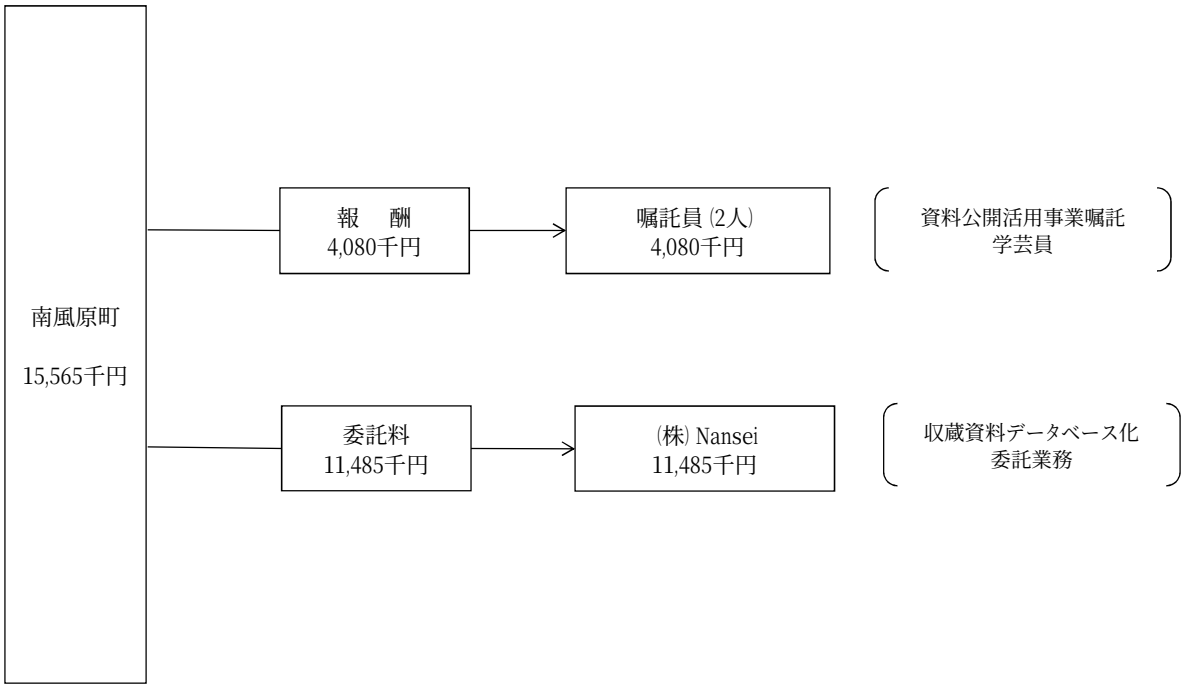
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・貴重な歴史資料の公開活用の幅を広げるため、収蔵している資料のうち平成26年度は「写真」資料を整理した。資料をデータベース化することで、検索が容易に行え活用の幅が広がった。 ・資料数が正確に把握できない資料などもあるため、効率よく登録業務が実施できるよう工夫を図る必要がある。	・効率よく登録業務が実施できるよう全体数を大まかに把握し、資料を分類しながら計画的に登録を実施する。

今後の取り組み方針

○次年度は、織物、ビデオテープ、音声テープ、移民資料を登録する予定であるが、登録する際には効率よく業務が実施できるよう計画的に行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,565	15,565	12,452	3,113	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○嘱託員については直営事業であり、予算規模・費目・使途など適正であると考えている。 ○委託業務は、指名競争入札によるもので適正であると考えている。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－③	子ども平和学習交流事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－(4)－エ
					文化の発信･交流
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(2)
事業内容	町内の小学校4校から6年生を１２人を選考し、事前学習で、戦争と平和(太平洋戦争の歴史、沖縄戦の状況や広島原爆の様子など)や差別･人権(ハンセン病に関すること、被差別部落など)を学習し、歴史の中での戦争や差別の問題を考える。 平成２６年度は、学童疎開７０周年に当たるため、疎開地へ赴き、学童疎開者たちの歴史を学ぶ。				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,561	1,435	2,588		
	(b)予算現額	1,561	1,435	2,588		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	1,561	1,435	2,588		
B．執行済額		1,451	1,283	2,254		
うち交付金充当額		1,160	1,026	1,803		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		93.0%	89.4%	87.1%		
予算の状況の説明		執行率が87%だが、子どもたちの平和学習の助成事業として、予定通りの事業執行ができた。執行残は、旅費の入札残による事業費残である。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
子ども平和学習交流会事業参加者数　12人	目　標	(　16人　)	(　12人　)	(　12人　)	(　　)
	実　績	16人	12人	12人	
達成状況説明	各小学校１２人が予定どおり選考され、事前学習と、疎開体験者も含み計画通り本研修を終えることができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
事前学習、本研修の後その報告会を開催や報告書の作成を通して、学習したことのまとめ、各自の考えを整理し、平和への意識向上、社会への洞察力を高める。	目　標	(　　)	(　－　)	(　報告会の開催　)	(　報告会の開催による平和への意識向上等　)	(　　)
	実　績		－	報告会の開催	報告会の開催による平和への意識向上等が図られた	
【H24成果目標】子ども平和学習交流会事業参加者数　16人	目　標	(　　)	(　16人　)	(　－　)	(　－　)	(　　)
	実　績		16人	－	－	
進捗状況説明	･事前学習後、本研修出発前に宿泊研修を含め、数回にわたる学習の成果を報告激励会で発表した。本研修は、学童疎開体験者と共に、疎開地を訪ね、体験者の生の声に耳を傾けた。沖縄から疎開した人と、受け入れた熊本や宮崎の皆さんとの交流も深めることができた。 ･平和学習終了後、研修で学んだことや自分の考え、意見をまとめて報告会で発表し総まとめとしての報告書を作成した。 ･平和学習交流事業で経験した事柄や報告書の作成を通して参加児童は、「平和は祈るだけではなく行動を起こしたい」「戦争体験者に聞いたこと、学んだことを伝えたい」「食糧が不足していた時代の人に、今の私たちの食べ物を分けてあげたい」等の感想をつづっており、平和への意識や社会への洞察力の高まりを感じた。					

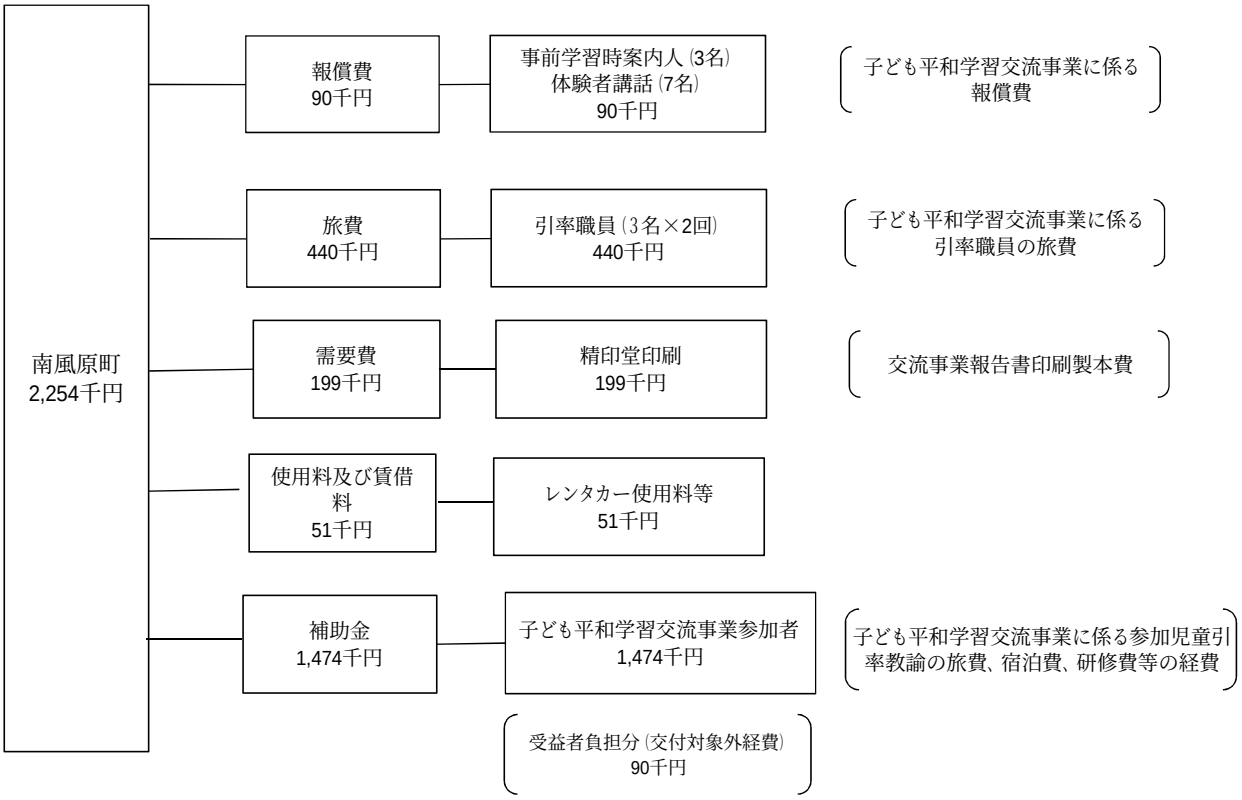
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・子ども達が平和学習を通して、戦争と平和、差別や人権などについて学習し、歴史の中での戦争や差別の問題を考える機会とするため、平和学習交流事業を実施している。平成26年度は、学童疎開70周年にあたるため、疎開地を訪ね実際に疎開を経験した体験者の生の声を聞くなど学童疎開に関する歴史を学んだ。児童達は、平和学習で体験した事や研修後の報告会等の活動が機会となり、平和に関する事や社会環境に関する意識が高まったようだった。 ・研修時間が限られているため、どうしても画一的な指導になりがちになってしまう。 ・児童の選考については、多くの児童に学習機会が与えられるような方法を検討する必要がある。 ・事前学習、本研修の学習だけでなく、事後の学習にもさらに力をいれてとりくめるように促す。	・他の学校の児童が一つの事業で出会い、戦争や平和、人権や差別といったデリケートな内容について学習するため、学習したことに対する反応も見ながら、参加児童それぞれの個性にあった丁寧な指導ができるように努めたい。 ・各学校に事業の主旨をしっかりと説明し、やる気のある児童の選考と、多くの児童に学習機会が与えられるよう他の派遣事業に参加した児童が重ねて選考されることがないよう学校に要請をする。 ・研修後の作文に時間を掛ける。（考える時間を増やす）

平和学習の内容と基本的な活動の柱をまとめ、子ども同士の交流、現地の自然や沖縄の同年代の方々がどんな風に戦中・戦後を生きてきたかを知るきっかけをさらに広げる。またＯＢ会との連携方法も確立したい。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,344	2,254	1,803	451	90



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出した。 ・事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ・受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担をを徴収しており妥当である。 ・費目・使途が事業目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－④	伝統芸能保存育成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－(4)－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(2)

事業内容

町内には数多くの伝統芸能がある。各字･自治会の伝統芸能の保存や継承への取組に必要な衣装や獅子舞などの道具の補修や買い換えに対し助成を行うことで伝統芸能継承を推進する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,700	5,000	3,000		
	(b)予算現額	5,700	2,852	3,000		
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 2,148	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	5,700	2,852	3,000		
B．執行済額		5,675	2,651	2,970		
うち交付金充当額		4,540	2,120	2,376		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		99.6%	93.0%	99.0%		

予算の状況の説明

･当初は6字に対して補助を行う予定だったが、申請は4字からとなったが、各字･自治会の伝統芸能継承を推進するための助成事業を行うことができた。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
伝統芸能保存育成補助件数　6件	目　標	(　10件　)	(　10件　)	(　6件　)	(　　)
	実　績	10件	5件	4件	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明

･町内の伝統芸能継承を推進するため、字(あざ)･自治会へ、伝統芸能保存や継承への取組に必要な衣装･楽器･道具の購入に対して4件の補助金交付を行った。
･活動目標の字(あざ)･自治会への伝統芸能保存育成補助事業件数は、２６年度で3年目となるためある程度補助金がゆきわたっているため申請件数が4件となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
年中行事等での伝統芸能上演等回数 67回	目　標	(　55回　)	(　67回　)	(　67回　)	(　67回　)	(　68回　)
	実　績		67回	67回	68回	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明

･伝統芸能の上演等される場である年中行事が復活(2行事)したこともあり、各字(あざ)･自治会への補助実施により伝統芸能上演等回数の増に繋がった。また、祭りや諸公演･発表会等へ、伝統芸能の衣装･楽器･道具が整い誇りを持って出演することができるようになった。

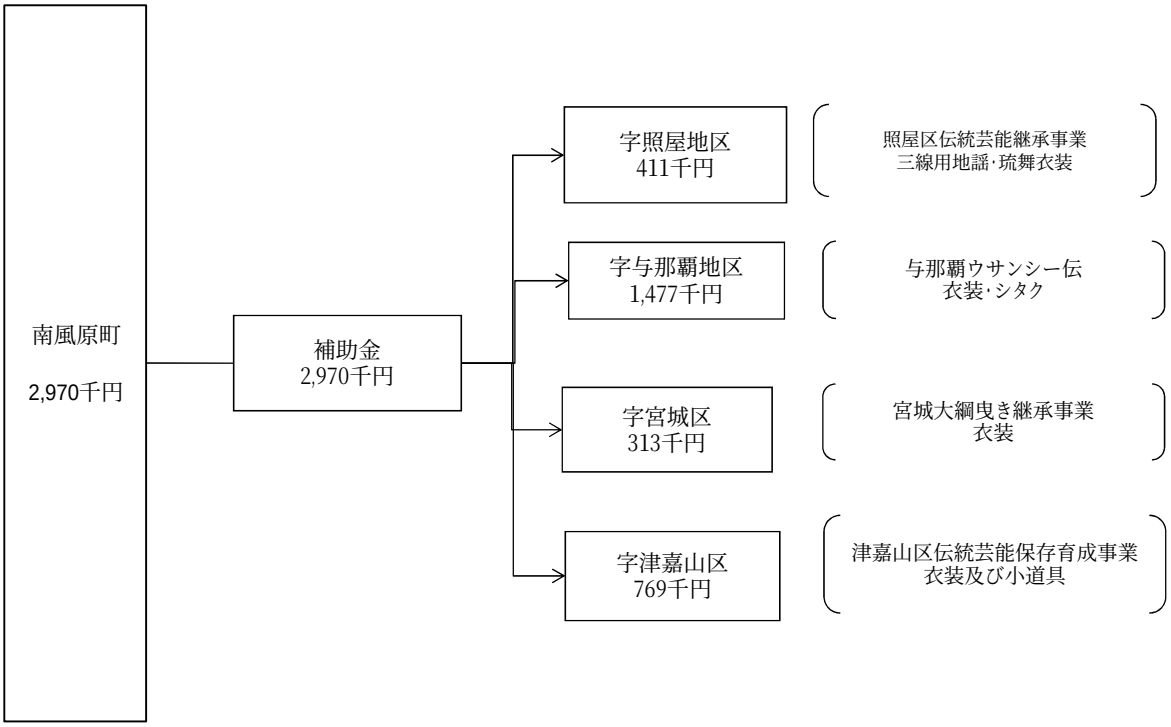
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・先の大戦で途絶えてしまった伝統芸能を復活するためには、諸先輩からの演舞など聞き取りしながら、実際の演舞は外部からの指導者を招き指導を仰ぐなど解決しなければならない課題がある。 ・年中行事の上演回数が毎年増えることはないため、評価に現れにくい面がある。 ・伝統芸能後継者を継承する後継者の育成していかなければならない。 ・社会環境の変化により練習場所の確保が難しくなっている。	・外部からの指導者を招き指導を仰ぎ伝統芸能の復活する。 ・年中行事すなわち伝統芸能も含めて継承してゆくことが必要であり、本事業で地域の伝統芸能を活性化する。 ・地域が伝統芸能継承できるように伝統芸能補助事業を継続して実施する。 ・地域と連携し練習場所の確保できるように実施する。

今後の取り組み方針

・平成26年度も各字・自治会への伝統芸能への保存や継承への取り組み（伝統芸能に必要な衣装・楽器・道具の購入）に対して助成を行い地域の伝統芸能の継承と取り組みが実施された。平成27年度に開催した民俗芸能交流会を継続して開催し、南風原町内外の伝統芸能演舞者を招き今後の地域の活性化につなげていくことが可能ではないかと思われる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,970	2,970	2,376	594	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先は各自治会に限定されるため妥当である。 ○補助事業者は各字（あざ）・自治会の伝統芸能保存継承の取組に対して積極的であり、妥当である。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき実施しており妥当である。 ○補助金の使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について南風原町振興特別推進交付要綱に基づき額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑤	南風原町海外移住者子弟研修生交付金事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－(1)－ア 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容	文化交流を推進するため、南風原町出身の海外移住者子弟を南風原町に研修生として受け入れ、移民の歴史はもちろん、相互の歴史と文化を学習させる。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,500	1,500	1,900		
	(b)予算現額	1,500	1,500	1,900		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	1,500	1,500	1,900		
B．執行済額		1,496	1,207	1,573		
うち交付金充当額		1,196	965	1,258		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		99.7%	80.5%	82.8%		
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
･受け入れ国の数　1ヵ国	目　標	(　1ヵ国　)	(　2カ国 ハワイ･ペルー　)	(　1カ国 ペルー　)	(　　)
	実　績	1ヵ国	2カ国 (ハワイ･ペルー)	(　2カ国 ブラジル･ペルー　)	
･受け入れ研修生の数　2人	目　標	(　2人　)	(　4人　)	(　2人　)	(　　)
	実　績	2人	4人	2人	
達成状況説明		予定ではペルーから二人であったが、先方の都合により、南米2カ国(ブラジル･ペルー)からの研修生が訪れ、それぞれの研修を重ねた。			

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
研修成果の報告会の開催を通して、関係者へのつながりの再認識と各自の役割を確認し移民の歴史や国際貢献の意識向上を図る	目　標	(　　)	(　－　)	(　報告会の開催　)	(　意識向上を図る　)	(　　)
	実　績		－	報告会の開催	報告会の開催により意識向上が図られた	
自国の研修生OB会への加入	目　標	(　　)	(　－　)	(　－　)	(　自国の研修生OB会への加入　)	(　　)
	実　績		－	－	自国の研修生OB会への加入	
【H24成果目標】①受け入れ国の数 ②受け入れ研修生の数	目　標	(　　)	(　①1ヵ国 ②2人　)	(　－　)	(　－　)	(　　)
	実　績		①1ヵ国 ②2人	－	－	
進捗状況説明		･沖縄の親戚をはじめ町民に研修内容の報告し、帰国後、町人会への研修報告会を開催した。 ･研修生達は、研修を通して二国間の関係や、日本語、三線、琉球料理の学習、シーサー製作、エイサー体験などを研修することで沖縄の文化を知り、親戚宅へのホームステイやつきあいの中から自分自身とのつながりの深さを再認識した。また、研修を通していろいろな方々と関わり、日本や沖縄の歴史認識、伝統文化を経験することから、これまで体験したことのない異文化体験の中で自分自身を見つめ、沖縄について理解を深め、各自の役割を自覚することができた。これまでの研修生とともに両国間の橋渡し役になっている。				

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町の出身者が移民した国からその子弟を迎えるために、相互に移民の歴史を理解する必要がある。 ・沖縄の歴史や文化に関心を持ってもらうため、研修内容の多様化を考慮する。また、さまざまな人との関わりから出会いの場を提供する。 ・研修中、研修生のホームステイをより充実したものにする。	・日本語の研修と会わせ、体系的な移民の歴史の講座なりを取り入れる。 ・研修期間中に、博物館や史跡見学等の研修をバランスよく取り入れる。 ・ホームステイ先の家族との繋がりをより深くするため、沖縄の文化・習慣をより多く学んでもらうために、見聞きしたものの意味や習慣の違いについては意識して説明、解説をつけるなどの配慮に心がける。

研修生ＯＢたちと積極的に情報交換し、今後の交流のあり方を話し合う。 研修中に各小学校での授業としての取り組みを強化し、それぞれが自国を紹介する機会を増やしたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,573	1,573	1,258	315	0

南風原町 1、573千円 → 交付金 1,573千円 → 南風原町海外移住者子弟研修生（ブラジル1人・ペルー1人） 1,573千円

（南風原町海外子弟研修生交付金事業にかかる費用 旅費、研修費等）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出している。また、事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ・支出先の選定、受益者との負担関係については、実施要綱に基づき整理しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－⑥	伝統文化交流施設活性化事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（４）－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（２）

事業内容

地域交流センターは、各地域に伝わる伝統芸能の発表の場、本土の中高生の平和学習の講演会･演奏会等に活用されているが、施設の備品の配置が不十分であるため、備品の整備を行うことにより施設の充実及び機能の強化を図り、今後の文化活動･伝統芸能の継承や他の地域との文化･伝統交流等、総合的な文化事業を展開し地域活性化に繋げる。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	37,756	6,953	2,258		
	(b)予算現額	36,067	6,056	2,258		
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,689	▲ 897	0		
	(d)前年度繰越額	－	-	-		
	A．計(b+d)	36,067	6,056	2,258		
B．執行済額		36,067	6,056	2,214		
うち交付金充当額		28,853	4,844	1,771		
次年度繰越額		－	-	-		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	98.1%		

予算の状況の説明

不用額が44千円発生しているが、備品購入費の入札残によるものであり、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
地域交流センター備品設備の整備（黄金ホールの演台･司会者台･花台）	目　標	（備品設備の整備）	（備品設備の整備）	（備品設備の整備）	（　）
	実　績	備品設備の整備	（備品設備の整備）	（備品設備の整備）	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

･黄金ホールの演台･司会者台、花台を整備した。
･整備したことにより施設の充実が図られ、文化活動･伝統芸能の継承の地域文化交流事業に活用ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
利用来場者数　12,000人 ･研修会･大会、フォーラム等	目　標	（　）	（－）	（10,000人）	（12,000人）	（　）
	実　績		－	10,770人	15,851人	
利用来場者数　3,700人 ･伝統文化交流イベント等	目　標	（　）	（－）	（－）	（3,700人）	（　）
	実　績		－	－	4,420人	
[参考：H24成果目標] ･地域交流センターの舞台装置等整備	目　標	（　）	（5件）	（－）	（－）	（　）
	実　績		5件	－	－	

進捗状況説明

･地域交流センターの施設備品を充実したことにより目標以上の利用者が訪れた。

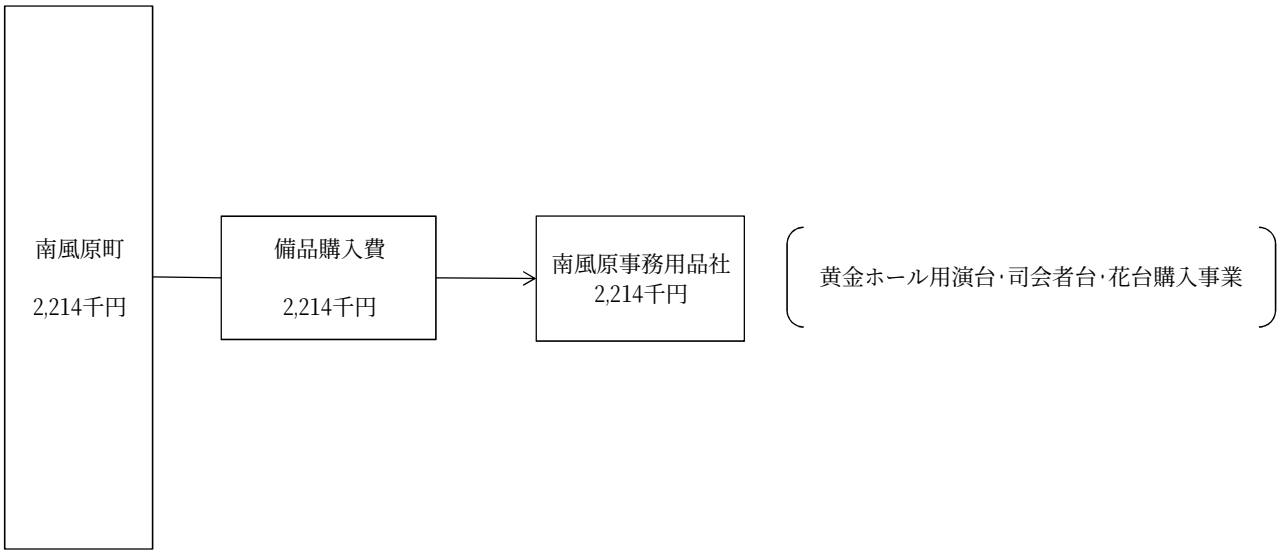
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	黄金ホールの演台・司会者台・花台を整備したことで、これまで対応が十分ではなかった各種研修会、セミナー、フォーラム、伝統交流会など、大人数で行う事業に対して活用できるようになった。	左記の状況から、今後の文化活動・伝統芸能の継承や他の地域との文化伝統交流等、多種多様なイベントに対応していき、地域活性化に繋げる。

今後の取り組み方針

上記の検証を踏まえ、今後の文化活動・伝統芸能の継承や他の地域との文化伝統交流等、多種多様なイベントに対応していき、地域活性化に繋げる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,214	2,214	1,771	443	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は指名競争により選定しており妥当であったと考えている。 ○予算規模は適正な規模であった。 ○購入した備品は、事業充実を図り活用し、費目・使途とも目的に即し必要なものに限定されており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑦	南風原町クサティ森等保全事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	経済建設部　区画下水道課	事業実施(予定)年度	平成２５～３０年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

南風原町の集落は首里の近郊にあり、王朝時代の集落形態を今に残している。集落のクサティ森には遺跡や御嶽(ｳﾀｷ)、殿(ﾄｩﾝ)、拝所などの史跡が多数ある。字津嘉山のクサティ森は沖縄戦で軍司令部壕が建設され戦跡としても重要である。
これらの歴史文化の保全継承及び文化資源を活用した観光振興を図るため、旧軍司令部壕の一部復元、説明板･散策道･休養施設整備等を行う。平成26年度は、整地等の工事と便益施設(ﾄｲﾚ)の設計を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	20,000	50,000			
	(b)予算現額	20,000	50,000			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	20,000	50,000			
B．執行済額		19,999	50,000			
うち交付金充当額		15,999	40,000			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		･平成26年度の計画事業をすべて実施し、当該年度の目標を達成したことから適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
･津嘉山の殿(ﾄｩﾝ)周辺の整地等の工事	目　標	（　－　）	（殿周辺の整地等工事）	（　）	（　）
	実　績	－	殿周辺の整地等工事		
･便益施設の設計	目　標	（　－　）	（便所の設計完了）	（　）	（　）
	実　績	－	便所の設計完了		
【H25活動目標】 ･基本計画の策定及び一部実施設計	目　標	(基本計画及び実施設計の策定)	（　－　）	（　）	（　）
	実　績	基本計画及び実施設計の策定	－		
達成状況説明	･平成26年度の目標のとおり、津嘉山の殿(ﾄｩﾝ)周辺の整地等の工事及び便益施設(便所)の設計を完了した。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
･整地工事の完了	目　標	（　）	（　－　）	（整地工事の完了）	（　）	（　）
	実　績		－	整地工事の完了		
･便益施設の設計の完了	目　標	（　）	（　－　）	（便益施設の設計完了）	（　）	（　）
	実　績		－	便所設計の完了		
【H25成果目標】 ･クサティ森等の基本計画策定 津嘉山の殿(ﾄｩﾝ)周辺の実施設計	目　標	（　）	(基本計画及び実施設計の策定)	（　－　）	（　）	（　）
	実　績		基本計画及び実施設計の策定	－		
進捗状況説明	･整地工事と便所設計が完了し、27年度は散策道･案内板及び便所等の工事に着手する。さらに27年度は地域要望により集落内広場の設計及び工事を行う。					

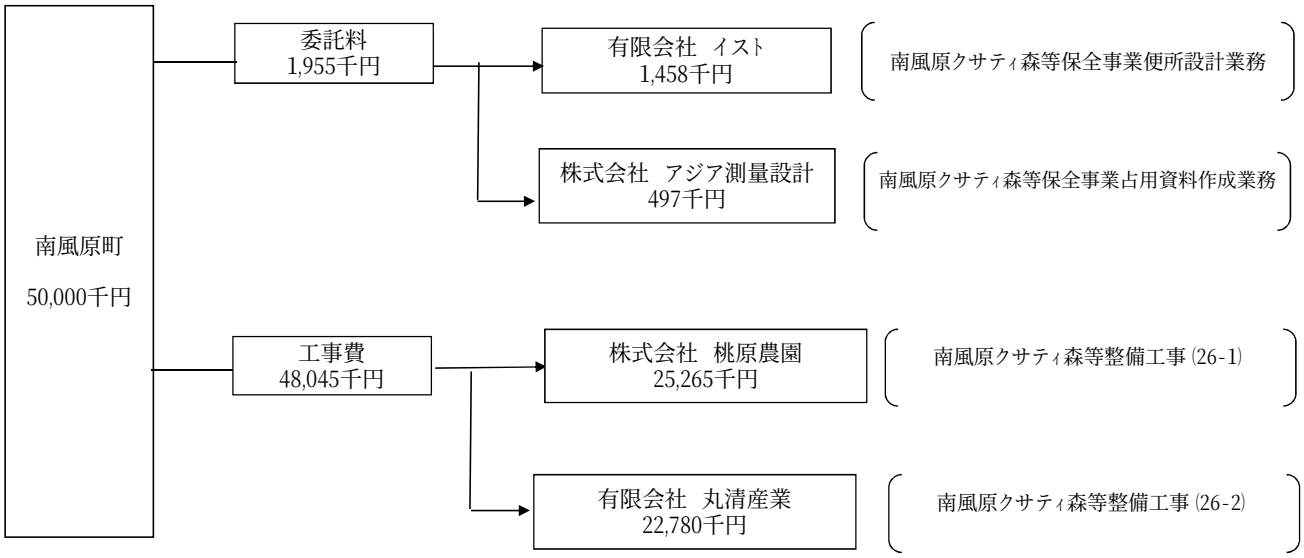
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・文化資源を活用した観光振興を図るため、津嘉山の殿(ﾄｩﾝ)周辺の工事を行っているが、地域において伝統行事の大綱曳きを平成28年度に行いたいため、綱曳き行事に使われる集落内広場の整備を先に行ってほしいとの要望がでた。	・大綱曳きを行うことによる観光客の誘客等は本事業の趣旨に合致するものであり、スケジュールを一部変更し、平成27年度に集落内広場の設計及び工事を行う。

今後の取り組み方針

・大綱曳きにあわせ、平成27年度に集落内広場の設計及び工事を行い、平成28年度に広場を供用する。平成28年度に津嘉山の殿(ﾄｩﾝ)周辺の工事を完了し、平成29年度に供用する。さらに平成29年度以降、集落のクサティ森の散策道整備等を行う。供用部分については、観光協会等と連携し、観光案内を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
50,000	50,000	40,000	10,000	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は指名競争入札により選定しており妥当である。但し、占用資料作成業務は、随意契約により契約したが地方自治法施行令第167条の2による随意契約可能額であり妥当である。 ○便所設計業務は建築設計業務等積算基準、整備工事は土木工事積算基準書等を用い予算を算出しており適正である。占用資料作成業務は地方自治法施行令第167条の2により3社見積もりにより、決定しており妥当である。 ○事業実施に必要な委託業及び工事のみへの支出に限定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－⑧	南風原町民俗芸能交流会開催事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２６年～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

平成15年度までに25年間継続し、一旦終了した事業であるが、伝統芸能が各地で盛んになり、復活を期待されている演目も多々ある。これまでの実績を踏まえ、新たな世代に地域の伝統芸能を継承することを願い、また地域の伝統芸能を創造する。他地域との出会い･交流は喜びと知恵を生み、日常生活の生きる糧として地域の活性化を図る。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,050				
	(b)予算現額	1,050				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	1,050				
B．執行済額		970				
うち交付金充当額		776				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		92.4%				

予算の状況の説明：5団体の出演もあり、予算の執行率も高い。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	27年度
休止している伝統芸能の復活	目　標	（　伝統芸能の復活　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	伝統芸能の継続と復活			
参加字の数:町内外から5箇所	目　標	（　町内外から5ヶ所　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	町内から6字8演目			

達成状況説明：10年ぶりに復活した「民俗芸能交流会」では、予定以上に各字の演目の復活を見、町内6字だけでも、組踊2題(一題は一場面のみ)を含む、8演目が上演された。民俗芸能は、各字ごとの伝統文化であり、その取り組みの努力が評価される。これまでの交流会では、多市町村の芸能を招いて行われたが、復活した今回は、町内のみの復活芸能でプログラムが埋まった。今後に大いに期待が寄せられる。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
芸能交流会参加者　450人以上	目　標	（　　）	（450人以上）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		５００人			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：今回の「民俗芸能交流会」の復活は、時期を得たものであり、各字が刺激し合って、地域の埋もれた芸能を区民の努力によって、復活させることができた。芸能は青年たちの地域に対する意識を高め、自分たちの文化や歴史に誇りを持ち、先輩たちとの絆を深めることができた。

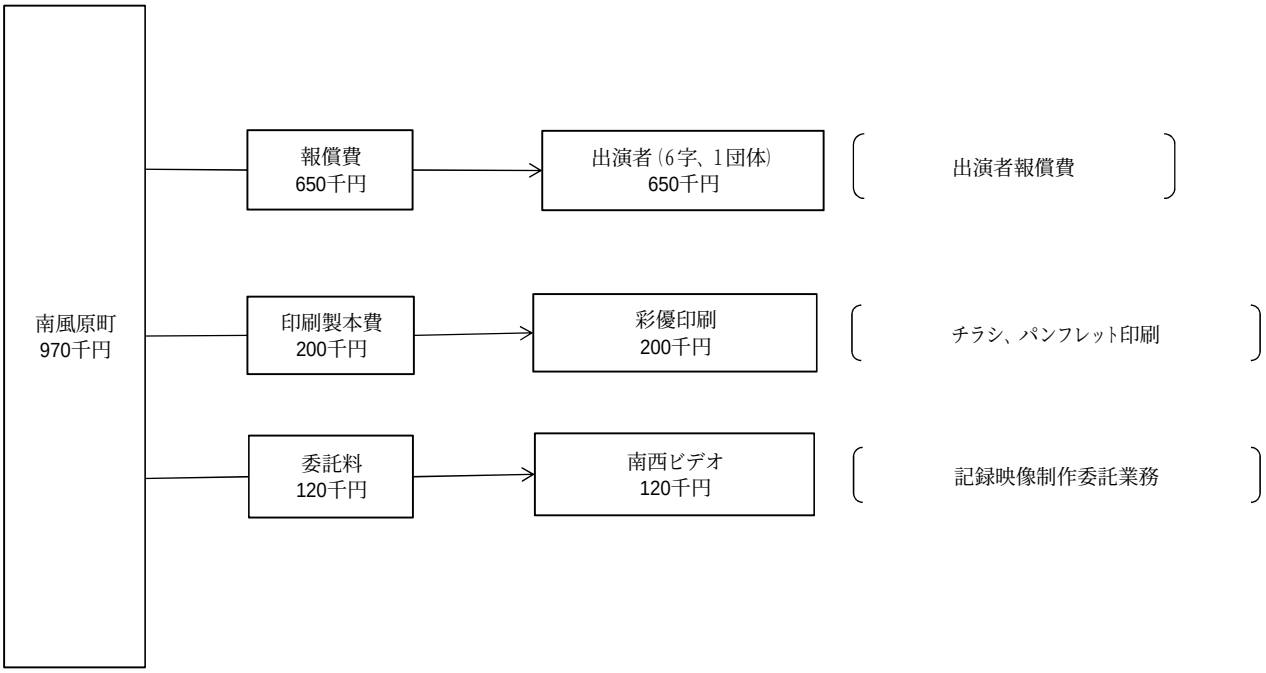
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新たな世代に地域の伝統芸能を継承し、地域の伝統芸能を創造するため、民俗芸能交流会を開催した。 ・これまで25年にわたり開催してきた芸能交流会の10年ぶりの開催は、ふたたび民俗芸能熱を湧かせる。そのために各字の保存会が情報交換しやすいように、南風原町民俗芸能保存会を立ち上げ、その役割を果たす必要がある。 ・町の文化財指定された芸能だが、現在途切れている地域の芸能について復活を検討する必要がある。 ・今後、相互の刺激と切磋琢磨のため、他の地域を招待するための予算と受け入れ体制を整える必要があり、さななる調査・検討が必要である。	・各字で復活の機運があがる芸能について、できる限りの資料や情報の提供を行う。（映像記録・町史民俗芸能の記述など） ・行政での文化財指定芸能の現況の把握を行い、地域の理解を得るながら、復活するへの協力をする。 ・他地域の同演目情報を積極的に取り入れ、復活のための協力をする。復活に向けての予算措置を考える。（補助金の交付など）

今後の取り組み方針

出演していただく地域、演目については調査員が精査し、南風原町の出演予定の演目との関連性や復活にふさわしい影響力のある演目を選定したい。互いに上演、交流することによって、今後の民俗芸能の継承発展に寄与できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
970	970	776	194	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・出演団体の選定については、各字、南風原町民俗芸能保存会と相談し妥当な選択であった。 ・予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。 ・費目、使途については、無理無駄なく必要なものに支払いされ妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－⑨	プロジェクトヒュート補助事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(1)－ア 地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２６～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(2)

事業内容

平成２４年度に、南風原町のローカルヒーロー「かぼっちゃマン」を引き継ぐ形で、新しいキャラクター「南風原新伝説飛勇人(ひゅーと)」が誕生し「チームTHE飛勇人(ひゅーと)」として活動している。南風原町の伝説、課題や話題などをモチーフにしたショーを通して、多くの人々に町の伝承文化や行事などの普及に努めている。その活動意義は大きく、新たな地域活性化、人と人との交流を生み出すためにその活動に対して支援を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,956				
	(b)予算現額	1,956				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	1,956				
B．執行済額		1,465				
うち交付金充当額		1,172				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		74.9%				

予算の状況の説明

チームTHE飛勇人からの補助金申請が9月のため、年間予算の執行ができず予算残が出たため執行率は低いが、事業内容は適正に実施した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
･学校等公演の充実と強化	目　標	（　充実と強化　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	充実と強化			
･年間公演回数:5回	目　標	（　5回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	5回			

達成状況説明

活動は予定通り5回の公演ができた。イベント･ショーへの出演　(･南風原町体協、･ふるさと博覧会、･新春飛び安里凧あげ大会、･ウルトラマンイベントの受付、･絆ヒーローズ大戦2015inなは)
ショーの場合、握手会など、関わり方はさまざまで、脚本づくり、録音、練習は時間をかけて、充実させた。ショーの反応は良く、今後の見通しをたてることができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(　年度)
･地域の伝説や民話の理解を深めた:６０%(イベント時のアンケート結果)	目　標	（　）	（60%）	（　）	（　）	（　）
	実　績		回収できず			
･新しいキャラクターに楽しさや親しみを覚えた:６０%(イベント時のアンケート結果)	目　標	（　）	（60%）	（　）	（　）	（　）
	実　績		回収できず			
･町内各字の伝統文化の啓発を図る。	目　標	（　）	（啓発を図る）	（　）	（　）	（　）
	実　績		啓発を図った			

進捗状況説明

･チームTHE飛勇人のキャラクターやショーを見た小学生達からは、ローカルで、新鮮なキャラクターに興味を持ったとの意見、大人からはその素朴感に愛着が湧いたなど個別の意見や感想が寄せられた。しかし成果目標の実績を評価するためのアンケートについては、メンバーが出演と機材の担当、音響照明の裏方等に回ったことで多忙となり、アンケートの配付･回収する担当に人員を配置できなかった。そのため、成果目標の実績を評価するアンケートの回収ができなかった。事前の準備に万全を期すべきであった。
･チームTHE飛勇人のキャラクターは、町内の地域で語り継がれる伝説や民話をモデルにしたものである。そのため、町内の小学校から町を紹介する授業で呼ばれるようになった。また、隣接する町のイベントにも呼ばれ協力してステージを作るなどの機会を得た。町内外においてショーの開催やキャラクターを紹介する等の活動を披露する機会を通して町の伝統文化の啓発を図ることができた。
･脚本の内容や録音、演出に一定レベルの評価を得ることができた。

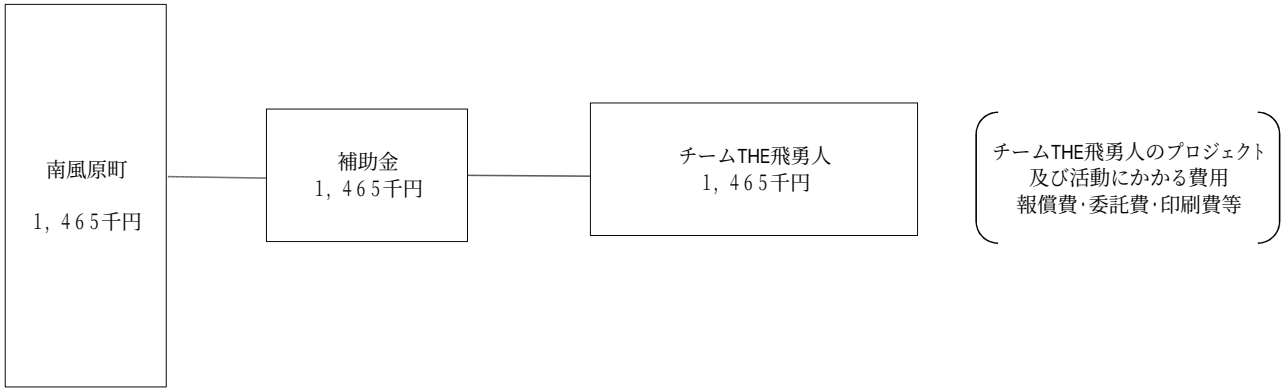
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町の伝説や話題などをモチーフにしたショーを通して、多くの人々に町の伝承文化や行事などを普及する活動をしている団体（チームTHE飛勇人）に対して支援をした。 ・チームTHE飛勇人のメンバーそれぞれの仕事が忙しくなり、活動の時間が制約された。そのため、事務局、公演時の裏方スタッフが不足した。 ・広報活動に力を入れようとするが、積極性が足りず、配付資料も充分ではなかった。 ・個別の感想や意見は寄せられているが、成果目標の実績を評価するためのアンケートが回収できず、目標を達成することができなかった。	・週間、月間、年間計画をより具体的にし、公演時の裏方スタッフの確保に努める。 ・広報活動の強化と工夫をする。また、公演の機会を増やすため、町内の小学校や児童館と連携する。 ・観客の確実な感想や反応を把握し、ショーの効果が検証できるよう、アンケートを作成して、効果の向上に努める。また、配付・回収スタッフの確保や回収方法の工夫に努める。

今後の取り組み方針

・キャラクターがそれぞれ、伝説や民話から生まれているので、その地域との連携を考えた取り組みをしていきたい。
・学校や児童館、保育園、幼稚園等で教材としていかされる内容や、資料の制作に力を入れていく。
・観客の感想や反応を把握するため、アンケートの配付・回収を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,465	1,465	1,172	293	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的に沿った団体への支出のため、選定は妥当である。 ・事業に必要な報償費、委託費、需要費を見積もり等を精査し支出している。 ・事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ・受益者との負担関係については、必要に応じて、会費より捻出し、交付金の使途は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-⑩	戦争証言資料管理システム導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(5)－イ 戦後処理問題の解決
担当部課名	民生部　こども課	事業実施(予定)年度	平成２６～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

国内で唯一住民を巻き込んだ地上戦が行われた沖縄においては多くの住民が火の海、銃砲弾の雨にさらされ悲惨な状況の中で傷病を受け、また死亡し、戦闘参加者となった。そういう過去を風化させず後世に語り継ぐことができるよう、援護業務で得られた戦時中の生の証言資料を整理し、平和事業や平和学習に活用する。そのため、南風原町で保管する紙ベースの戦没者台帳をデータベース化し戦没者遺族等から得られた戦没時の悲惨な実態証言を加えたシステムを構築し管理する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	7,384				
	(b)予算現額	6,348				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,036				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	6,348				
B. 執行済額		6,002				
うち交付金充当額		4,802				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		94.5%				

予算の状況の説明

戦争証言資料管理システム導入費の仕様を精査した結果、事業費の積算を変更したことから、1,036千円減額しているが、当初計画した事業内容はすべて実施した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
戦争証言資料管理システム基礎データの整備 (戦没者約4，700名分のデータ)	目　標	（データ整備 4,700名分）	（　）	（　）	（　）
	実　績	データ整備 4,178名分			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

戦争証言資料管理システムの基礎データ整備を実施した。目標は、4,700件であったが、台帳整備における手書きの古い内容の台帳を見ての入力作業は、遺族、戦没者の関係･現状･状態等の記録の解読に時間がかかりすべて完了するのは難しい状況であった。そのため、目標が件数を達成することができなかった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
戦争証言資料管理システム基礎データの整備率:100%	目　標	（　）	（100%）	（　）	（　）	（　）
	実　績		80%			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

基礎データには戦没者の「死亡場所」「死亡理由」「身分」「年齢」などが含まれており、整備したことによりその内容や件数の把握ができるようになった。文化センターにおいて、統計や平和学習に活用する予定である。
平成26年度におこなった基礎データの整備については、資料の解読に時間がかかり100%達成が厳しい状態であったが、最終的には80%を達成することになった。平成27年度は残りの20%と戦争証言の整備100%を目指す。
戦争証言は基礎データに追加していくが、基礎データが整備されていることにより、作業がスムーズに進むと期待される。

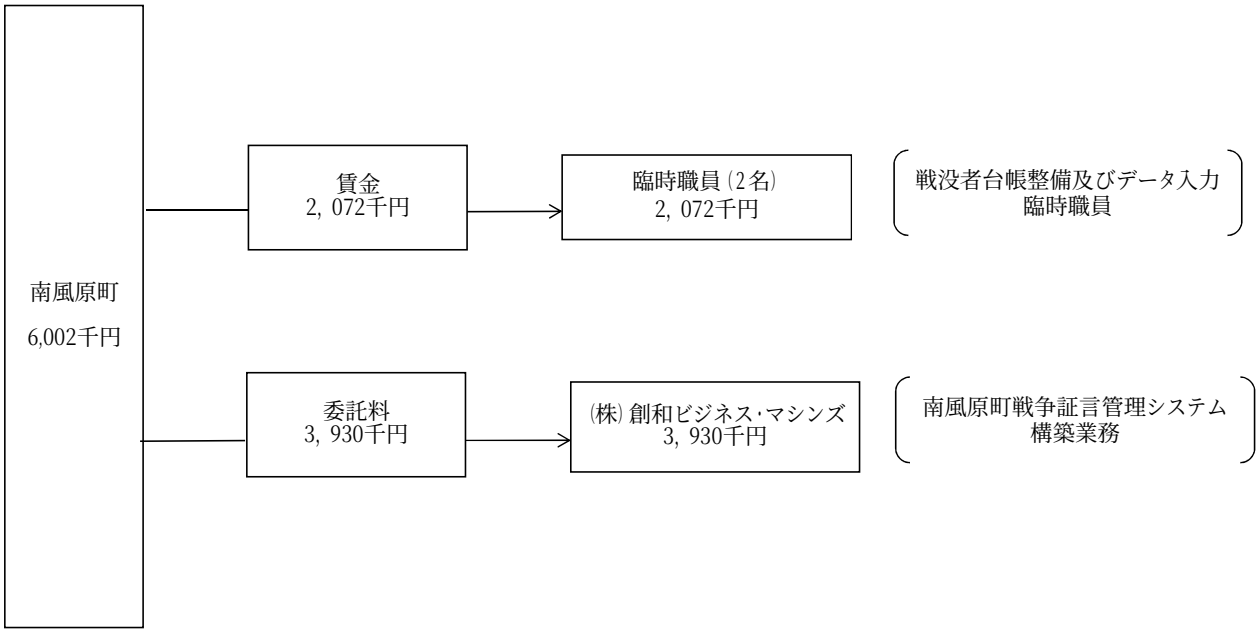
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平和事業や平和学習に活用するため、町で保管する紙ベースの資料をデータベース化するシステム導入をし、平成26年度は、戦争証言資料管理システム基礎データの整備を行ったが、手書きの古い内容の台帳を見ての入力作業は、遺族、戦没者の関係・現状・状態等の記録の解読に時間がかかりすべて完了することはできなかった。	・資料が紙のため、すでに劣化が進みボロボロの状態のものもあり、解読に時間がかかるため、平成27年度は、システム整備人員を2人から3人へ増員し事業を実施する。

今後の取り組み方針

戦後間もない時期に戦没者の遺族等から得られた資料（証言）は、戦争体験者の記憶がまだ新しい時期にまとめられたもので、当時を知るうえで大変貴重な資料である。平成27年度において戦争証言資料管理システム基礎データの整備及び戦争証言資料の整備を終え、平成28年度には、文化センター等において平和事業や平和学習に活用できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,002	6,002	4,802	1,200	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はでたが、事業費の6%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7－①	長寿県復活食の応援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－ア 沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進
担当部課名	民生部保健福祉課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

「健康長寿おきなわ」の復活に向けて、町民へ沖縄県や南風原町の食習慣の実態や課題を伝え、生活習慣病の発症や重症化を予防するために食習慣の改善方法を提供する。ライフサイクルに応じたバランス食の啓発や広報等の取り組みを行うことにより、日常の食生活の改善及び生活習慣を再構築するための支援を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	7,875	4,959			
	(b)予算現額	5,481	4,959			
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,394	0			
	(d)繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)	5,481	4,959			
B. 執行済額		5,313	4,747			
うち交付金充当額		4,250	3,797			
次年度繰越額		-	-			
執行率（%）(B/A)		96.9%	95.7%			

予算の状況の説明：・入札によりレシピ集が、予定価格よりも低く作成できたため、執行率95.7%となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
健康長寿復活講演会の実施 1回	目標	（－）	(1回)	（）	（）	（）
	実績	－	1回			
健康レシピの作成 12,000部→各世帯配付	目標	（12,000部）	各世帯配付	（）	（）	（）
	実績	（12,000部）	各世帯配付			
公用車のラッピング 5台→年間を通し、公用車で広報(野菜の必要性・基準量啓発のため)	目標	（－）	(年間を通し、公用車で広報)	（）	（）	（）
	実績	－	年間を通し、公用車で広報			
横断幕の作成 12枚→年間を通し小・中学校周辺に掲示(野菜の必要性・基準量啓発のため)	目標	（－）	(年間を通し、小・中学校周辺に掲示)	（）	（）	（）
	実績	－	年間を通し、小・中学校周辺に掲示			
マグネットの作成 700枚→200枚配付(野菜の必要性・基準量啓発のため)	目標	（－）	(200枚)	（）	（）	（）
	実績	－	(150枚)			
【追加】エコバックの作成(野菜の必要性・基準量啓発のため)	目標	（－）	(700枚)	（）	（）	（）
	実績	－	(700枚)			

達成状況説明：
・健康長寿復活講演会を実施することが出来た。
・油を控え、野菜の摂取量を増やすレシピを12品考案し、健康レシピカレンダーとして作成。町民へ啓発を図るため各世帯(12,000世帯)へ配付した。
・野菜の必要性、基準量啓発のための公用車ラッピング、横断幕、マグネット作成した。町内の小中学校周辺に横断幕を年間を通して掲示し、ラッピングした公用車で町内外を移動することで、視覚的な啓発を図ることができた。また、マグネットは妊婦を対象に妊娠期における妊婦への食生活指導を目的に母子手帳交付時に配付を行った、配付期間中に計画していた手帳発行者数がなかったため、目標を達成することができなかった。
・エコバックは当初計画に予定がなかったが、より具体的に野菜の必要量がイメージ出来るようにするため作成した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
講演会参加者数 100人	目標	（）	（－）	(100人)	（）	（）
	実績		－	(100人)		
野菜の必要性、野菜の基準量、野菜を多く摂取する方法等の認知度 30%	目標	（）	（－）	(30%)	（）	（）
	実績		－	(29.9%)		
	目標	（）	（）	（）	（）	（）
	実績					

進捗状況説明：
・健康長寿復活講演会は目標数の100人を達成することが出来た。また、講演会受講者からは「沖縄県、南風原町の長寿県転落はショックである。料理の方法、油の使い方、野菜の取り方など考えていきたい」「油の取り方が心疾患に大きな影響を与えることが、料理のの方法により病気を防ぐことが分かった」等の声が聞かれた。
・健康レシピカレンダーの配布、公用車ラッピング、マグネット作成を行った。それらを活用し各保健事業対象者へ保健指導を通し油を控える調理法、野菜の必要性・基準量について周知を行ったが目標の30%にはわずかに届かなかった。

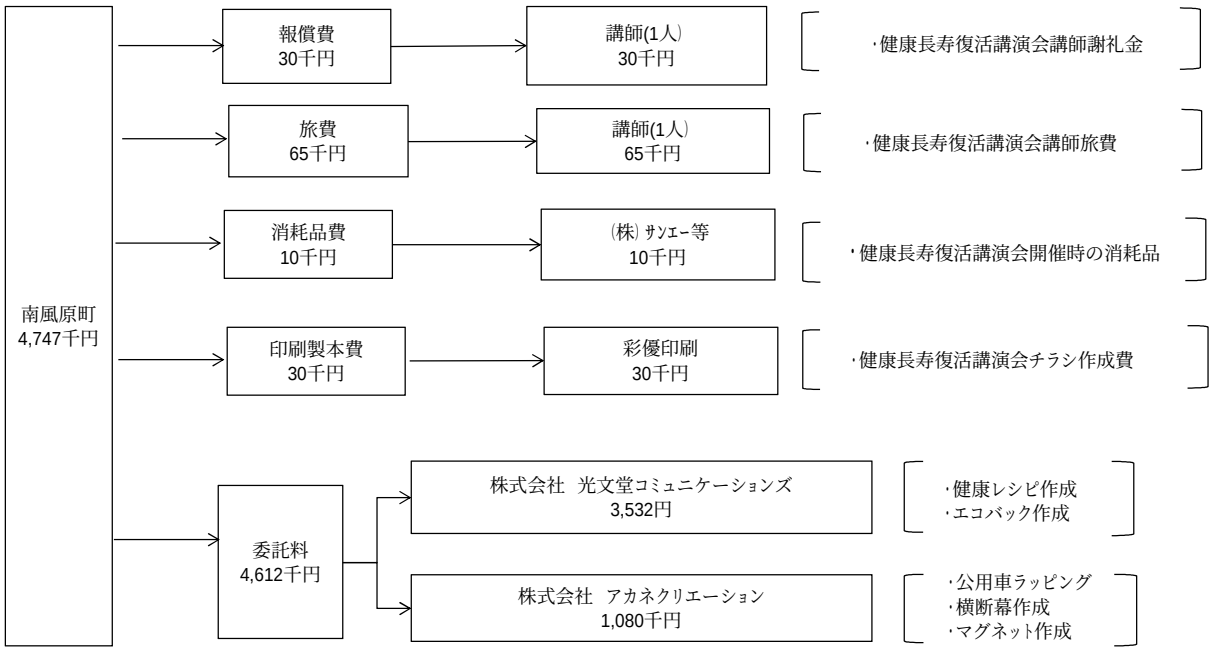
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・健康レシピカレンダー等を通して保健指導や栄養指導を実施しているが、町民の食生活を改善するためには、継続した指導が必要であることがわかった。 ・食生活の基礎作りは胎児期からの取り組みが必要であるため、妊娠期における妊婦への食生活指導は重要である。そのため妊婦への食生活指導、特に野菜摂取の必要性を重点的に指導していく必要がある。 ・保健事業利用者への周知を重点的に取り組む対象者としているが、平成26年度は保健事業利用者数が少なかったため目標を達成できなかった。	・油を控え、野菜の摂取量を増やすレシピを追加し、町民への継続した情報提供や周知活動を行って行く。 ・ライフサイクルを通して、野菜の基準量、必要性を周知していく。具体的な視点として、母子手帳発行時に野菜の必要性・基準量啓発を伝えるマグネットの配付に加え、野菜基準量が把握できるエコバックを活用し保健指導を行い、野菜摂取必要性のイメージ化につなげる取組を行う。 ・保健事業利用者数の増加を目指し、特定健診や乳幼児健診の未受診者対策と連携する。

今後の取り組み方針

・健康長寿の復活を目指し、今後も継続して町民へ①個々人の基準量を伝える(主に野菜と油）②食品に含まれている油の量を伝える③油を使わない料理、野菜の摂取量を増やす料理を伝えることを活動目標に事業を展開していく。
・平成27年度は、健康レシピカレンダーの全世帯配布に加え町内事業所への配布を追加し、周知を図りたい。また、胎児期からの取り組みとして妊婦から始まる生活習慣病予防を充実させ、各ライフステージに見合った生活習慣病予防の徹底を図りたい。
・野菜の必要性や基準量、多く摂取する方法の周知を図ることができるよう保健事業利用者数の増加を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,747	4,747	3,797	950	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名型プロポーザル方式による実績・趣旨理解等を勘案したうえでの選定、町契約規則に基づく指名競争入札による選定を行っており妥当であったと考える。 ○予算規模や費用・使途については、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	